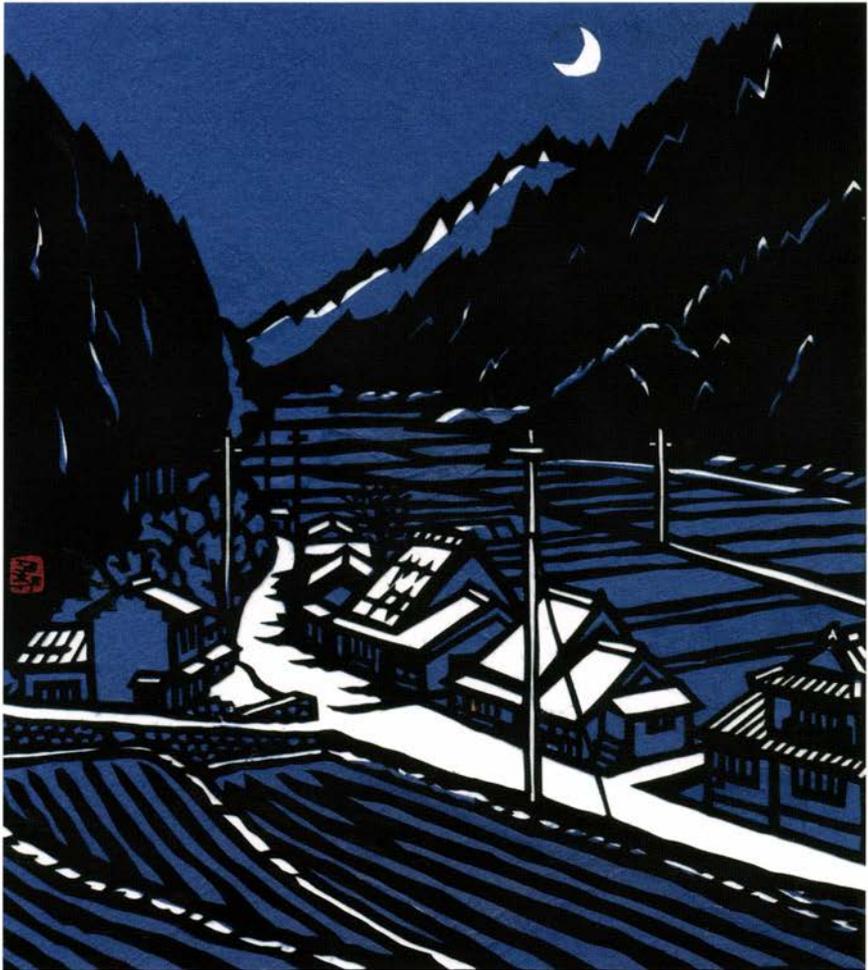


川柳塔

平成三十年九月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一〇九六号



日川協加盟

No.1096

九月号

創立95周年記念事業基金のお願い

大正13年に麻生路郎が創刊した「川柳雑誌」を源とする「川柳塔」は、明年にて創立95周年を迎えることとなります。これを記念いたしまして【川柳塔誌電子化事業】を立ち上げました。事業の柱とするものは「川柳雑誌」創刊号から近年の「川柳塔誌」にいたるすべての冊子を電子化し、ホームページ上に公開するという文芸史上まれに見る壮大な試みです。

この電子化事業により天災等による消失の心配はなくなり半永久的に保存できます。また、どなたも家庭に居ながら自由に閲覧が可能になります。

すでに「川柳雑誌創刊号」と「川柳塔誌」の数冊は公開していますが、千冊を越す電子化にはかなりの経費が予想されます。つきましては、本事業を推進するための基金を同人並びに誌友諸兄にお願いする次第です。

本事業の趣旨と意義をご理解くださいます、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

基金は1口1,000円として何口でも結構です。同封の【95周年記念事業基金】と記した振込用紙にてお願い申し上げます。なお、基金受付は今年の10月末日までと致します。

振替 00980-4-298479番

川柳塔社

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>

熊谷蓮生さん

小島 蘭 幸

「あんたあどこから来たん、今日何句抜けたん、頑張りんさいよ」、高校生の時、初めて広島市の川柳大会に出席しました。やさしく声をかけて下さったのが、広島川柳会会長の熊谷蓮生さんでした。蓮生さんは当時、新聞柳壇の選もされていて、私はいつもし楽しく読んでいました。選評がとても分かりやすく、やさしかったのを覚えています。

原爆の後遺症で体調の優れない中、竹原川柳会主催の第8回と第9回近県川柳大会に出席されています。

竿いっばいに干してしあわせそうな主婦 蓮生

昭和41年に開催した第9回は、竹原川柳会創立10周年記念大会でした。蓮生さんは、「竹原大会に寄せて」と題してお祝いの言葉を書いておられます。その中の一節を紹介致します。

『苦勞人静水さんは、特に新人の養成に力をそそ

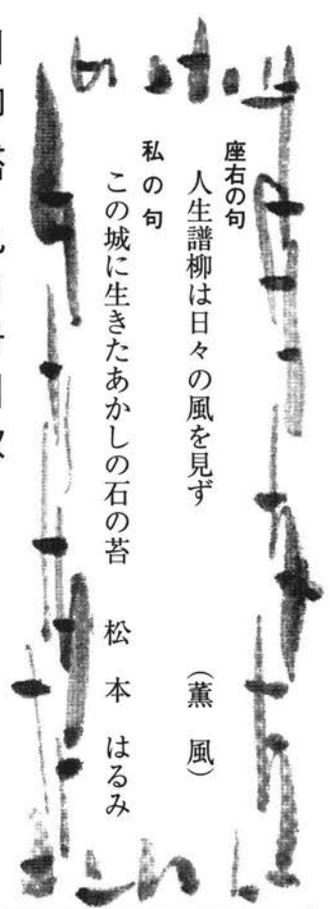
ぎ、高校生グループに川柳普及の力強い楔を打込み、着々その実績をあげている一事に絶大なる賛辞を呈するものである。これら静水イズムに育てられた若き川柳の芽は、毎年の川柳大会に当たっても実にキビキビとした小気味よき態度で活躍し、ともすれば沈滞気味に陥りやすい会場の空気を引き締めて最後まで愉快な雰囲気を保たせてくれるのである』

昭和41年12月4日、東広島市の菅生沼畔邸で、川柳句集『酒』の発刊祝賀句会が開催されました。蓮生さんも元氣に出席されていて選をされましたが、声が出にくいということと、ご指名で18歳の私が披講の代読をさせていただきました。蓮生さんにお会いしたのはこの日が最後となりました。翌年の10月に70歳で旅立たれたのです。

すしになる一等米の男ぶり

蓮生

広島の奥座敷、湯来温泉近くの湯来しあわせ観音句碑の山に、蓮生さんの句碑が建立されています。近いうちに観音様にお参りをし、蓮生さんの句碑に「蘭幸は今も川柳頑張ってますよ」と近況を報告したいと思います。今日は73回目の終戦の日、静かに目を閉じて、蓮生さんを偲びました。



座右の句

人生譜柳は日々の風を見ず

(薫風)

私の句

この城に生きたあかしの石の苔

松本 はるみ

川柳塔 九月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「榛原旧伊勢街道」

■巻頭言 熊谷蓮生さん	小島 蘭 幸	:(1)
ものの始まりなんでも堺	村上 玄 也	:(2)
川柳塔(同人吟)	小島 蘭 幸 選	:(4)
川柳塔の川柳讃歌 ¹⁶⁾	木津 川 計	:(42)
橘高薫風句抄		:(43)
自選集		:(44)
句集の森		:(47)
温故知新		:(47)
水煙抄	西出 楓 楽 選	:(48)
誹風柳多留一二篇研究 63		:(66)
愛染帖	新家 完 司 選	:(68)
英語 de Senryu ⁸¹⁾	吉村 侑 久 代	:(72)
檸檬抄「頭」	川端 一 歩・山岡 富 美 子 共 選	:(73)

ものの始まり

なんでも堺

村上 玄 也

幼少の頃から断続的ではあるが、堺に四十年余り住んでいて、恥ずかしながら表題の言葉を知ったのはつい数年前のことであった。

堺市は今仁徳御陵を中心とした古墳群の世界遺産登録を目指して市をあげて取り組んでいる。その堺古くから水陸交通の要であり、海外から見た都への玄関口で、陸路では五つの主要な街道の集まった街で、まさに人と物との一大集散地として栄えた。その為新しい技術や技能文化もまた自然と堺へ集まり、そこで新たなものが作り出されたと言うのが「ものの始まりなんでも堺」たる所以である。最も有名なものはポルトガルから種子島に伝えられた鉄砲である。堺商人が鉄砲の製法を種子島で学んで堺で初めて作られるようになった。明治初期には、この堺の鉄砲鍛冶が自転車のハンドルやホイークを作ったのが始まりで現在でも堺は

一路集（「組む」）	谷口義選	（76）
「少し」	藤井智史選	（77）
初歩教室「ルーツ」	居谷真理子	（78）
川柳塔鑑賞	山野寿之	（80）
水煙抄鑑賞	米澤 俣子	（82）
せんりゆう飛行船 ⁹³	新家 完司	（83）
インスピレーション ⁹³ ナビ	大西 泰世	（84）
■エッセイ（弘前吟行記）	吉村久仁雄	（86）
八月本社句会	弘津秋の子	（91）
句会燦燦		（87）
各地柳壇（佳句地十選／松山芳生・福西茶子）		（92）
川柳塔WEB句会「ピル」	平 宗星・栃尾奏子共選	（105）
九月各地句会案内		（106）
柳界展望		（108）
創立95周年記念事業基金御芳名		（110）
■編集後記（ひとこと／有海静枝）	朱夏・眞澄	（112）

座右の句

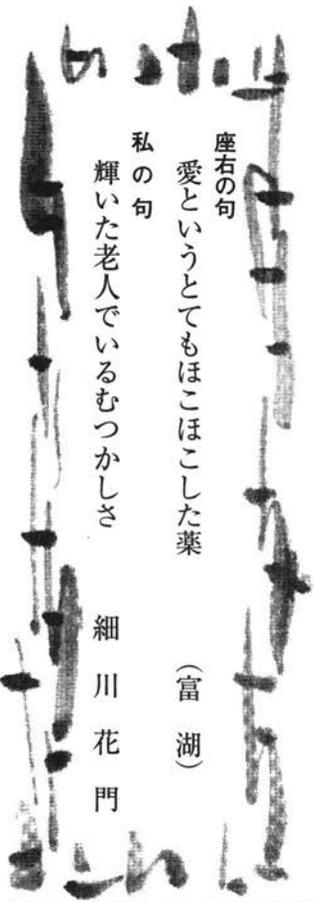
愛というとてもほこほこした葉

（富湖）

私の句

輝いた老人でいるむつかしさ

細川花門



国産自転車の約四割のシェアを誇っている。更に包丁の生産も堺が最初であり堺の包丁として世界に名を馳せている。その他日本で初めて線香が作られたり、日本で初の私鉄・阪堺鉄道が一切を民間の手で成し遂げられたり、木造の洋式灯台が作られたのも堺が最初であったらしい。他にも堺が初めてというものに三味線、堺緞通、シヨベル・スコップなど。金魚の産地と言えば大和郡山が有名であるが、元々は中世に原産地中国から堺にもたらされたものだとのこと。

水練学校や学生相撲なども堺が最初で、産業分野では機械縫製足袋（福助足袋）セルロイド工場（タイセル）など堺が発祥の地である。他にもいろいろなものがあるが日本初であったと言われている。

なお、堺川柳会（現川柳塔さかい）の初代会長であった八木摩天楼（郷土史研究家でもあった）によれば川柳の前身とも言うべき前句付けは堺から発生したと、自著「堺の川柳散歩」の中で述べている。伝承も含めて多少の誇張があるにしても堺は中世以降文化や技術の中心であったことは確かである。



小島蘭幸選

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

一病を得てやさしさと向い合う

ピンチです。てるてる坊主ぶら下げる

茶柱が立つても甘くない世間

私の夢はわたくしだけのもの

心きりかえ心遊ばせひとり居る

父の忌のことしも朱き大文字

松原市 森松 まつお

大雨に人事でない記事を読む

紫陽花が映える程度の雨がよい

娘が語る理想の父はボクでなし

ああ肩が凝るわとほやくランドセル

心配事ないのか口を開け寝てる

お隣りのピアノテレビを消して聴く

尼崎市 山田 耕治

八十になったと亡き妻に告げる

ばあちゃんの星におやすみ言うて寝る

弱かった子の八十の誕生日

赤ちゃんの血を吸った蚊は許さない

ネクタイも時計も外し野球帽

夢の中父とラムネを飲んでいる

歌丸のような人らと励む塔

褒め言葉お金のいらぬブレゼント

時間外手当もらった記憶なし

ダイエット中です卒寿まで五年

勝ちも惨負けるも惨の核時代

なんでやねん黒い鴉に白い糞

ふる里がうまい涌き水なお美味い

干涸らびた心にしみる人の味

これも愛あれも愛だという絆

相槌を打つても所詮ボクは僕

世渡りの拙さを笑う夏の雲

夏風邪のまま秋になる四畳半

羽曳野市 三好 専平

男鹿市 伊藤 のぶよし

札幌市 三浦 強 一

竹光を差す年金という沽券
清濁を飲んで胃袋鍛えてる

調味料加え脚色した自伝

新元号まではと老いのスクワット

百歳の時代へ余生組み変える

のんびりと行こうエンジン半馬力

奈良市 大久保 眞 澄

立ち込める湯煙ルノワールになる

お金の力人を泣かせる笑わせる

玉になる前に捨て石で終わつた

国会寄席もう笑うしかないやんか

倍食べて半人前のままでいる

うがいしても音痴は音痴治らない

八尾市 内海 幸 生

名画伯より本物の花の彩

生き甲斐を言えと急に言われても

おい鏡絶対俺と違うよな

堂々と美女が便秘のコマーシャル

カタカナ語氾濫で買う電子辞書

有難いお話線香と共に消え

鳥取市 両川 無 限

人間の幹に流れている血潮
さよならの橋を渡つてから独り

黒枠の亡父の苦言が効いてくる

色がある水も風にも言葉にも

消印を追つて人間まではるか

人間の影が野獣に見えてくる

河内長野市 山岡 富美子

人という文字は天災にもめげず

わたくしも風も沈黙する真昼

山鉾が酷暑の京を華にする

いちはやくペンが熱中症になり

素麺にお任せ真夏日の夕餉

句読点打とうかビール冷えている

大阪市 平井 美智子

ワン切りの電話 生存証明証

追伸に墓のことなど書いてある

ゆっくりと破る ゆっくり諦める

半分を譲る 幸せ倍になる

座布団が福の形に置いてある

さつきまで愛が座つておりました
三田市 久保田 千代

夢さめて二人の愛の車間距離

過去形で済ませぬ意地を持ち続け

癒えてなお傷が時々熱を持つ

指輪抜くその翌日は風だろう

結局は一人と月を見て思う
子の企画照れて従うフルムーン

米子市 成田雨奇

言い出せば長びきそうをやめておく

苦笑いしている父だほくを見て

サッカーで世界の国の位置を知る

好きなのはわかるがネコの皿ではなあ

ちよんどう今虹の真下にいるほくだ

転んだのは過信のせい悪運か

犬山市 金子美千代

帰省子を待っていました瓶の蓋

前日に念押ししておく老いの会

大丈夫貧乏ならば性に合う

分刻みの一日だった生きていた

雨磔真っ赤な服を着て籠る

また地震豪雨シクラメン満開

米子市 吉田陽子

どっこいしょ重たくなつたなあ心

黄昏に自転車をこぐ無我夢中

遠来の友から緑したたりぬ

底抜けの明るさいつもあなたつて

一万歩ことば乏しき日を埋める

どつきりは合わせ鏡に見る他人

大阪市 谷口義

尤もだ尤もだ八十やねんから

丸くなれない訳は追い追い分かる

マヨネーズたっぷりかけて口封じ

オトウフヲマイニチタベテオリマシタ

使い乍ら残す至難の技である

こんにはと明日がそこに立っている

篠山市 酒井真由

木洩れ陽を踏んで八月の祈り

豊頼の仏へ燭を奉る

遊歩道ゆつくり満ちてゆく力

フォルティッシモ阿修羅のごとくタクト振る

カラフルな部屋カラフルな夢の跡

上尾市 中村伸子

終活に一本欲しい魔女の杖

月一度パイプオルガン本願寺

ノクターンあなたに響くかは不明

青かったあの日後悔しています

降りて降りて地下鉄までの長い道

新しいコンビニちよつと寄つてみる

大阪市 坂裕之

明日の事分からないからうまい酒

適確な批判をくれた真の友

また同じ処で今日も迷ってる

知らんぷりして荒波を遣り過ごす

悔しさはさつさと捨ててまた明日

スーパーに無いもの探す小売り屋で

鳥取県 石谷 美恵子
看護婦さんのジョーク病夫つまのいい笑顔

トンネルを抜けて身につく人間味
輪の中を上手に泳ぐ人気者

この脈が止まるときまで女です
百歳の元氣人目を引く若さ

鳥取県 斉尾 くにこ

転んでもいい人には腕二本

飛ぶ鳥を見上げる次世代の主役

絶妙のアシストを外したジョーク

衣食住あつて家族があつてなお

介護へと愛はカタチを変えていく

鳥取県 竹 信 照 彦

真夏日に向つて歩く水を飲む

自然禍と戦いながら生きている

許してはならぬ人災多過ぎる

ツバメにもなれず雨の日のカラス

テレビで豪雨禍見て暗澹とする

鳥取県 西谷 悦子

わたしの夢と歩いてくれる夢がある

未知数にほんやりとした光ある

忘れないこと書かないでおく日記帳

穏やかなハートから出るいい笑顔

花はいい還つてゆける土がある

鳥取県 細田 裕花

鼻メガネうっかり段差蹴躓くずく
汗たつぷりそれから夏の涼やかさ

老人が増え穏やかな町である

交差点礼儀正しく通過する

涼風を下さい脳みそが熱い

鳥取県 松川 行男

やれ嬉し一番言われ出席簿

行つてきた全没だけど友が出来

台風が食品備蓄空眺め

投句する抜き取る人の手は確か

今朝飲んだ薬が効いた夜の句だ

鳥取県 山下 節子

グループを束ね度量を認められ

同窓会タイムトンネルふり返る

核のゴミもて余してああヒト科

核のゴミほんとに始末出来るのか

逆風に合うのもいいか磨かれる

鳥取市 池澤 大鯨

月1の病院通いめんどくさ

ちよつぷりの愛想を貰い浮かれたです

物忘れちよつぷりずつが近づきだし

ちよつぷりのヒントをくれる友である

ちよつぷりは化粧をしると口にせん

鳥取市 加藤 茶人

メールにはときめき感がないハート

仲人にプライベートと言う垣根

長生きは介護不安と言うリスク

山もあり農地もあってひとり者

我が家でも婦唱夫随の定年後

鳥取市 岸 本 宏 章

高台に住んで水害避けている

鳥取を知事が駄洒落でもり立てる

エアコンがすぐ効く狭い部屋が好き

似顔絵が似すぎていても味気ない

春と秋が短くなつた老いの四季

鳥取市 岸 本 孝 子

親子で正しいも悪いも似てうれし

孫の描く似顔絵はくろ忘れない

困らない程度のお金ならばある

夫の家事見ると無駄なことばかり

朝食が済み夕食のメニュー書く

鳥取市 倉 益 一 瑤

紫陽花が語る悲しい母の秘話

弱音吐く笑い話にされました

面倒な話になると呆けておく

いざと言う時の台詞をふところに

政治家はみな認知症かと思う

鳥取市 坂 本 とも 湖

小ぶりのグラス夏を味わう日本茶よ

深緑を眺めゆつたり流れ行く

青ものが足りぬ足りぬと野草つむ

おかげ様元気に暮らし句に挑む

スキヤンダルも美談も同じペンが書く

鳥取市 棚 田 大

忘れ物とりに帰るもそれ忘れ

リーダー様日本の未来探知して

あちこちに悪事不祥事どんと増え

あちこちの農地荒れはてくらくらだ

人込みに核のゴミまで捨てるなよ

鳥取市 谷 口 回 春 子

今度こそは今度こそはと何度でも

飲んだ気でやれと言われた下戸の人

休耕田獲物待つてる檻一つ

6Bが出番待つてる枕元

美肌への欲と未練は生きる糧

鳥取市 永 原 昌 鼓

リーダーが故障か佳句が浮かばない

核のゴミ埋めては掘ってまた埋めて

受け取り手なくて彷徨う核のゴミ

六十年見慣れた顔のない不安

拉致家族深い悲しみ解けぬまま

汗ひとつ重ねて明日が見えてくる
ふる里の美田が僕を呼び戻す

鳥取市 中村金祥

美田にも自然の力容赦ない
幸せの種を拾った一人旅

洗いたての空が似合わぬ被災の地

鳥取市 夏目一粹

人はみなアクセク生きて死んでゆく

よく転びよく立ち上がり人になる

幸せにする笑顔なら作れそう

夢追って飛び立つ雁の群れ送る

人間をやめたい時もある計報

鳥取市 平尾菜美

だんだんと抗う力弱くなり

閃白の気質に苦勞強いられる

鬱憤を晴らす汗ならかくがいい

不器用に生きてる私なりすまし

墓場まで抱いて逝きます家族愛

鳥取市 福西茶子

笑ったら鰻食べたくなりました

アナタとは愛をキミとは過去語る

ポジティブになったら糸の切れた風

グーチョキパードれであなたを射ちましょう

元気です今朝も歯磨きスクワット

偏差値のちがう頭で競い合う

AIに頼むわたしのガン探し

誰にでもいい顔をするポチとタマ

母の遺言「いのち大事にせないけん」

言うべきか黙るべきかの交差点

鳥取市 山下凱柳

老いらくの恋にときめき不整脈

ああ嫌だ融通利かぬ頭脳かな

誰だっけボケの兆しがちらほらと

政治不信まき散らしての記憶ない

倫理感ない官僚が闊歩する

鳥取市 吉田孔美子

仕合せを組むきっかけは姉だった

畑にも私にも夜半の快雨

早よ帰ろカラスがどっと集まった

家計簿と並行なら書ける日記

即答で出席会費無しと言う

鳥取市 吉田弘子

頼られる老いの幸せ一つでも

寒暖差鈍い老体慈しむ

長生きの良し悪し別れ多過ぎて

記録づくめ地球異変のメッセージ

こっそりとケイタイ覗くお婆さん

倉吉市 猪川 由美子

言い回し巧みな総理逃げ切るか
女兒虐待知れば知る程胸詰まる
次期皇后やはり不安が残ります
年齢と共に国や市からの書類増え
落ち込めば用を放つとき趣味をやる

倉吉市 牧野 芳光

老境を眺めるペランダを作る
御朱印帳持つて病院巡っている
鱗片がトロリトロリと溶けていく
空論に空論重ね浮いている
枕木で囲うJRの敷地

倉吉市 山中 康子

天災の威力ところが張り裂ける
この地球何が起きるかわからない
生きていく食事はちゃんととりましょう
何の役にも立てなくてご免なさい
この地球怒らないよう大切に

米子市 後藤 宏之

ジャズの会京都銘菓のご相伴
うちの犬散歩のときは甘え声
くじ引きで上座下座は今日はなし
まるつきりサイズ合わずにまだ夫婦
悪人の私でも言い分はある

米子市 後藤 美恵子

ニールック金魚界でも競い合う
ソーラーパネル酷暑うれしく稼いでる
各部屋にエアコンテレビある孤独
便利さが自然の乱の起因かも
食事介助髭のめし粒取りづらい

米子市 竹村 紀の治

晩酌は何の努力も要りません
妄想の泉で溺れそうになる
解かれているのも知らず奴風
半年の無事を報らせるお中元
元氣かと訊かれノウとは言い難い

米子市 中原 章子

初採りのきゅうりに元氣もらつてる
物作るよろこびがあり苦に耐える
褒められてらつきよと梅を漬けておく
免疫を高めるレシビ熱はいる
どんと来い気力体力溜めて待つ

鳥根県 伊藤 寿美

八十六長生きするの怖くなり
願わくば夏椿のように散りたいな
米寿祝はするなと子等に言つてある
小走りの距離に亡夫が居た昔
仕来りもわたし限りの舞扇

松江市 石橋 芳山

悪臭を辿れば俺のいたところ
七合目月はぶるんと向こう側
転がった桃は罪悪とも知らず
わたしから年々消えるケモノ色
占いは大凶朝日が眩しい

松江市 藤井 寿代

葉が落ちてしまつてからの私です
脇役のプライド光るカスミ草
着信が一度も鳴らぬ雨の午後
温かい便座に瘦せていく日本
根っこには戦争放棄の四文字

松江市 松本 知恵子

暇あれば伸びる夏草やつつける
山崩れ恐怖が戻る暗い雨
孫と採る庭の百個の青い梅
傷ついた梅も私も甘酢漬け
カギ握る人が見えない永田町

松江市 松本文子

今日も明日も体調に聞いてから
雑談をふるいにかけているノート
こんな筈じゃなかった歩けないなんて
紫陽花寺で亡友を待っているのです
暇な時にはヘソクリを探す

出雲市 伊藤 玲峰

身軽さが取り柄頼られ多忙なり
傍に居るだけで安らぐ温かさ
空っぽになると明るい声が出る
内緒事見つけハートの乱気流
三本の友情の糸繕りかける

出雲市 岸 桂子

影法師律儀わたしと老いていく
一冊の句集に恋をしてしまう
手の届く位置に何んでもありすぎる
新聞は波瀾万丈すぎないか
相談をするのは心決めてから

出雲市 小白金 房子

嘘言わぬひ孫生き生き夢語る
心情でおくるわたしの義援金
其の手には乗らぬ心の芯を持つ
言い分けを通す女の性かなし
吊橋を渡り羅漢の慈悲仰ぐ

出雲市 多久和 敬子

三角も丸も四角も手を繋ぐ
猛暑です冷房の中五七五
バーゲンにお札ちらちら欲掴む
帰るたび大人びて来る孫娘
立ち位置は夫のうしろそれで良い

残照や吾八十のど真中

雲南市 菅田 かつ子

心配をさせて呑気な午前さま

友達が来るとじいちゃん楽しそう

楽しみは一番小さい缶ビール

嫁さんと電化に指図されている

雲南市 松本 昌

弁当を買う楽しみや妻不在

妻不在電話やたらと掛けてくる

今年まだメロンは入れぬ冷蔵庫

鍵忘れ性善説を信じよう

草むしるその手が老化引きよせる

岡山県 田中 恵

呆け防止と戦っている五七五

空っぽの引出しばかり多くなる

魂を抜かれたことに気付かない

井の中をいまだ世界として生きる

げんまんは覚えています遠花火

岡山県 山縣 のぶ子

胸奥に重いものあり点滴す

点滴のリズムが誘う白昼夢

生きているみどりの風が心地いい

一人居のまずはテレビに御挨拶

熱引いてパツとさわやか半夏生

帰路急ぐ主婦という名の腕時計

岡山市 工藤 千代子

平静を装いたくて眼鏡拭く

雨樋から漏れているのは素顔です

信号のない田舎にもあつた波

ひよいひよいと間引かれているやる気

岡山市 丹下 凱夫

梅雨晴間居間から見える備前富士

梅雨荒れて梅雨明けてあとかたもなし

乾涸びぬように麦酒を飲んで

窓開けるだけでこんなにリフレッシュ

万能薬なんにも効いたことがない

岡山市 永見 心咲

多色刷りだった轍もセピア色

席取りは花見花火と夫の役

居酒屋の隅が程よい世界です

セロリふにやふにや人間不信という形

気配りの数が優しい綾になる

岡山市 前田 恵美子

力はないが口はその分よく動く

お金も力もいらない日向ぼっこ

靴だけは妥協はできぬ履き心地

近頃はとんと長靴履いてない

いつまでも生徒でいたい公民館

笠岡市 藤井智史

進むべき道はここと地元愛
夢抱きそして咲かせる現在地
遠慮なく進め未来は怖くない
うんちくを並べ氷点下を学ぶ
沢山の星を拾っている賢者

広島市 岸本清

好感度一〇〇パーセント翔タイム
壁紙を変えて猛暑を柔らげる
立ち向かう術はないのか木偶坊
お酒って不思議泣いたり笑ったり
自慢した日本の治安剣ヶ峰

竹原市 岩本笑子

チャンス到来ペン尖らせて宛名書く
責任は自分に薬仕分けるを
どくだみ茶今年も母と干している
だんご虫ごろりごろりと夏になる
避難勧告町中を眠らせぬ

三原市 鴨田昭紀

田舎では鍵を掛けないのが普通
現役の傘を畳んで鍬を持つ
人並みを通す勇敢な生き方
色褪せてくる両親を看る話
改めて見直す捨てられた意見

岩国市 上村夢香

日曜日本屋を巡るミニ旅行
ペテランの全力疾走盛り上がる
被災した友へわずかな水送る
綱渡り酸素ボンベで生きる友
質よりも数で闊歩の永田町

宇部市 平田実男

虫も良く知っております無農薬
雑草のDNAが欲しい僕
一強のおごりが法を曲げたがる
八起き目の次は転んだままだろう
私の耳に読経は子守り唄

下松市 有海静枝

魂が抜けてしまった介護ロス
退屈の手がにゆるにゆると守備を出る
解り合うための言葉で喧嘩する
騙された蜻が悪いと言う狐
人裁けるのかと問うた波の音

防府市 坂本加代

深さ三〇メートルの水たまり
伐採の山の斜面に豪雨来る
探し物黙っていては出て来ない
ノー言えぬ日本の事情背負っている
お地蔵にいつも枯れない花がある

東かがわ市 川崎 ひかり

五羽全て巢立ち淋しくなった軒
粒つぶが好き派嫌い派ウニイクラ

粒揃い言われる中に孫がいる

日に五粒生命を繋ぐ糖衣錠

昨年の旅したあの地土砂の中

松山市 栗田 忠士

汲んで掬って両手に残るものがない

侘び寂の味も出てきた僕の顔

斬られ役五万回とはいぶし銀

ちよび髭を剃るとのつべらぼうになる

余命たつぷりそんなに焦らなくていい

松山市 古手川 光

大洪水生れ故郷を見る辛さ

導火線短い僕に要注意

孫が来るムード一変する我が家

国境が有るのでしょうか黄泉の国

迎え火がゆらゆらお待ちしてました

松山市 宮尾 みのり

泣き言は言うまい友の温かさ

つつましく生きて取り残されている

つつましい暮らしを飾る庭の花

惜敗もよし飛躍へのバネにする

進んでも退いても決めるのは自分

松山市 柳田 かおる

心咎め土砂に埋もれているニュース

悪いとこ似てる言い訳まで同じ

力むから眉がやさしく描けない

説明書ややこしい事後にする

自分への挑戦をする蟻でいる

大洲市 中居 善信

這ってでも九十までは生きてやる

先生は宮尾みのりに五楽庵

大勢のクラスメートが待つ黄泉路

七十年の水に怯えた伊予大洲

人間の非力洪水見てる朝

西予市 黒田 茂代

手の届きそうな軒端に燕の巢

季語ならばすぐに間に合ううちの庭

歯磨きながら狭庭の花にご挨拶

目力が無くて蠅さえ払えない

手料理が好きレトルトに縁がない

西予市 西田 美恵子

沸点の同じ人で馬が合い

欲を捨てるかそれとも欲と手を組むか

残高照合あまだ有った助かった

足の裏が痒い誰かが笑ってる

やっぱり止そう電話をしたら恋になる

紫陽花を植えし友逝く団地道

高知市 小澤 幸泉

もういいよ全てを赦す義母の死顔デスマスク

五人目が生れ義母逝く四月空

予定空白頭も空っぽ時止まる

テレビだけしゃべる人気の消えた部屋

土佐清水市 辻内 次根

待ち人の来ないカンナが咲いている

縁側に風に緑に鶯に

体力の萎えて何方も遠くする

残響の中で暮らしている月日

老いというこの概念を敵とする

唐津市 坂本 蜂朗

帰国する娘の便りあり梅雨明け

八十の男を叱る妻がいる

妻に手を曳かれて母の七回忌

救急車で来ればよかつた待ち合い所

黙黙と妻が身辺整理する

唐津市 山口 高明

機影見る度に心配落下物

公德心の欠如を嘆く仁王像

夏草を褥に授乳する野良着

義理堅い妻に出きない貰い得

気立て良いむすめと親が先に惚れ

年一度「逢いましょう」は二人減る

植物観察急な坂には落伍して

梅雨明けの朝に一斉蟬の声

オオオイ オオイ 寝言で呼ぶは誰だろう

保冷库にストされいじめ受けている

熊本市 杉野 羅天

地震です人災だけは無いように

真相は闇証言拒否という手

棚田見る心豊かに逝けそうだ

世の不思議古希過ぎて尚旬の方

生命保険辻褃合わせ生きるべし

沖縄県 森山 文切

薬局の裏でタバコを吸う大人

生真面目な君にハーブを添えてみる

ボスの座を譲った猿の荒れた尻

思い出も消えた気がしたオークション

カサプランカ余韻に止まらない動悸

北九州市 小松 紀子

号札をかけて動かす腰と膝

はや一〇年バス停横に花植える

バス待ちの人々いやす花一面

人のため少し汗して気をもろう

平凡に生かされる今ありがたく

札幌市 小沢 淳

筋違が見えぬ所で効いている

歌丸の紙入れにみる古川柳

汚染水はどこプロテウスの罨

古本屋とブックオフとにある違い

やがてくる明日という日のない朝が

塩竈市 木田 比呂朗

虫の音に着メロ少し替えてみる

お月見にいつも一献出る我が家

断捨離の進捗チェックする夜長

仕舞湯で禅問答がエンドレス

結論は回転寿司で円くなり

青森県 松山 芳生

ポケットであたためている君の恩

筋道をとおして欲しいスコールよ

たましいの彩に仕上げる北の風

もう一人のわたしはいつも虹色で

線香花火ひとりになってポタポタと

弘前市 浅田 隆樹

雑草の面目躍如梅雨のあと

預金高僕の余命の砂時計

休息を促す雨も畑の香

活力の空缶溜まるゴミ袋

豪雨禍に何も言うまい北の梅雨

弘前市 稲見 則彦

シルエット何と優雅な岩木山

三角乗りそんなこんな少年期

チエロを聴くベーターベンになって聴く

時々七輪出してバーベキュー

指輪からぼろり本音を聞かされる

弘前市 今 愁 女

喉越しの悪いモリカケそばでした

跡形も残さず逝った人無念

異常気象な気が怒りに狂れたのか

ボランティアで青年たちは汗流す

人生百年現在進行形

弘前市 高橋 洋子

八十歳開き直って散る美学

飽きっぽい性質で万事が道半ば

人生は予期せぬ道だあみだくじ

やり直し出来ぬ人生イロハニホ

脳トレにクイズ番組安上がり

さいたま市 星野 育子

称賛は後を濁さぬサポーター

今一度ハザードマップ見直す日

良い眠り易いように難しい

切り方で蜥蜴の尻尾再生す

百年の汗と涙の甲子園

朝霞市 前田 洋子

電線の陰を踏み踏み夏の道

炎天の水琴窟に耳ひやり

嬉しさも脳はストレスとは意外

別邸のキレイな人はお手伝い

気恥ずかしいような大阪のメトロ

東京都 川本 真理子

絵日記の海とプールと空の青

雨靴の子には生憎の快晴

冗談よと辛らつなことを言う

自分のことだから涙はもう出ない

ずっと未来どこか私に似てる人

八王子市 川名 洋子

鞆手に留守よろしくと妻の笑い

肝心のところが抜けているみたい

子があげるSOSに涙する

こそこそと十日もしてる探しもの

ありきたりの日々幸せ膨らみます

横浜市 菊地 政勝

飲み込みの遅い分だけくり返す

床の間の壺が消えてる鑑定後

ねんごろに巾いながら躍り食い

剪定をにわか庭師の顔でやる

葉隠れの花にもあつた羞恥心

鈴鹿市 小河 柳女

琵琶湖かないつも静かに座っている

思ひ出のフィルム納めてある瞳

わたしでよければお力になりましょう

雨風を恐れて弱き人間だな

転倒するわたしはいつたい誰だろう

富山市 島 ひかる

もう雨が降るよと頭痛ひどくなる

夏負けはしない手作り梅サワー

母譲り梅ラッキョウもお裾分け

両親も兄いもうとももう居ない

最愛の夫げんきに居てくれる

愛知県 早川 遯行

も少しでおわるこの世の泣き笑い

梅漬ける元氣も失せて書に隠り

酒臭い約束事は信じない

あるものが無いと落着かない食事

サッカーに徹夜するまでのめり込み

犬山市 関本 かつ子

会う人が皆好きになるお人柄

門限がないと帰りが早くなる

安い方の花が長持ち夏の花

借りていたのを忘れてたのは私

守り神です九条の太い苙

可児市 板山 まみ子

口開けて昼寝はできぬ齒科の椅子
サバサンマお惣菜魚が高すぎる
早すぎる梅雨明け夏を思いやる
古い地図出して確認災害地
出来る事だけしていても忙しい

京都市 清水 英 旺

オッサンもやる時はやるW杯
我もまたサツカー馬鹿の一人なり
重み増すあと半年のカレンダー
待ち受けの写真の愛犬七回忌
鏡に向かい誤嚥予防の百面相

京都市 榎 本 宏 子

青春キップみやげに高いワイン買う
お化粧とメールで終る昼休み
道端の花を上手に活けたはる
ほろほろになれば待つてる家がある
落ちていたメモに本音を書いてある

京都市 三 宅 満 子

天気図に悔しいほどの雨マーク
父母の見てない景色見て生きる
赤字だらけ国の財布を見てみたい
ひと言もしゃべらない日の恐ろしさ
交際を迫られにがいコーヒ飲む

長岡京市 山田 葉 子

満天の星仰いで君が近くなる
よく寝て食べて機嫌変わらぬ友と旅
新緑の匂いにふわり着地する
走れないせめて歩幅を広げとく
肩の凝らない友が揃ったティータム

八幡市 今 井 万 紗 子

頭かず割れたらいいねサクランボ
酒少々と妻の笑顔があればいい
母が語る昔話は美しい
古いアルバム皆寄り添い笑ってる
今の所口も達者で生き上手

大阪府 米 澤 俣 子

隠し球一つや二つ持って主婦
茄子胡瓜糠床まぜるのも日課
おてだまは昭和の音で語りかけ
百歳時代余生は止めて未来です
このぐらいたと呪文をかけて立ち向かう

大阪市 岩 崎 玲 子

鈍なことばかりしているおばあさん
娘のチェック受けて外出しています
ATM空いてる時にまいます
シミ皺があろうとしか紅は引く
締切りが迫ってやっとな動く脳

大阪市 内田 志津子

美魔女でも年齢詐称出る日暮れ
午後一〇時安否確認ラブコール
公園がやけに淋しい梅雨最中
水溜り休業中のすべり台
ほろ酔いを叱咤するよな通り雨

大阪市 宇都 満知子

悪気ないはずの言葉がからみつく
リハビリに出かける憂と帰る爽
声聞けばたちまち色が付いてゆく
歳ごとに未知の遭遇を楽しむ
時間気にせず煮込み料理が増えました

大阪市 江島谷 勝弘

ミサイルは当分飛んで来ないだろ
ボクは蚊になんてこんなにもテるのか
ヘルプヘルプへそくりの底見え出した
金力も腕力も勇氣もまたぬ
挑戦を試してみようかなライザップ

大阪市 榎本 日の出

ときめきがめつきり減ってきたわたし
七人の敵に無視されのんびりと
これからの身辺整理心得る
恋じゃない愛でもないの気持だけ
好きな靴くたびれてるが捨てられず

大阪市 榎本 舞夢

まだ行ける二泊三日の旅に出る
船でしか行けぬ瀬戸内島巡り
脱獄囚泳いだ海や加計学も
都会暮し考えられぬ島暮らし
日本でも知らぬ世界が無量大

大阪市 大川 桃花

クローゼットに幽閉されていたスマホ
湯に浸かり夕餉の音を聞く至福
被災地へ祈る他ない腑甲斐無さ
足腰の老いより怖い気の弱り
庶民からいよいよ遠くなる秋刀魚

大阪市 大治 重信

戦闘帽ゲートル巻いた嫌な夢
ふるりの追伸だけが気に掛り
宿題は孫とコラボの夏休み
満天の星に本音の独り言
黙まりて背中を向けた妻の乱

大阪市 奥村 五月

飲み仲間さえも呼ばずに家族葬
七夕に星も見られず家流れ
投句より現場で友と語りた
空梅雨と思えば凄いと砂崩れ
補欠でも親は自慢の甲子園

大阪市 笠嶋 惠美

欲ばつて四天王寺と花野ビル
年金日忘れていたのオホホホ
地震後の友の訪問思いやり
地震後の地域の食事会しみる
何事も最後感謝にたどりつく

大阪市 金川 宣子

老人性難聴のせい波乗れず
絞るだけしほればスリムライザップ
薄味に馴染んできたよ回復期
ベランダの西日遮るキユーリ食べ
半年も過ぎれば干支も忘れてる

大阪市 川端 一步

性格は妻は春ですボクは秋
妻の字は豪快ボクの字は素直
わが夫婦清く正しくではないが
失った若さはペンで取り戻す
災害の悲惨を知らず蟬の声

大阪市 熊代 菜月

忘れ得ぬ同窓生がまた一人
亡夫の声今も聞える彼岸かな
ゆうべ見た夢に貴方は居なかった
駅前の名物ラーメン今日消える
デイ仲間話はずむ思い出や

大阪市 古今堂 蕉子

亭主関白ずいぶん補正したはずが
はきだめの鶴のひらめきは鋭い
おしどりを演じ続けた演技賞
カジノ法依存症はご勝手に
行いの良い私の旅はいつも晴

大阪市 近藤 正

政府こそ働き方を変えなはれ
エムバベがメツシー神話蹴飛ばした
踏み越えた南北首脳血の絆
トランプは一善九悪カード切る
松井知事ねつからカジノ依存症

大阪市 高杉 力

降りてない駅がまだある通勤路
老いの恋もう砂浜は走れない
御三家の話で歳を探り合い
掃除機に追われ昼寝の場所を替え
ダンスでも習うかスーパーフライデー

大阪市 高杉 千歩

戦友を歌って老人ホームひとり
かくれんぼ老人ホームひとりぼち
類語辞典ネタ拾ってる老いひとり
ナスコール二十分老人ホームひとり
夕日を見ないマンションに囲まれる

大阪市 田中 ゆみ子

やれるだけやったさわやかな挫折
真情を吐露したあとの旨い酒
向日葵畑夏は正しく暑くあれ
アンビシヤス持って大陸行ったまま
面倒な男誰にでも律儀

大阪市 津村 志華子

戴いた命に朝の齒を磨く
遊んでるのに夏を越すのは大仕事
貧乏神とずっと仲よう暮してる
DNA息子も孫も同じ声
燃えて燃えて平和いちずに百日紅

大阪市 津守 なぎさ

豪雨には勝てず見送る梅ラッキョ
被災地で汗々汗のポランティア
ありがたい病院食の舌鼓
雨足を見つめベッドの腑甲斐無さ
青空のエール笑顔が美しい

大阪市 寺井 弘子

再会に軽く揺れてるイヤリング
リハビリの歩数自信をとり戻す
拘りを捨てて新たな夢を追う
一振りの塩知り尽くす母の味
浴衣着の地域に溶けた盆踊り

大阪市 寺本 実

お財布にけじめをつける年金日
母に似た人參道ですれ違ふ
ため息の長さ無念をにじませる
オレオレか孫の電話は声変り
サバサバと遺言作る遺産なし

大阪市 栃尾 奏子

手放してみました価値を知りたくて
もう一度我楽多市で出逢えたら
諦めないぞ三日月にぶら下がる
夢一ついま人間を束にする
彼岸花透かせば少しだけあの世

大阪市 原田 すみ子

みじん切り出来ず賽の目切りになる
辞書の字もポリウムも大にする老い
力にはなれぬ自分を持って余す
出来ること数え少ないなど笑う
験担ぎ何かの所為にする弱さ

大阪市 平賀 国和

三十年振り異国の友と会う京都
地震大雨ヒトの無力を思い知る
悲痛な顔見るのも辛い水害禍
戦より天変地異に備えたい
平和の詩聴いて初心を思い出す

大阪市 藤 田 武 人

三日月を背もたれにして弾くハーブ
ハルカスにもう赤トンボ舞っている
原石を丸くまーるく磨く僕
信じてと決めた一本道ずっと
少しずつ境界線が消えていく

大阪市 藤 原 千恵子

祖母からの絵皿地震で真つ二つ
大地震片付けついで大掃除
何年ぶり見舞い電話に咲く会話
風呂に水ボトルに水で備えてる
さわやかに香る新茶で寿命延び

大阪市 升 成 好

ひと言に人の値打ちが詰めてある
日記帳明日と言う日を白で待つ
順番のない順番は突如来る
相槌に愚痴が勢いづいて来る
乗り切れる筈だと神が出す試験

大阪市 山 本 加お里

もう少し長生きします今日も丸
自家菜園昔の味のするキューリ
あなたでしょ鳩が私を見えますよ
仏前のお花我が家で育てます
まだ癒えぬあなた恋しい一周忌

大阪市 吉 内 タカ子

大阪の地震災害この暑さ
デイケアで老いを楽しむ運動会
結愛ちゃんの人生悔やむカクカナ詩
自由の世継事件が悲しくて
ああ今日は今日の日程試される

大阪市 若 本 安 代

何事も天災にして梅雨明ける
八つ当りきつと父さん淋しがり
笹飾りまだ欲張りな夢吊るす
御蔭さまいつも遺影に手を合わす
聞き流すことが一番効くくすり

堺市 奥 時 雄

素手で蚊を叩いたのよと見せに来る
ゴキブリのメインロードに罨かける
永眠の予行みたいに昼寝する
朝寝坊昼寝が癖で早寝する
生ビール目当てに夏も行くゴルフ

堺市 柿 花 和 夫

切札を持っているから聞き流す
平成がすんなり終るよう祈る
夕食はカップラーメン旅帰り
想像力を弄んでる眠れぬ夜
共犯者にされそうここだけの話

始発駅みかんの花の匂う頃

堺市加島由一

なすキュウリ花いっぱい
の母の庭
夫婦仲良いとコロコロ児は笑う
気がつく
と終の棲家の草むしり
血と骨は浜のイワシのお陰です

堺市源田八千代

子や孫が揃う盂蘭盆墓参り

ご先祖様夏場はゴメン造花です
隣の花は赤くて浮気してしまう
夏休みも塾の自主トレ忙しく
猛暑に豪雨台風風地震日本中

堺市齋藤さくら

いつの間に婆ちゃん庇う
五年生
いい返事している時はよく食べる
覚えたら便利なスマホではあるが
湯上りに幸せくれる缶ビール
里帰り孫の笑顔が手土産だ

堺市坂上淳司

ヒト科の愚を許せないのだ
青い星
毎年の豪雨禍を生む温暖化
五十年に一度の豪雨嘘でしょう
白熊の寝床を奪う温暖化
近海の漁場も奪う温暖化

燦然と輝く星よ鶴彬

堺市澤井敏治

アッシー君だから免許は返せない
ニホンウナギよふるさと目指しやつて来い
一涼の風を残して去る敗者
終活の手始め遺影写真撮る

堺市遠山唯教

白髪に背負う荷物はいつ下ろす
欲すて心ゆたかな酒友録
いざという心の準備きめておく
青春の挫折が竹の節となる
ひもじさの暮しをいまも忘れない

堺市内籾憲彦

タフなのだろう真つ赤な嘘をくり返す
大木になろうしっかり根を伸ばす
クイズ王宮崎美子だけで良い
一度くらい鯛やヒラメと踊りたい
スカンタコから始まって五十年

堺市矢倉五月

老いの段差はガクンガクンと音立てて
取り敢えずちよつとたたねして再生
背くのも良し君の人生君のもの
折り返し点これが最後の節目かも
節目節目に友の手紙が身にしみる

池田市 栗田久子

被災地思い見上げています今朝の空

終息の見えぬ被災の地を見舞う

孤独とはついの贅沢だと思ふ

恙無く生きていけそう老い力

老い支度ふんぎりつかず日を送る

和泉市 横山捷也

友達は要らぬスマホを持ってます

百均で脳トレの本売っていた

再起動出来ぬ八十路にバグがある

五十年少し波長の違う妻

八十路まで平均値で生きて来た

茨木市 島田誠一

満面の笑顔と裏の顔の国

返納はしたが買物物どないしょ

三日使い物置きへ行く健康器

癩癩玉妻に安全弁は無い

まっぴいおお金で済んだ震度6

貝塚市 石田ひろ子

土砂降りの傘は気休めだけでさす

歳かなあ爪伸びるのも嬉しくて

レモンスカッシュ暑気払いする小宇宙

自画像を透かすと涙消えていた

ファミレスで老人ひとりランチ食べ

河内長野市 大島ともこ

握った手スルリほいて巢立った子

あいにくの雨が出会いのキューピッド

いざとなれば溜めた脂肪が救世主

立ち位置は先頭避ける処世術

散り散りになつて絆が見えてくる

河内長野市 梶原弘光

耳打ちをこれ見よがしにした波紋

虫干しをすれば消えるか加齢臭

魔が差した事例誰しもふたつみつ

春よ来い唄つてる内夏が来た

木造の駅舎に集う懐古趣味

河内長野市 木見谷孝代

数々の無駄を力に変えていく

教えるは学ぶことよと絵筆とる

ひまわりが小ぶりでちようど庭に合う

豪雨禍に追いうちかけている猛暑

単身赴任の子を思いつつ月を見る

河内長野市 黒岩靖博

アロハシャツで暮らせるハワイ憧れる

親子孫三代目から土地の人

幼子がアドリブ入れて歌つてる

皴白髪増えて老齢自覚する

久しぶり竹馬の友と咲く話

河内長野市 辻村ヒロ

気が付くと言いたいことはいつもあと

忙しいが口癖ならば元気だよ

庭の草に悔しいけれど負ける日日

猛暑日に梅干しふたつ噛み締める

遠近のメガネ離せぬ好奇心

河内長野市 藤塚克三

酒と歌愉快スイッチ入ります

午前様鍵穴探り深呼吸

干渉なし奇妙な絆続けたい

蟬に問うばてないこつを教えてよ

憎い人ねと言われ調べた広辞苑

河内長野市 村上直樹

白昼夢もしも二十歳に還ったら

免許返上やつと家族に安堵感

自己主張過ぎて誤解の渦の中

役に立ちつつ長生きという難しさ

旅立ちはさくら舞い散る晴れた朝

河内長野市 森田旅人

おはようと二人の平和つなぐ朝

不戦のちかい固くつないで新元号

ラブレター目立たぬように茶封筒

足裏を洗えば解けていた怒り

干渉はしないと決めて子を見る

河内長野市 山室光弘

物忘れカラスに負ける老いの知恵

計算が合うのに金の無い不思議

記念日を忘れぬ妻も認知症

飽食に勿体無いでメタボ出来

迫る古い夢を削って大過なし

岸和田市 岩佐ダン吉

人間の証明君はできませんか

勝負は見えたが旗は下ろさない

乱戦になったぞ僕の出番だな

腹を決めそして私に問うている

一日の一步が明日に繋がるう

岸和田市 宮野みつ江

豪雨禍の余りに多き声もなし

被災地へ何も出来ない募金箱

降り続く雨雑草の底力

雑草の中に嬉しい赤マンマ

雨の日は古映画見て若返る

岸和田市 雪本珠子

薬より効いた言葉の処方箋

呟けば耳横にする膝の猫

やり直しきかぬ齢でも夢はある

裏庭の茂みで雀ミーティング

誰にでも分け隔てなく老いはくる

四條畷市 吉岡 修

尺八もギターも買ったままにある

叩いてる僧も木魚もいい気持

五右衛門の墓に合掌した不気味

人間が宇宙の神秘壊しそう

ガッポガッポ稼いでケチな遊びする

吹田市 木下 敏子

公園が増えて来ました朝の友

塩分を控えめにしてゆく八十路

金盞花供え明るい仏様

老いて尚夢中になれる五七五

百合の花わたしの方を向いて咲き

吹田市 須磨 活恵

また元のサヤに納まる雨上がり

立ち止り確かめて見る現在地

折り返し地点もすぎてゆるやかに

人生の裾のたのしむ今花野

雨降れば雨に一句を絡ませて

吹田市 野下 之男

テレビでは総理候補のすまし顔

西郷どんも美しい花好きでした

異国でも愛をふりまく秋田犬

クジラでも都会志向か東京湾
イルカ君かしこさ判るジャンプだね

高槻市 片山 かずお

天は何をお怒りなのか止まぬ雨

成るように成ると大物動かない

母に会うただそれだけの里帰り

戯れに掃除してみる妻の留守

屋根の反り方に風情のある古利

高槻市 島田 千鶴子

アイディアが続出進まない会議

さよならよりまたね明日へ続くから

迸る水道水のある安堵

取り留めない会話が温いティータイム

あと一品こは出番と冷や奴

高槻市 初代 正彦

新緑のもてなし初夏の御堂筋

夕涼み田んぼ辺りはパラダイス

パソコンの画面ややこし庭の蟬

なんとなく気乗りせんから笑つとく

追求をあつさり躲す赤とんぼ

高槻市 杉本 義昭

努力した汗がつかんだ明日の夢

恋の道ブレーキかけず突っ走れ

地震過ぎれば話題は全てW杯

娘からの電話か妻の声弾む
無料検診どこへ行っても素っ気ない

反省を忘れた親が子を叱る

高槻市 富田 美義

バラバラな意見まとめて串刺しに

残り道人それぞれに締切日

グラビアを真似て女房の試着室

買った品オレより長い寿命持ち

高槻市 富田 保子

ごめんネの重い言葉を信じよう

ピンポンが救ってくれた長電話

お呼びなどないが化粧はしています

メールより一言欲しい生の声

ポトル茶で少し休んでウォーキング

高槻市 原 洋志

AIにほどよく距離をおいて生き

黒少し足して凶太く世を渡る

ゲリラ雨残した黒い水たまり

どうしてもべた付いてくるでもだつて

メタボ腹影にほそほそ叱られる

高槻市 松岡 篤

五人掛け四人で座りスマホ中

風鈴も団扇も蚊帳も知らぬ子等

聴診器恋の病にギブアップ

ステテコのままで涼んで居た昭和

千円で充分飲めたのは昭和

同期会何着て行こう初夏の旅

旅先の丸いポストが懐かしい

沢山の友を持つてる今の幸

大地震安否の電話十五人

嫌な事さらりと忘れ今日も行く

豊中市 上出 修

粉もん慣れて大阪好きやねん

食べるより先にカメラのシャッター音

万博もカジノも欲しい浪速っ子

結婚に人生賭けて吉と出た

定年後置いていくよと妻が言い

豊中市 江見 見清

横槍じゃないぞ仲裁したつもり

孫に見るわが青春の熱い頃

洪水のニュースに若き日の記憶

深読みの仲裁当事者はボカン

メールへの返事は筒抜けの地声

豊中市 藤井 則彦

シャツに汗染みるほどまだまだ元気

空を向く芽にあやかつて生きている

鈍感と言われ気楽になれる日日

ばらばらとこぼす御飯に妻の喝

体力の限界知つてから謙虚

豊中市 松尾 美智代

真つ直ぐな道しか行けぬ一本気
独り言だんだん多くなる夜更け
毎日が戦いですね物忘れ
迎え待つ歩いて帰るには遠い
あちこちに傷跡残し梅雨明ける

豊中市 水野 黒 兔

思い出を瓦礫に変えた震度六
その瞬間動けなかつた震度六
震度六徒歩通勤の子らの汗
震度六猫が隠れて出てこない
断捨離の契機となつた震度六

富田林市 片岡 智恵子

雲の峯坂道の旅路はるかに
老いて今捨てた故郷の詩情恋う
背伸びして人一倍の頭痛持ち
振り返る足跡しのぶ七転び
悲しいこと過ぎて心に花が咲く

富田林市 中村 恵

激論の果てに出てきた氷水
テレ笑いバツの悪さを閉じ込める
まだいいか甘い予測は許されず
漂泊の旅は詩人の顔になる
昨日の卵が眩しく光りだす

富田林市 山野 寿之

三遷の教えも鳶の子はとんび
受話器からあの手の手の落とし穴
お喋りにマナーモードが要る車中
階段の妊婦へ荷物持つ善意
老いらくの鍵や眼鏡を捜査中

寝屋川市 籠 島 恵 子

三角屋根に腰をおろしている夕日
父さんのメールはいつも誤字脱字
ペランダに出るたび愛でる桜の木
昔むかし売った顔などもう醜
こめかみに巣くう鬼なら手なずけた

寝屋川市 伊達 郁 夫

情報の川で溺れている河童
浄土だと西向いて寝る母の癖
どっちにも挙げる両手を空けておく
栢山へ案内するとバスが来る
追伸に足した尻尾が良く跳ねる

寝屋川市 富山 ルイ子

震度5に時間が長く感じられ
こわかつたネ道行く人に声をかけ
電車止まると困ると思いがけよう乗らぬ
かんしゃく持ちと思いがけない事で知る
補聴器はすごい外せば音が消え

寝屋川市 平松 かすみ

駅弁の好きな娘と久し振り
和倉温泉三ツ指ついて仲居さん
付き切りで料理説明畏まり
やさしいな段差教えてお婿さん
兼六園わたくしだけがフリーパス

寝屋川市 森 茜

さりげなくさよなら告げに来たメトロ
ぎりぎりへいよよロダンになる机
アポロンを追う向日葵の高く高く
睡蓮へジャンプも一度青蛙
じりじりと迫るわたしの怠けぐせ

羽曳野市 安芸田 泰子

体調のすぐれぬままに雨期に入る
年相応の病しっかり持っている
プランターに頼る独りの夏野菜
庭の隅前忘れた花が咲く
冗談の中に少うし刺がある

羽曳野市 宇都宮 ちづる

豪雨きて鮎住む川も泥の海
長雨に冷凍野菜もてもて不
断捨離中食器は要らぬ引き出物
夫殿打ち出の小槌ありません
玄関の鏡に笑顔見せて出る

羽曳野市 徳山 みつこ

散散な環境変化緯度経度
綱引きの勝負や如何に米と朝
揚羽に心のせてひらひら夏を翔ぶ
あてにしてくれる人いて有難い
百歳へ統終章がいりそうな

羽曳野市 中川 ひろ介

津波禍と同じ光景水害地
避難所へ非常持ち出しリュック負い
どぶ川が溢れ牙むく川となる
しあわせをみんな流していきはった
五十年に一度の雨が降りやまず

羽曳野市 仲谷 真

梅雨あけの豪雨の被害いたましい
この暑さ彼岸までは続くかな
還暦は人生の折り返し百まで
秋祭り地車あちこち走り廻る
秋来るとしめっぽくくなり秋思う

羽曳野市 藤原 大子

好物が出たらカロリー気にしない
今日の悩み一年後には笑い種
外見より中身と癖に教えられ
生きている限りもしやがつきまとう
すみません言えば全てが消せるのか

羽曳野市 吉村 久仁雄

誤解曲解動じず未来見つめてる
偏差値と無縁の知恵に老母は満ち
欲いっばい持っているからよく笑う
ネバネバに生きてサラリと逝くつもり
ルンバのあとの部屋を隅々まで掃除

東大阪市 北村 賢子

爪痕の酷さへ涙湧いてくる
豪雨去り今本番と蟬しぐれ
エンディングノートおちおち生きられぬ
薔薇よりすみれくらいの幸でよい
胸底にいつでも温い父母の住む

東大阪市 佐々木 満作

任しとき気軽に受けて悔いている
我を捨てて持ちつもたれつ五十年
民宿の炬端で粹なおもてなし
想像を絶する災害の恐怖
爽快に受け答える結弦くん

枚方市 丹後屋 肇

待つ時間熱中症が気にかかる
深い吐息拉致問題は蚊帳の外
人身事故今日の段取り皆狂う
掛け持ちのパートで凌ぐ家計簿
五千歩で足がストライキを告げる

枚方市 二宮 山久

打水にかけろ揺れる昼下り
この夏も涼しさ運ぶ金魚鉢
目立たない人にもあつた隠し芸
健康は今日も出かけるウォーキング
ごもつとも胸にチクチク妻のぐち

枚方市 二宮 紫鳳

ピアガーデンストレス流す一気飲み
向日葵を活けて気持をオンにする
毒舌も愛情ゆえのボケ防止
万歩計大活躍のダイエツト
支え合い歩幅揃えて七十路

枚方市 藤村 亜成

真実の友見失う有頂天
どこまで保つか力量確かめる
悪役の優しい素顔を知る家族
愛のある言葉さらりと投げかける
豪雨のまえに施す術のない人智

枚方市 山口 弘委智

辞書枕ことばヒントを夢に見る
届かない誠意悔しく折りたたむ
ためらいの背中押されて陽は沈む
バラの刺妥協せぬ意地抱いている
イントロの長さにこころ透けて見える

藤井寺市 太田 扶美代

父という懐かしい人永遠に
散髪から帰った夫ちよつと好き
カサブランカの香り我が家を包囲する
手の傷を見て思い出す母の冬
余生半分びっくり箱に入れている

藤井寺市 鈴木 いさお

寡黙な父の偶のひと言身に沁みる
難聴も偶に得ることがある
子の巣立ち覚悟はしてたつもりだが
常連には少しおまけをして欲しい
まだ少し微熱を抱いて太宰読む

藤井寺市 吉田 喜代子

青岸渡寺日常忘れ仏の子
霧も湧きしぶき凄まじ那智の滝
赤しそジューズ色は懐かし母を恋う
始めてのスイカのつぼみ揺れて夏
独身貴族きつと泣きたい老いは来る

藤井寺市 若松 雅枝

来年の予定年号決まらない
一つずつ言葉忘れて無にかえる
卒寿過ぎやつと我が歳自覚する
留守番の夫に好きなカニ缶を
新聞の切り抜き済んで今日終る

箕面市 大浦 初音

余裕ある暮しを目指しあくせくと
ずけずけと言つてライバル多くする
線香の煙がゆらぐ気のながれ
経を読む僧侶も泣いたお人柄
断捨離がなかなか出来ぬ戦中派

箕面市 酒井 紀華

町内会子供相撲の優良児
好きでした祖父のなぞなぞ七回忌
好きですと口にはしないカスミ草
素直な足ゆるい坂でも転びます
入門書買いにみどりの風の中

箕面市 出口 セツ子

幸福と思う地震で来る電話
夕方迄電車動かず救援に
家被害あつても家族無事な幸
水道もガスも出ている有難さ
平穏な明日を信じてつく眠り

箕面市 中山 春代

揺れている耳に「地震です地震です」
震度六金魚が星になりました
ヘッドライトを首に余震の夜が明ける
飾り物棄てて自由になった壁
緑陰をピンクに染める合歓の風

箕面市 広島 巴子

荒れ狂う自然ただただ祈るのみ
不安な夜子らの電話に励まされ
どうしようプランターには茄子一つ
バイキング体操仲間さすがだな
懐メロの歌手同い年がんばろう

八尾市 寺川 はじむ

日本の味方本当にアメリカなんだろか
生きてる証直ぐ濁り出す金魚鉢
待ちに待った田植に背伸びする早苗
もう起きろまだ居眠りをしてるトラ
旅土産サイズに悩むアロハシャツ

八尾市 宮崎 シマ子

祈ります天変地異のないように
釣瓶おとしの時間へ心せくパート
赤とんぼしみじみ思う戦死の日
足音が三つになった杖ついて
窓ガラス拭き秋空と仲よしに

八尾市 村上 ミツ子

冠水の町救助待つ屋根の上
異常が通常になってきた豪雨
半端ない雨へこころも立ち竦む
梅雨明けへせみも元気に鳴きだした
えらそうに命令をするセルフレジ

八尾市 山根 妙子

暮れ残る空は紫陽花色になる
糖質やプリン体とかでもビール
控え目な下馬評当る解説者
名優がまたひとり逝く白い庭
娑羅双樹盛衰語るように落ち

神戸市 上田 和宏

生れたらそこは川柳塔だった
五七五心の開く音がする
五七五心をつなぐ物語
ハザードマップこれを信じて備えよう
猪も被害者らしい山崩れ

神戸市 奥澤 洋次郎

プラスチックの海やクジラの腹の中
病院で病人になり帰り来る
身の程をひとと比べて何処へゆく
重ねきた阿呆を川柳の糧にして
濁流がなんで呑み込むあの笑顔

神戸市 富永 恭子

ジム帰りたらふくスイーツバイキング
マイカーで行きジムマシんで歩く
ウエストの位置はどうやらこの辺り
蹴り飛ばす筋肉ついたふくらはぎ
いい男に会ったわけではない目眩

災害の度に見直す家の中

神戸市 能勢 利子

優先順位やはり自分と言う卒寿

義援金ケーキを断って送ります

どこに送るか迷ってしまう義援金

リビングに仏壇移しにぎやかに

神戸市 細川 花門

僕の今のところはシャガールの青

わだかまり解けて十年目の握手

情けない男のままに終れない

自我を捨て透明人間になろう

五歳児の花嫁姿目に浮かべ

神戸市 山崎 武彦

地球儀ぐるり今ロンドンに霧の中

大丈夫さりと忘れてあげるから

ライバルと持病の数を競い合う

気持だけ年金上げてくれません

少しでもハードル下げて子をほめる

明石市 梶谷 和郎

師の言葉今も心に活けてある

寝返りのたびに顔出す里の母

身の証しだけに使ったパスポート

晩学の双葉へそと水をやる

独り居のテレビ笑ってから眠る

芦屋市 黒田 能子

ルンルンのママの美味しいハンバー

月並みの暮し一番性に合う

じゃあまたね会う約束をしましたのね

笑顔には笑顔で返事しています

柔らかい考え方で暮します

近くまで来たときやさしい母の嘘

問診表嘘を書きたい酒の量

正直な妻には嘘が言えませんが

嘘も方便こんどは嘘に縛られる

指切りの誓い嘘にならぬように

笑点の笑い支えてきたボンベ

ハルカスの憂き世眺める神の席

うっかりと猫に洩らした内緒ごと

半端ないって神技のスルーパス

タックルにひやり自転車すり抜ける

尼崎市 永田 紀恵

朝刊太郎夕刊太郎居た昭和

売れ残り値段上げたらずぐに売れ

落書きを待つような白い壁

平和ボケ聞かなくなつた労働歌

たまにはねおつき合ひしよフルムーン

さつそうとダンプ運転してる女子
藤井宏造

ぞんざいに扱ってきた足の裏

マドンナの思わぬ誘い血が騒ぐ

下で待つ流しそうめんやや不潔

三回忌すませば気持ち軽くなる

尼崎市 藤田雪菜

子等を待つことのうれしい割烹着

コーヒータム自慢話をポケットに

雨模様出しとく鉢と仕舞う鉢

とし忘れ黄信号で走りこむ

ひとり居の部屋地震には大童

川西市 山口不動

梅雨の入りカーペンターズ聞いている

医療界整形外科が花形に

じいじいは遅いねと言う孫を追う

テレビ出る野党の女史の目の怖さ

ハリウッド主役スターは死にません

篠山市 北澤稠民

梅雨さなか田の草だけは生き生きと

ほどほどの暮らし幸せ自分なり

軽やかにたどり着きたい終点へ

人は人自分の色を出して咲き

同じ道歩いて父の苦勞する

地震予知当たっているかいないのか
篠山市 酒井健二

敗戦を終戦などと謀るな

株相場一人二人と転けて行く

冷蔵庫いっぱいにしてまだ不足

四コマ目大事なものが見当たらずぬ

三田市 足立つな子

人混みをさけていで湯で母と饗う

若者の話を聞いて世の移り

半端ない一途の努力魅了する

前撮りの踊らされてる母と娘と

食事会みんな幸色になる

三田市 上田ひとみ

放つといてどうせ私の愚知だから

いい人の基準あいまいだからいい

勘違いさせてもらって生きている

もつとほめてほめて欲しいの私

キセキだと思つています窓の外

三田市 尾崎一子

梅たわわ友と楽しむ梅レシビ

老い忘れ母性豊かに孫と住む

老害と意見二十歳の顔をする

腹ペコで帰る部活の晩ごはん

七十年生きて災害免れる

戦災と災害命二度拾う

三田市 北野 哲男

避難所で寝息確かめ合い安堵
年一度ロソク灯す被災の日
埋み火が風の噂で目を覚ます
飾らないモダンが匂うのが男

三田市 多田 雅尚

御朱印を集めて巡る無神論者
名水に本籍地まで書いてない
頭数増やしてみても税の無駄
負け試合然れどマナーは負けてない
日除けにと植えたゴーヤの収穫日

三田市 谷口 修平

暑いので映画見に行き風邪を引く
最初から乏しい理性奪う酒
無駄省け無駄を省けば仕事無い
帰りたく無くても帰るまだ五歳
十一が十になる夫婦

三田市 野口 真桜子

あの時は見切り発車に乗れた僕
善と悪入り乱れての長寿戦
ああ日本疲れの文字が浮きあがる
一代記可もなく不可も無く綴る
親分でおれるこの村出るもんか

納税通知くる度悲鳴あげる妻

三田市 福田 好文

無料バス見せて老人らしくする
朝昼晩元気に食べて疎まれる
ごみ出しと後片付けは主夫の僕
乱獲と保護を交互にするヒト科

三田市 堀 正和

トラが好き高校野球もつと好き
夏百回孫連れて行く甲子園
僕だってリバーシブルで二刀流
聞こえない振りがだんだん板に付く
オレオレの電話も来ない妻の留守

三田市 村田 博

旅に出る供はリュックと保険証
立ち喰いそば並び気になる時刻表
地下街を抜けた途端に立ち眩む
クラリネット吹いているよな立葵
甚平着るこれぞ和風のクールビズ

高砂市 松尾 柳右子

善意から善意支援の輪がぬくい
青い空喜怒哀楽を飲みこんで
独り身にデイサービスの笑い声
送迎者やはり太陽ありがたい
テーブルの下にかくれた震度6

宝塚市 田中 章子

あの店で桃のポタージュ始まった
透明になる瞬間が好き わらびもち
おめざめにチョコをひとかけがんばろう
完熟のトマトに勝てぬ夏盛り
倍倍で育つもらい手なひ胡瓜

宝塚市 丸山 孔一

妻は旅自由空間落ち着かず
おばちゃんは一駅だけど席探す
有料アプリ インストールの指迷う
百均で満たせる程の夢であり
万歩計歩幅減ったか歩数増え

西宮市 秋元 てる

祝白寿花に囲まれ泣き笑い
老いて尚好奇心には蓋させぬ
人の世は意外が多い程愉快
きっちりと済んだメモには二重丸
待合室仲間のような敵のよな

西宮市 緒方 美津子

ありがとう温い言葉はひらがなで
梅雨晴れ間ばあちゃんだって忙しい
大阪の南はもはや異国です
お似合いのお二人ですねハイという
お静かに家計簿の愚知聞いてます

西宮市 亀岡 哲子

それぞれに神が下さる知恵袋
順調なさざ波小波心電図
日にち薬効いて怒りのあほらしさ
お隣の犬と和してる咳くしゃみ
今はもう息子が父の如くあり

西宮市 西口 いわゑ

婚約の孫よ拍手の波あびる
滅入ったらコーヒー入れて花のそば
押花がヒラヒラ古い日記から
半夏生一人の窓に大夕日
昼下り風鈴の音に人を恋う

西宮市 福島 弘子

無沙汰わび父の日参り梅雨晴れ間
荒波に母の港のある安堵
いい波に乗ってこれからもう一度
携帯の電波届かぬ過疎も夏
発表会孫の出番は耳澄ます

南あわじ市 萩原 狸月

マンネリの日日を抜け出すミニ旅行
忍耐が同じ話を聞く介護
老大に戦争知らぬ同期生
甥四十結婚式に集う老い
それでよし親踏台に子は巣立ち

野菜売る生徒に笑顔支援校

奈良県 安福和夫

校庭で穫れた自慢のしまあかり
和氣藹々人の温みを知る売り場
明るい声親の安堵が目につかぶ
友を得た子等は伸び伸び大丈夫

奈良県 谷川 憲

気心が通うご近所助け合い
ママ友がインスタ映えを競い合い
拉致と核解決の道今度こそ
タブレットひとつで仕事持ち帰り
旅先で避難指示あり逃げ惑う

奈良県 中原 比呂志

診断は動脈硬化の河川です
天の川決壊列島へ降りそそぎ
地の震い天の涙も防げぬ身
強い者一人勝ちする新モラル
一〇〇歳が目標水飲み昼寝して

奈良県 長谷川 崇 明

土砂被害洗い流せぬその怖さ
天気なら仕事と決めてする散歩
血圧を言い合う友にする電話
夜店には昭和の匂い夏祭り
想像である世の話する僧侶

はんばねえ力を秘めている根っこ

奈良県 渡辺富子

遺伝子の不思議を思う前かがみ
スマホから漏れるうわさの嘘まこと
友の老いわたしの老いと重ね合う
御破算をしても消えない過去がある

奈良県 阿部紀子

台風地震豪雨と押し寄せて
震源地大阪の北広範囲
ガスが消え付け方知らずネット見る
ネット見てやつと火が付き調理する
家揺れて写真だけ落ち助かった

奈良市 宇賀史郎

躊躇いは虫の知らせか事故回避
寝不足をどんな笑顔でごまかそう
息子たちワインクーラー持つ暮し
新築の居間にシックな父遺品
口下手は何も喋らぬ護身術

奈良市 高橋敬子

はじめないお酒のみとは距離をおく
脱いだ靴隠しようないLサイズ
たつぶりの時間があつてわく悩み
ささやきを聞きかえしてる老いの恋
ぜいたくな裏地ちらりと妻の意気

奈良市 辻内 げんえい

合図しても聞こえぬ見えぬ老夫婦

腰痛介護したりされたり老夫婦

買物メモ散歩の度に渡される

安倍三選支援しているのか野党

W杯に隠れ法律たんと出来

奈良市 山本 昌代

医師の声ストンと晴れた御墨付

寝ときやと粥を運んでくる息子

大の字にゆるりと解けてゆく時間

学の無いぼくは誠意を尽くします

言訳はやめた心が冷えてくる

奈良市 米田 恭昌

老母はまだ退屈という贅知らず

強面を泣かせた母と子のドラマ

クオリティライフ上手に活かすロスタイム

さすが日大首脳図太い保身術

豪雨災害思えば何のこの暑さ

生駒市 飛永 ふりこ

かなわんな雁字搦めじゃ息つまる

挽ぎたての野菜たっぷり皆が笑む

初すいか真夏の汗を掬い取る

大空へもくもく伸びる茄子の匂

最期まで自分に負けずへこむまい

香芝市 大内 朝子

半端ない酸いも甘いも噛んで今

酸欠の金魚のごとく炎天下

居酒屋の和気藹藹の輪が温い

日日生きる心次第の明と暗

案じ合う柳友の居てほっかほか

香芝市 山下 純子

持ち寄った菓子でふところ探りあい

ワールドカップにわかファンも深夜まで

特大のテルテル坊主重荷かな

弱点にさらりと触れて去った君

細切れでカレーすき焼き妻の腕

橿原市 居谷 真理子

準備完了さあてロシアンレット

真つ二ついつそ気持ちのいい別れ

過労死の遺影の襟にある社章

懸命に浮いてる僕もこの星も

欲しかった本ですまは撫でてみる

桜井市 安土 理恵

積んできた暮しさらっていく豪雨

痛む足どこへ置いても痛い足

思ったこともないことばかり問う娘

戯れてみよう子猫になれるかも

それではと秘密の箱に手をかける

和歌山市 磯部義雄

古里の総理自慢にもならない
災害がライフラインを世に晒す
輝いた束の間の過去思い出す
暑かろうと氷一片金魚鉢
大発見拾った石が化石とは

和歌山市 上田紀子

ドーナツの穴を埋めてる苦勞性
若鮎の頃がなつかし子の水着
優しさを使い果たして行くあの世
糠味噌を混ぜると亡母の音がする
せかせかと生きて世間に乗り遅れ

和歌山市 喜田准一

各論になると目線がズレて来る
ひたすらに妻の路線をひた走る
鳴く虫も休む時間か夏の午後
調子よい答が返る赤トンボ
五輪への一本道を突っ走る

和歌山市 坂部紀久子

人生八十路今が旬です燻し銀
飲み仲間女おしゃべり喫茶店
腰曲がる母と同んなじ影になる
画面全部洪水となる西日本
一万円今日も黙って消えました

和歌山市 武本碧

老人力うまく煽って生きている
感動をつい忘れがち老い二人
勝ち負けは付けぬ仲間で平和主義
旅慣れた鞆心も荷も軽い
誰にでも器に似合う道がある

和歌山市 土屋起世子

譲られた席がほんわか温かい
正直に話そう母は強くない
ぼやいても突込む人のない孤独
ゆとりある暮し糠床よい匂い
いろいろとあつたが嬉し笑い皺

和歌山市 福井菜摘

人間が好きで笑いの絶えぬ窓
積みあげた汗がたしかな風を読む
努力した分だけ華のある余生
何ごともし遠景にして美しい
わたくしに翼をくれた五七五

和歌山市 古久保和子

身ぶり手ぶりへカタコトのアリガトウ
こぼれ話のストックが有る冷蔵庫
使わねば錆びる私の二十四時
白紙には到底勝てるわけがない
思い出が解けて夏の雲に乗る

和歌山市 堀 富美子

バス客の一人になつて落着かぬ

其の道を目指す輝き眩しくて

紆余曲折来し方どれも生かされる

どうしようカタカナの名が出て来ない

気力だけ先行させて生きている

和歌山市 松原寿子

贅沢な自由お金はないけれど

傷ついた心へ趣味の灯を点す

切り札を煮つめもやもや吹き飛ばす

君がいて心のくもり溶きほぐす

お世辞だと気づいています旅一夜

岩出市 藤原ほのか

買物は慎ましくして謳歌する

かあさんの眩き今も胸をうつ

ひらひらと金魚アピール忘れない

鈍だけど保護色まとい生き延びる

鈍いけど自分のペース崩さない

海南市 小谷小雪

握手して思いの強さ量り合う

米と水ペンをまさかにとつておく

遠景の隅に私の星がある

骨のない鬼が背中に居て痒い

重要なお知らせ食べているポスト

海南市 堂上泰女

日本に酷いニュースが連鎖する

日本の法の甘さが生む悪さ

親権という名のもとの虐待死

救われた命行政甘すぎる

結愛ちゃんよあなたのメモは風化せぬ

紀の川市 宇野幹子

全身の毛穴に夏の風が吹く

母の膝タマゴの匂い酔い酔い

捨てるには惜しいがいらぬ物ばかり

鬼ヤンマ行方不明になる日暮れ

ほろ苦い罪読み返す日記帳

紀の川市 北山絹子

一枚の絵にも時代の彩がある

ペン胼胝に我が人生の詩がある

鼻唄で父はゆっくり起きてくる

透き間より遙かに見えてくる未来

明日へと繋ぐ善意の種を蒔く

紀の川市 楠原富香

嫁ぐ娘に母のレシピを添えてやる

芽の出ない人と歩んだ道の幅

青い夢抱いて社会へ同化する

後期高齢進む時計が悩ましい

線香のかおり先祖と手をつなぐ

中心がコロコロ変わる世界地図
通訳がいる女子高生の会話
限りなくゼロに近づく預金高
空中給餌ツバメ親子の離れ業
毎年のように記録的な猛暑

(前月分) 和歌山市 喜田准一

輝いていますかきみの2番星
震度6してはならないことばかり
あの人が好きだと知っている筈だ
振り付けの巧いお方の句が冴える
簡単な漢字も辞書が離せない

富田林市民文化祭 富柳会第68回川柳大会

と き 9月15日(土) 正午 開場
(昼食は済ませてお越し下さい)
ところ 富田林すばるホール 2階
小ホール TEL 0721-25-0222
(近鉄長野線 川西駅下車 徒歩8分)
課題と選者 各題2句 席題なし
「ひとり」 鴨谷瑠美子 選
「絵」 安土 理恵 選
「欠ける」 吉川 哲矢 選
「消す」 三宅 保州 選
「笛」 土田 欣之 選
「蜜」 山野 寿之 選
出句締切 午後1時
会費 1,500円 (お茶・発表誌呈)
お問合せ 池 森子
電話 0721-25-0603
主 催 富柳会・富田林市川柳会

第52回 東大阪市文化祭参加 第45回市民川柳大会

日 時 9月29日(土) (出句締切14時)
会 場 東大阪市立社会教育センター3階
電話 06-6789-4100
近鉄布施駅下車 北口三井住友銀行北へ5分
宿 題 (各題2句・出席者のみ)
「飛び火」 大楠 紀子 選
「納得」 岡部 幹和 選
「移る」 久保田千代 選
「ふわり」 鈴木 かこ 選
「満ちる」 藤井満洲夫 選
「こっこつ」 山崎 武彦 選
※昼食はお済ませの上お越し下さい。
会費 1,500円。(各題秀句賞・発表誌呈)
懇親宴 3,000円
問合せ先 穂山 常男 電話 072-923-7421
主 催 東大阪市文化連盟
東大阪市川柳同好会

第15回加古川川柳記念大会

時 9月16日(日) 午前 11時
開 場 開会 14時
場 所 加古川市総合福祉会館
加古川市加古川町寺家町177-12
電話 079-424-4319
JR加古川駅南口より南西徒歩約10分
参加費 1,500円 (参加費・句集代含む)
兼 題 各題2句 特別席題1句
「泉」 高谷 文弘 選
「凶星」 安部 美葉 選
「魅力」 辰巳 和子 選
「ヒーロー」 両川 無限 選
「路線」 村上 永筆 選
特別席題 岡田 篤 選
出句締切 12時50分
問合せ先 宮本 喜明 079-423-7221
原戸 麻也 079-424-7034
主 催 加古川川柳協会

川柳塔の

川柳讃歌

⑬

上方芸能評論家 木津川 計

悔しいが全てが老いに当てはまる

鴨田昭紀

老いの悔しさである。——「靴を履く時よろける」「重たいものを長く持てない」「瓶のふたを開けられない」「バスや電車でよろける」「下りの階段が怖い」「手すりがないと不安」「何でもないとこゝろでつまずく」「歩幅が狭くなった」「姿勢が前かがみになった」……のは（加齢による筋肉量の減少）だから（○○○を飲め）と新聞広告がいう。昭紀さん、「全て当てはまる」からといって飲みますか。僕の戦いは自転車漕いで坂道を上げることです。

淋しくて虹のしっぽを引き寄せる

松山芳生

「ブランコをおもいきりこいでいると青空にぶつかりそうになる／ちよいと飛行機雲にぶらさがりたくなる」と詠った詩人の山田喜代春さんはまた、「虹にぶらさがった少年は虹といっしょに消えました」、あるいは「神様に手紙を届けようと虹にはさんでおきました

ら、「虹色ににじんで読めない」との返事がきました」とも。夢見るような人でなければ詩人になれないことを知ります。芳生さん、貴方は詩人的資質を持った得難い川柳家です。

大地震今おきたらと風呂の中

米澤 俣子

阪神大地震が西宮を揺るがすや箆筒が倒れ、15cmの差で頭への直撃を免れたのが藤本義一だった。宝塚に住んでいた間寛平はリビングからテレビが飛んできたのを危うく躲したが家は全壊した。グラグラときたらすぐ戸外に出るべしが俣子さんは「風呂の中」なのです。下着や上着を着る間はありません。すっ裸にハダシで飛び出さねば建物の下敷きです。ということに俣子さん、なるのですが、命あつての物種と心得、恥も外聞も捨てるのです。

おばあちゃんにあげるとおもちゃおいてゆく

籠 島 恵子

おばあちゃんの誕生日、二階に住む息子さん一家が下りてき、順におばあちゃんをハグしてくれた。息子、その嫁さん、そして三人の幼い孫。その様子を見たおじいちゃんの詩人・月岡一治さんが「誕生日」で書く。「父親が祖母の誕生日を祝う姿を見て／小さな子どもたちの心は気づいていく／親子ってこん

なにもあたたかい／ほくも生まれてきたんだ／親子になって」。恵子さん、大事なおもちゃをお孫さんへくれたのです。いいお子です。

出世などせぬが故郷に顔を出す

松本文子

「男児志を立て郷関を出ず、学若し成らざんば死すとも還らじ」。昔の男児は徒やおろそかに故郷を発てなかつた。立身出世を鼓吹し、「末は博士か大臣か」と煽つた。その行き着いた先が十五年戦争と惨憺たる敗戦だった。そんな出世なんか要らんです。俣万智さんが詠いました。「なんでもない会話なんでもない笑顔なんでもないからふるさどが好き」。失意と傷心の啄木に故郷が温かかったように、文子さん、温かい故郷が一番です。

愚直という旗を一本持ち歩く

栗田 忠士

「愚直」をモットーにしたのが藤山寛美だった。名作の「下積み石」「人生双六」も愚直故に敗れる男の物語だった。役者生活50周年の挨拶で舞台に掲げたのは「愚直」の二文字だった。CMに出れば何億もの借金は容易に返せたのに、あちらを立てればこちらが立たずと拒む愚直さだが真つ当な選択をして男を上げた。忠士さんも愚直な人生を歩み続けた。だからその旗はポロポロだが浩然です。

橘高薰風句抄

〔橘高薰風川柳句集〕平成十三年発刊

天井が未来へ移行 担送車

麻酔より醒めて必ず夜なりけり

驚一羽身じろぎもせぬ手術熱

粥を嚙む 乳児嚙むよりおそれをなし

胃を切除って夏冬ながし 誕生日

馬籠・妻籠にて三句

お六櫛 われを籠らすひともなし

櫛の齒に秋の近づきいたりけり

雨上り 猫はや歩く石畳

雲 波に 波 雲に似し はたちの日

生き死には碁石のことでないのなり

黙契や 野に紫の花が増え

裏窓は山下清画く屋根だ

木犀と星が漉すなるこの夜気が

秋が来て笛は太鼓を恋しがる

葛の花咲き 樹下美人嫁ぎしと

憂国忌 柿は蒂のみ残りたり

半月のごろんとありぬ 憂国忌

四つ足で歩けば楽になる傷か

切株の俺の五年と子の五年

冬の酒 蛸の足こそ親しけれ

白蝶入り 黄蝶出て来ぬ 寺の門

夫婦にはなれなかつたが冬の旅

革命をめぐらすに 湯に身が浮くよ

お元日 日本人の目の黒さ

誕生の馬の額の白い星

紅椿 雪を解かしていたりけり

志操とや 嘴にある鼻の穴

手に足に関節のある寒さかな

ひとりよりふたりにこわき屏風波

黙契 いまも仏法僧が啼く

自選集

小島蘭幸

新幹線泊カプセル泊豪雨

妻は独りで豪雨の中を耐えていた
孫が来ている断水がまだ続く
色紙百枚酷暑に負けてなるものか
汗を拭くわたしの中にある清水

山本希久子

譲れない一線があり老夫婦

風雨に磨かれ少うし丸くなる私
老いの覚悟へ少うし揺れる茶の間の灯
五年後の私を想う背を正す
日々好日起伏なし感情線

板尾岳人

影法師味付けをして軒下に
生と死を行ったり来たり酒旨し
母よりもキレイなひとを見かけない
動物の牝は美人で優雅です
直葬でいいよと孫に言っておく

川上大輪

木本朱夏

小西雄々

斉藤 劼

数え唄歌うたんびに詞が変わる
蚊を叩く程の殺意は持っている
耳鳴りという煩惱の呻き声
始まりも終わりもゼロになる答
言葉にはならないものが頬伝う

水茄子に茶粥は父母の習いにて
風鈴のリズムが誘う白昼夢
補水液をぬるり飲み込む原爆忌
体重計に乗るまで夢はあったのに
百日紅本気で燃えていたのです

勝ち組に座って回転寿司を食う
軍隊の夢老妻と話し合う
仏壇の聞こえる声は父母の声
朝早く眼がさめこれもも人生か
朋友に負けない詩集またも買う

病葉をそつと癒している星座
芋を掘る土に祈りを深くして
痛む肩へ止ってくれる赤とんぼ
子の植えた稲穂しつとり掌に重い
負け鶏の動悸をそつと抱いている

新家 完司

都市砂漠旅と思えばまた楽し
グーからチョコキパーと満開チューリップ
どんよりは夏風邪なのかグータラか
泳がないけれど美魔女を見に行こう
花道をトントントントン飲み会へ

高瀬 霜石

段取りの中のひとつの鼻裏
Iを聞き十を知る奴危険なり
ズックとは呼んじやいけないスニーカー
カステラは不滅 見舞いにお悔やみに
右肩上がり死神の棒グラフ

竹 治 ちかし

日々命削って謳歌する余生
生きる術知ってか群れの中に居る
まだ憂いあつて延び代抱いている
雷の律義移る季を知らせ
不幸難民の子とパンダの子

津 守 柳 伸

ガタガタのパーツ支えて生き延びる
ハイウエー蛇口で注ぐ玉ねぎ茶
生産者表示トマトの熟れ具合
夏野菜もりもり食べるカゴメの輪
圏外の電話祈りが深くなる

都 倉 求 芽

まだ明日も画面びつしり傘マーク
大地震必ず空もあとで泣く
乾ききった昔話にまたひたる
健康を願う今日の空明日の空
一周忌のばせとお寺は蚊に弱い

土 橋 螢

金メダル二ツ国民榮譽賞
盆踊り復活させる染め浴衣
約束をしていないのに盆が来た
九十歳なんとかたどりつきました
カーナビに案内させて京まいり

西 出 楓 楽

箸を所望するフレンチとイタリアン
お若いと言われ慌てて背を伸ばす
ガラケーを使いこなせぬままスマホ
ライバルは自分八十歳はそこ
好々爺あり好々婆ない不思議

仁 部 四 郎

気にかかる作況指数秋になる
かかりつけと鯖の話で秋になる
本棚を整理してると秋になる
思うべきことを探して秋になる
西空が気になるような秋になる

前 たもつ

窓開けて寝ていることは内緒です
持病克服八十六をほめてやる
両の手で小さな愛をあたためる
委ねるものあって夫婦の旅続く
パートV天に輝け百句集（故藤井正雄さん百句集）

政岡 日枝子

O型の私の耳は楽道家
老いた老いたとうるさい人と棲んでいる
年金は自分で使ういいじゃない
そのうちに孫も地元に棲むという
犬の散歩にまだつきあえる足である

三宅 保州

ほんとうのことを知らせぬのも情け
贋作とわかっていても買う安さ
敗因と言えば空腹だったこと
曲がつても曲がらなくても胡瓜なり
シレッダーに噂話が引つ掛かる

宮西 弥生

もう無理がきかぬと無理が止められぬ
躓いた明日の石に若さある
泳がせておこう女の赤い服
ほんわかと昨夜の残りをたべておく
進ませた時計と余裕のあるくらし

福士 慕情

結婚式も地鎮祭も大安
流行を着るマネキンだから似合う
立ち読みで昨日の続き読んでくる
五円玉ぎょうさん持って寺社巡り
居酒屋で天下論ずる絡み酒

村上 玄也

トランプが吠えると世界揺れに揺れ
カジノ好き熱上げ過ぎる大阪府
極寒から猛暑へ季節早回り
人間の愚か自然が牙を剥く
恐いもの地震雷火事豪雨

森山 盛桜

異文化は限界村のシェアハウス
どう進むべきか海抜ゼロ地点
「ハンパない」いつ遣つたらいいのやら
独裁を許した二の腕のたるみ
余波が来る予感答弁拙かった

八木 千代

同居人
もう一人の私と棲んで二十年
独り居の机に突如現れた
今や伴侶と思えるほどの同居人
終のくらしに増えた三人めの私
新しい部屋を心に増やさねば



森の句集

『地球の塵』

黒川紫香

別々な事考えていて夫婦

嫁に行く姉から父を頼まれる

平成へひばりの唄はまだ消えず

ひとつの絵 亡妻によく似て立ちどまる

愛情がどこかに見える母の嘘

恋人の家で鳴らしたオルゴール

てっぺんで呼んで居るのは父らしい

円周の真ん中辺で旗を振る

(阪神大震災)

ドドンドカン判らぬままに跳ね起きる

真つ暗な中 呼び合っている家族

制服で会社の型にはめられる

いい眼覚め朝のスープはお喋りで

オアシスの中で欠伸をする親父

スパイスが効いてる母の助け舟

ふたりだけで歩く二人の星明かり

(平成二一年二月一〇日 発行)

温故知新

『高杉鬼遊川柳句集』から

何時か死ぬ人と人が笑いあい

これというものもないのに皿の数

老兵の棘 八月にうずきます

ヨシモトで笑うが家で笑わない

気のない鬼で毎晩酔うている

しあわせな一日 仏壇を閉じる

曼陀羅は仏の国の遊園地

ホルモンが匂うわたしの好きな駅

手を打ってわが人生はこれくらい

旭町 豆秋さんが酔うてはる

あの世から多久志名で来る丹波栗

小松園きたので句会始めます

梅里さん山中節をやつてえなあ

大萬で好郎はんを待つあわび

改札を先頭切つて出る路郎

何よりも梅志句評に載る一句

子の病い母親叱る生々庵

森繁の檜が届く春巢さん



西出楓楽選

大洲市 花岡順子

まるいまるい円が私にも描けた

平仮名が好きしんなりと京女

細々と挑むパソコン古稀の指

削除した記憶時々顔を出す

大水に私の脳が流される

人並みに円周率がまだ言える

池田市 上山堅坊

逆転無罪聞いて怒りが込み上げる

誘えども返事をしないすかん蜻

二つ三つ大きな波を越えて八十

青信号さつと渡れぬブルーな日

「うっかり」を言い訳にしたまた今日も

流石だと言われる一句めざす旅

泉大津市 助川和美

最近テレビに吠える事多い

サッカーを知らん人まで盛りあがる

タイガース勝たんと亭主笑わない

幸せです食事の後にくる睡魔

夏休みコツを覚えた逆あがり

セールスだけ私ひつこく口説くのは

瀬戸内市 宮宅比佐恵

無駄かとも思うが義理も欠かせない

今日も無事みんな揃うた顔と顔

ときどきは五体の愚痴も聴いてやる

美しい会釈安らぐ風もらう

絵手紙にそつと偲ばす老いの夢

生きるとは予期せぬ風の曲り角

尼崎市 清水久美子

地震予知出来ぬナマズを飼っている

犬派と猫派が無い物ねだりする

雨乞いのカエルに似ているトラファン

会心の作が歯牙にも掛からない

換骨奪胎してたらすたる才

怒ってる訳も聞かずに丸め込む

病室の窓にも来るよ青い鳥

広島と長崎思う暑い夏

妻入院二合の酒と夜過ごす

花火より浴衣まぶしい夏祭り

ブランコに乗ると青空近くなる

体内の灰汁を吹き出す夏の汗

神戸市 敏 森 廣 光

宇部市 高 山 清 子

気まぐれな風が残り火掻き立てる

置いて邪魔捨てるに惜しい古箏

主婦業を卒寿すぎてもやめられぬ

人名に振り仮名ほしい新世紀

残照の昭和に忘れ物ばかり

終活の手がアルバムにまた止まる

豊中市 齋 藤 奈津子

拾い猫今では家のボスの顔

エレベーターブザーを鳴らし乗車拒否

土砂降りに傘さしかけて今夫婦

もやもやを晴らすつもりが二日酔い

断捨離と知らず夫が探す靴

旧知なく生まれ故郷の墓参り

大阪市 中 島 栄 子

衝動買い又も似合わぬ服買って

老い故か逝った人達ふと身近

お喋り仲間ひと時老いを忘れさせ

心にいつも鎮座している夫の影

時時に夫の気配をふと感じ

弱虫で未だお骨を離せない

貝塚市 吉 道 あかね

被災地にわんわんと啼く蝉しぐれ

年金から天引きしたという通知

辛口のカレーで認知予防する

ギラギラの朝たつぶりの日焼け止め

風の道廊下で昼寝しましょうか

リメイクをするもつたないを解いている

大阪府 神 野 千恵子

午後三時おやつがこわい糖尿

ベランダにバッター一匹暮らしおり

呆けてみる暗い事件が続くから

清張の鬼畜ノンフィクションになり

SNSひとりぼっちが増殖し

根腐れをしているような永田町

竹原市 若 年 幸 子

広島県ギザギザ刻み去った雨

友の被災心痛めて聞く電話

土石流下ミノ倒しでやって来る

頭上とび交うは取材のヘリらしい

大変だスーパーコンビニ棚が空
復旧へ熱中症という魔物

大阪市 磯 島 福貴子

大阪市 森 廣子

戻れるなら夢あふれてたあの頃に
化け猫の映画でなつた猫嫌い

一夜で被災梅雨明けの空恨めしい

仁王立ち雷抱いて迫る雲

持って生まれた運生かす殺すは風次第

大阪市 小 野 雅 美

良からぬ噂切り取る耳を持って余す

笑顔でも心突き刺す針を持つ

私へとすると流れ着いた罪

決断を迫られずれたつけまつ毛

素顔まで晒してもまだ責められる

大阪市 柴 本 ばつは

若づくりしても駄目やと膝が言う

八起き目の膝だ危ないもの避ける

貸したのに貰たやなんて呆けはつた

真面目故許せぬ矛盾抱えこむ

台風一過青柿みんな掻つ攫う

大阪市 樋 口 眞

敗戦日あの放送を忘れない

旱天に日陰拾って医者通い

朝刊を読み終えた頃受診でき

ああ地震人知全く及ばない

地球挙げ感動タイの救助劇

明日へと夢追いかけてまだ生きる

辛酸をなめて優しくなる目元

ホタル待つ気温時間は丁度いい

天災はお手柔らかに願います

元気で育て茅の輪くぐりの手を引いて

大阪市 松 田 聰

外遊がお好きと見える安倍首相

タイミング見さだめている孝太郎

声挙げて政治変えよう私達

コンピューター便利さ過ぎて脆い都市

リュウグウへハヤブサで行く日はやがて

門真市 坂 本 星 雨

父母を二度失うような慕仕舞い

大阪の震災よりもW杯

停電になって家族が欲しくなる

シャンシャンのニュースの次は虐待死

絶滅危惧種とは善人のことだろう

河内長野市 中 島 一 彌

せわしない梅雨の晴れ間の布団干し

青空に天をぶつ裂くジェット雲

錆びた脳に酒一台の潤滑油

留守電が2件入った震度6

ネクタイは二本の暮らし黒と白

堺市 羽田野 洋介

同期会出席通知減るばかり
会議中ため息ついてにらまれる
内と外二つの顔を使い分け
飲むほどに反省なんてうわの空
手不足と聞いても貸せる手はないぞ

堺市 古川 光雄

眼鏡どこ入れ歯はどこだ物忘れ
体力が落ちて気力も落ちて行く
妻娘犬におはよう俺になし
プレスリー パットブーンのが青春
誰か病む家族の暮し重くなる

堺市 大和 峯二

親友と未来を語り夜が明ける
逆境を逆手に強く生きる日々
嘘言えど妻にかかれば丸裸
政策の自信のなさを多数決
米朝の歩みに日本策がない

高槻市 三谷 白黒

理想ですおとぎ話の爺と婆
地震後に電話来る人來ない人
パソコンが出来ない理由で役おりる
友も皆同じように老けて来た
プチ別居家族円満秘訣です

豊中市 荒木 郁子

何よりの特効薬は甘いもの
元氣呼ぶプラス志向の暮らしぶり
口喧嘩返す言葉に棘がある
欲は捨て元氣でいれば良しとする
子の未来潰してしまふ親の欲

豊中市 貝塚 正子

骨密度年金ほどに減ってゆく
強風に骨ギンギンと立ち向かう
叱られて一人寝る子の泪あと
甘えてはならぬ手綱を締め生きる
知らんぷり出来ないタチでお節介

豊中市 木藤 こみつ

電柱は犬が用たすためにある
いつ見てもおんなじ順の虹の色
歯が風邪をひきそう歯石取った後
アイマスクつけて私だけの闇
愛犬の餌代入れてある食費

枚方市 佐藤 武紀

紺スーツ就活の夏汗まみれ
交流が築く隠居の暮らし術
宝くじ待てど海路の日和なし
楽隠居しがらみ多少欲しくなり
通学路伸び伸び育て笑み投げる

枚方市 谷 英也

お隣さんおでんと分かる換気扇
夫婦喧嘩上から目線癩のたね
倦怠期工夫次第でバラ色に
八十路過ぎ妻の後からしよぼしよぼと
ママの指しっかり握り夢の中

八尾市 田邊 浩三

人の世話してる間はボケはせず
レスリングの外の面白い
トランプは誰を味方に生きていく
妻子孫曾孫もみんな我が味方
女房と消費期限でまた揉める

八尾市 前田 紀雄

優先席顔の皺見て譲られる
地震台風日常茶飯狂い出す
W杯日本列島不夜城に
万博で見れますかりゆうぐうの石
総入歯豆腐の角に癒される

八尾市 山川 寧

エレベーター定員二人ホテルパリ
行水が懐かしいパリ独り旅
持ち歌に飽きても新曲馴染めない
懐かしのメロディー青春が蘇る
クラス会いつもラストはナツメロで

大阪府 小栢 こずえ

声ぐらい歳より若く生き生きと
妥協して負けるが勝ちと思いき
格言のひとつひとつに励まされ
目立たぬよう上手に下る老いの坂
ド忘れも愛嬌にする年の功

大阪府 畑 中節子

脳のメモすぐ消え去りて大あわて
地図抜け旅の思い出また楽し
野菜畑雨たつぷりでねやすみ
雨降れば仕事忘れて指を練り
宿浴衣心も口も軽くなり

神戸市 近藤 勝正

結愛ちゃんの「ゆるして」辛い外も雨
ブロック塀守る役目のはずなのに
会者定離会うのが少し辛くなる
地方紙にくるんで送る里の味
初ナスの調理に悩む楽し宵

神戸市 山根 弘華

残り火をかき立てながら暮れる老い
恙なく生きて卒寿の一人旅
生きるとはきびしいものと悟る日々
没句でも一文字替えてよみがえる
ごろごろと過去が飛び出す古日記

伊丹市 延寿庵 野鶴

ざらざらのところが和むみすゞの詩
清濁を呑んでところが丸くなり
コミカルに生きて笑顔を絶やさない
ふいと出たブーメランが戻らない
天を突き入道雲が笑つてる

篠山市 久保木 剛

冗談は人見て言わな怒られる
五反でも百姓だけで生きた過去
あの時にやめときゃ勝てたパチンコ屋
アメフトも政治を真似て白を切る
もう辞めた思つた頃に選に入る

篠山市 藤井 美智子

ありし日の母の言葉にあるヒント
サラサラの血へ玉ねぎの物語
靴選びはき心地先おしゃれあと
菜園のきゅうりの味に惚れる日々
苦しみを川柳にして救われる

三田市 九村 義徳

しがらみを絶てば拡がる青い空
停年後自由気ままに生きてます
風になり自由気ままに舞つてみる
肩の荷がまだいけますと言つている
組板の妻のリズムで目を覚ます

三田市 幸田 厚子

重力は私のお腹下げている
世のために逆に使えよ知能犯
コンダクター飛び散る汗と丸む背
二丁目のお姐個性の厚化粧
晩酌の肴は妻の愚痴の串

宝塚市 太田 としお

大阪好きやざつくばらんが堪らない
結局は笑つた者が勝ちになる
プラス志向言うは易しで難しい
負けるのが本真上手なタイガース
長生きが幸せだとは勘違い

宝塚市 岸田 万彩

中流の暮らし澱んで不透明
年金で生き死にできぬさじ加減
行けるんじゃないかな宇宙のりゅうぐう
履歴書というにはちよつとシヨボイ顔
いやだいやだ組板の鯉になるのは

和歌山市 西川 千鶴

また明日笑顔のまま陽が沈む
手の平の匂い残して逝つた母
主役より黒子が目立つ猿芝居
ドラマよりロマンチックに生きてます
今鳴るな黙祷中だ腹の虫

和歌山市 福島 一雄

お土産と魂胆持つて里帰り
泥水の下に寝てるか青き稲
大空よどれだけ雨を溜めている
人の智恵自然を超える時はない
天然の恵みに甘えエゴである

岩出市 村中悦男

お若いと言われて痛い腰伸ばす
朝一番明けて入れます青田風
百歳まで無理と思うが子等が言う
喜怒哀楽うすめて日々のある後期
天災は想定外を突いてくる

和歌山県 森下よりこ

アイスノン枕に夏が始まった
ほうれんそうのスープを飲んで元氣出す
徹子の部屋を彩る花も楽しくて
大雨のニュースに句会諦める
降る雨に伸びるに任す畑の草

鳥取市 副井裕

焼酎と川柳漬けで喜寿迎え
鍬持つ手湯割り持つ手に早変わり
基礎英語聴いて描いた未来像
露天風呂憂さを流して蘇る
一番に欲しいギフトは作句術

倉吉市 岡崎 美知江

過ぎし日を語るゆとりが出来ました
ため息はよそうよ老いが回り出す
八十路坂あと半分はほちほちと
ゆるりゆるり終活はまだこれからだ
晩学の夢にワクワク彩をさす

倉吉市 田中 紀美恵

亡き母といつも会話し生きる糧
メルヘンの世界求めて夢散歩
生うけて命いただき八十年
動く足父母にいただき闊歩する
やさしさは心にゆとりある人だ

倉吉市 堀 かずこ

この暑さ半端じゃないよせみが鳴く
ひと呼吸せいては事を仕損ずる
悩むまいプラス思考で生きていく
老いという魔物私を攻めてくる
終着駅今度はどこへ行こうかな

倉吉市 若松 由紀子

直球よりやんわりカーブ身に染みる
父母兄も逝きて故里遠くなり
ライバルが跳んだ真似た水たまり
種なしの葡萄は少し頼りない
夫仏前朝夕経とひとり言

米子市 伊 塚 美枝子

コンクリに負けた私の尾てい骨
どんと来い台風備え出来ている
大阪に染まらず通す米子弁
選挙カー手を振り返す小学生
候補者が必死に走る田んぼ道

米子市 生 田 和 之

出勤をするかの如く行く医院
妻通院ほくもおこほれ治療する
ストレスの元は貴男と妻が言う
鈍足は先祖譲りのお家芸
転ばないこと第一に散歩する

米子市 川 本 美津子

ツル伸ばす自由な草に嫉妬する
喜怒哀楽も刺激のひとつ孫のもり
物忘れ徘徊をする家の中
インタビュ―何故か美人に向けられる
気がついた仕草が亡母に似て来た

米子市 黒 田 紀美江

高齢者ゴミの分別脳トレだ
手抜き掃除知ってる蚊だなよく嘯まれ
父の日を催促されてはいビール
詐欺に遭う性格全部あてはまり
ペンの先凶器にもなり句も生まれ

米子市 野 川 宣 子

年寄りも家族支える一員だ
ロボットに支えられる日きつと来る
ゴールまで支え凭れるああ夫婦
ウォーキングおしゃべり好きに捕まった
飲み会は何はさて置き顔を出す

米子市 見 山 温 子

オルゴール壊れ青春消えていく
ラッキョ漬け終えてよぎるは次の年
若い二人テレビに笑い日が暮れる
それぞれの趣味に没頭日をすごす
夫の寝顔に今日の悪態詫びている

鳥取県 門 村 幸 子

つつがない町に不意打ち震度6
あつけなく日常狂う震度6
どなたとも話したくない鬱の底
鍛えねば熱中症に負けます
日と風のシャワーを浴びてウォーキング

鳥取県 橋 谷 静 江

腰痛へ歩くプールへ友誘う
しゃしゃり出ぬ気持で朝も寝坊する
サブリより効きめの強い孫の声
趣味だとして鉢植替え忙しい
一言が多い人とは住みにくい

鳥取県 橋本 整

独り居て呆けないように缶ビール
目が覚めて何時もの自分にありがとう
ふる里の山をひと呑み深呼吸
女房のように仲良く五七五
不器用な暮しを風に覗かれる

松江市 山根 邦代

筆忠実な言われた頃をなつかしむ
かと言うて返事の書けぬ不精者
毎日の食事美味しくありがたい
アジサイに来年あえるように切る
災害の地域に涙とまらない

玉野市 片岡 富子

大雨に畑の野菜悲鳴上げ
気掛かりは夜来るまでに片付ける
災害来て親子の絆確かめる
もの忘れ加齢のせいと夫言う
久しぶり近所の人の名が出ない

岡山県 小野 美那子

願いごと日々平穩を書いた日も
どの傷も平気になった痒くない
羞恥心すこしのぞかせ値切つて
ごめんねが言えたゆっくりお茶を飲む
おはようで先ずは和みの花が咲く

広島市 田桑 恵子

朝一番ゴーヤを数え水をやる
ゴーヤカーテン昼寝を誘う風抜ける
ポランティア泥と格闘汗光る
炎天下汗だく球児泥運ぶ
牙をむく濁流もとは優しい水

三次市 伊藤 寿子

ポジティブに生きねば喜寿の坂険し
救急車へ乗るよにタクシー呼んでいる
脱水症と点滴する数時間
一〇〇歳まで社長と豪語する夫
世の流れ過疎化の町ののれん揺れ

山口市 青木 隆子

裏の裏トップが腹を探り合う
実行をせねば決意の意味がない
夏が来て母のレシピのしそジュース
九十の母の武骨な手が鏡
水鏡私の心も揺れている

徳島県 小畑 定弘

サングラス一笑されてそれっきり
しあわせな事故かもしれぬ失恋も
アリガトウこの頃妻がしおらしい
しんみりと男やもめの本音きく
父の日の赤いリボンの贈り物

今治市 渡邊 伊津志

どの顔も微笑み消えた流し雛
円空仏笑いの底にある鬨志
泣く度にきれいな色になる涙
心眼を開いてみれば矛盾満ち
目を洗うまだまだ明日が見たいから

西予市 井 関 はるえ

針千本のまねばならぬ嘘もある
父少し無口になって終戦日
向う傷ばかりあゝのころ若かった
男の本音が握り拳の中にある
天下り遠く聞いている蟻の列

佐賀県 真 島 久美子

来世は象でアナタを踏み潰す
幻になるまで見ない振り続く
伊賀甲賀佐賀のくノ一です私
空洞にサヨナラだけがよく響く
束縛の恋が可愛く見えてくる

札幌市 斉 藤 宏 子

手も足も日向のにおい三歳児
廃屋の庭に満開夏の花
時止めて下駄を鳴らして歩く里
少年のリユックに詰めた夢の数
声もなくゆれるブランコ夢の跡

富士見市 中島 通則

「そだねー」で夫婦の会話滑らかに
妻のメイク「上手いね」と褒め睨まれた
メーカーヤップビフォーアフター妻別人
競走馬無心な走り誰の為
五七五練って寝かせてまた練って

福井市 伊藤 良一

我を張って狭くしている着地点
幸せの一つに多忙余生とて
程々に錆びて緩んで人間味
十指みな一本ずつにある苦楽
此岸からすすきり渡りたい彼岸

豊橋市 藤 田 千 休

ライバルを労るふりの塩を塗る
蠅と蚊がお待ちしてますアウトドア
古漬のような二人のフルムーン
満点の夢を見させる参考書
生ビール嗚呼と言うてる喉ちんこ

京田辺市 北 野 クニオ

蓮の花咲く時ポーンと音がする
束の間の晴れた日仕事どんと来る
先延ばしすればする程未解決
菊作り自画自讃する三枝分け
W杯日本国中サポーター

大阪市 田中廣子

貴公子と老いらくの恋してみた
風呂あがりビール一杯身にしみる
豪雨下のニュースで涙止まらない
変り身のトランプ本音どこにある

大阪市 前川善之

賭博にて国の栄えた歴史なし
虐待は子の教えにはなりません
騙す者騙される者常に有る
サッカーで歓喜の町のゴミ拾い

大阪市 横山里子

裏の裏読んで迷路を抜けられず
約款に悪意あるよな細かい字
旅よりも私ネコ科で家が好き
暑かった友の葬儀の汗の染み

池田市 太田省三

限取りの役者は声で聞き分ける
自家栽培またも朝からキュウリもみ
実践のエコのゴーヤも食べ飽きる
素麺に兄弟げんか赤一本

河内長野市 原熊知津子

火薬庫のような暑さの夏が来る
借りてきた優しさだから素っ気ない
ひねくれている間に答え逃げていく
風通る部屋で答え探してる

河内長野市 穂口正子

もう止した効き目なかった美容液
お返しはあなたの笑顔それで良い
レジ前で焦り小銭をばらまいて
平成のうちに断捨離終わらせる

河内長野市 渡邊修

年相応いつも変らぬやぶ診断
記事よりもバカに目立ったコマーションヤル
ファーストで世界がみんな利己主義に
母の日におまけにくれた父の酒

豊中市 源田啓生

ひと休みあの世の果てでなんぼでも
プレパトのおっちゃんに似て怒り泣き
生きているだけでと家の神が言う
好きだよと言えば欠伸の妻と居る

寝屋川市 岡本勲

謙遜がすぎて自慢がすけて見え
記憶力官僚並みと自慢する
家族より医療費かかる犬二匹
よその子も叱ってくれた細い路地

寝屋川市 川本信子

聞き飽きた暑い暑いともう言うな
地震あと怯えるような迷い猫
本流に流されぬよう風を読む
嫌な事すつと吐き出すところてん

羽曳野市 磯本洋一

キリシタン世界遺産へ夢開く
非核化を進めて子等に明日がある

あと何年父の日迎えられるやら
助け合う人に絡んだ赤い糸

枚方市 坂本ミヨノ

さくらんぼ口の中では恋の味
台風で稲刈り出来ず米不足

太り過ぎ欲しがるお腹負けて食べ
じいと祖母誕生祝マツサージ

箕面市 寺井柳童

うどんより夏はそうめんお中元
酒豪でも船には勝てずすぐに酔い

揚げ足を取り雑ぜ返す悪いくせ
掻き混ぜて一番風呂の満足感

大阪府 高木道子

亡母さんがベットにした娘は五十路
通帳に付度しつつ日を過ごす

唇の弾丸矜持など持たぬ
前うしろ子等の声きく夏休み

大阪府 中内孚彦

無人駅扉が開いてまた閉まる
奪い取った民主主義だが民貧し

天皇の親政願うこの頃か
運命の軌道修正座禅組む

神戸市 輿水弘

百均に詳しい爺がカッコイイ
あとわずかボチに渾身愛そそく

台風で幾度も絆固く締め
ギシギシと八十路を進む大車輪

神戸市 田本古鈴

人生の真ん中辺でつまずいた
夕暮れが一番好きだ酒が待つ

夏の雲陽気強気で移り気で
波風の立たぬ生き方身についた

伊丹市 平井富夫

髪も減り蓄え記憶減るばかり
増えるのはゴミとストレス体脂肪

欲の皮縋る懲りない神頼み
午前様ボチが顔上げ気をつけや

加西市 山端なつみ

すり減った靴へ内定通知来た
今日は晴昨日の豪雨うらめしい

猛威ふるう自然の前に人は蟻
死刑執行オウムの囀は明かされず

篠山市 澤良子

風そよぐ洗濯物が握手する
農の技亡き母からの送り物

つまずいて助けてもらい知る情け
本音聞き本音伝える真の友

篠山市 長谷川 善輔

ベジタリアンというが大食らいの友

野菜畠お日さま知らずビルの中

自然には安心という梓はない
「ええかげんにしな」亡妻の声なく飲み込む

三田市 辻 開子

台風が雨戸で遊び眠らせず

しくじりを繰り返しての介護です

楽しみの食旺盛でメタボ腹

スーパリーのレジ簡素化で老い迷う

三田市 東内 美智子

美容師左右の耳に光りもの

映画館隣にちよつと怖い人

吊り革を握るまもなく席くれる

仏壇の花夏は寝る前冷蔵庫

三田市 馬場 貴美江

三途の川流れの先は何処ですか

迷いあり三途の川は渡れない

八十路をも半分通過六月末

ラニーニヤの次エルニーニョ熱帯夜

三田市 松本 ゆかり

働くパパ光っていると男の子

窓ガラスいびつにうつる昭和の灯

何気なく衿を直したことが罪

何気なく相槌打って同罪に

西宮市 福田 正彦

すんなりと平和を造るむずかしさ

AIがスゴイと言うが人の知恵

猫帰る三日三晩のランデブー

月あかり二人の影を包んでる

奈良市 尾畑 なを江

いったいに人間様は何者か

こだわりがあつてその人らしくなる

つかれより気力が勝る趣味二つ

せんべいをかじってイヤな事忘れ

奈良県 中堀 優

子と話すには子の目線まで降りる

すぐ出せるジョーカーいつも持ち歩く

頼むから終った人と言わないで

嘘だつて真顔で言える演技力

和歌山市 北原 昭枝

その時を精一杯に生きた日々

限りある時間仲よく歩を合せ

時刻表いつか行きたいフルムーン

時々天日干しする足の裏

和歌山市 倉橋 悦子

ふと思う抱いていたのはシャボン玉

絵手紙で届く秋ナス濃むらさき

終活のひとつ互助会予約する

日が昇り目覚めて今日も生きていた

和歌山市 定松 宏枝

うつぶんを力一杯みじん切り
来世では心やさしい女房です
正直に生きてもクジは当たらない
白髪染めすれば口紅塗り直す

和歌山市 佐藤 まき

豪雨禍になす術もなく祈るだけ
復興を助ける天気続くよう
中継の名刹拝み無事祈願
遠い日のピースの暖簾かき氷

和歌山市 鍋嶋 澄子

そぼふる雨急ぎもせずに傘ささず
あじさいが咲きしさに雨やさし
雨に魅入る紫陽花嬉しこころ晴れ
思い出す軽登山した楽し日々

和歌山市 福呂 秀子

夫免許無くなる不便覚悟する
プチ園芸胡瓜の味もいとおいしい
日に何度曜日確かめ古い二人
口だけは老いを忘れてよく喋る

和歌山市 南方 富美代

電車内スマホばかりの長い足
スキップをしてみたいけど身が重い
隣の猫大事にしても居なくなり
ミニトマト甘くて少しおすそわけ

鳥取市 上山 一平

天を抜き初の川柳缶ビール
マラソンを煽るグルメに完走す
悪いくせ美人の予報聞き流す
豪雨禍が店の食パン空にする

鳥取市 大前 安子

旅半ば途中下車するコツ覚え
辞書抱え海馬へ檄を飛ばして
三猿を孫に破られ笑みが増す
古里は幼のまま帰る場所

倉吉市 大羽 雄大

梅雨明けを受けていそいそ布団干す
半分が出来れば良しと猛暑の日
日に二度のテレビ体操元気だす
ひと唾を飲んでからする口答え

倉吉市 宮田 風露

川柳の壁が厚くて睨まれる
指先で会話しているスマホ族
侮って治る病が長くなり
牧場の朝ふと口遊む今朝の霧

境港市 中井 虎尾

越前も上川裁き見てあの世
麻原よ真実語れ閻魔言う
山麓にオウムの消えた草の原
台風が去る残った雨がドアパレ

米子市 池田美穂

スマホ買い使いこなせず孤立する
元号はいっそ平和でいきましよう
親の汗たくさん吸って子は育つ
娘の機嫌とって孫との面会日

米子市 田村周子

高齢者金がなければ生きられぬ
しらぬ間に年をとつての米寿なり
七夕に家族の幸を祈るのみ
台風よ梨を落とすな無事祈る

鳥取県 飯野菖子

山水を豊に使う過疎に住む
歯を守り老いを楽しく生きて行く
人生路ぼつぼつ余生夢を持つ
歎を振るぼつぼつせよと足腰が

鳥取県 下田茂登子

寂しさに用ない電話かけてみる
立つ座る大声出してどっこいしょ
声だけは元氣そうだと他人が言う
八十四歳この先生きる道見えぬ

松江市 相見柳歩

流れには乗らない主義で昭和型
てのひらで遠い初恋あたためる
斜めにはライバルの影ふたつある
本当のことはあの世で分かります

松江市 中筋弘充

ホームの義母は美人と言われ照れている
ホームの義母に貯金通帳見せに行く
ホームの義母たまに忘れる俺のこと
鬼が鳥優しい鬼も居た筈だ

出雲市 黒目ひでお

世界平和米朝対話鍵握る
戦争の歴史を終えて話し合い
非核化がみんなの願いの核
米朝の対話で歴史変わりそう

雲南市 永見安子

つれあいは眼鏡ですよと言う笑顔
どくだみと言う名に負けぬ白い花
梅雨空に洗濯の山元氣失せ
寂しさをベットが知ってくれている

鳥根県 原德利

負け犬に優しく酒を注いでやる
閃きは星の囁き天の声
寝ることが下手になったとする寝酒
乾くまであきらめないで濡れ落葉

岡山市 大石洋子

茶柱が立ち今日はAラインの日
両親が八十で逝くデッドライン
死なないと思う人どんどん増えて
妄想がエーライン状況がって

岡山県 大杉 敏夫

散歩でもして来んさいと古女房
スポーツがルールで採めている不思議
心技体世界のゴミを拾わんか
ほどほどの位置で手打ちは出来ている

広島市 松尾 信彦

曲り角教えてくれぬコンバクト
逆風に行進曲が押した背な
きょうも留守カルチャー通いジム通い
馬が合うどっちも笑い苦手だけ

尾道市 小畑 宣之

西瓜食うこれは当りだ二重丸
老師読経小節が冴える法事かな
腹の虫TPOを弁えろ
あちこちに故郷ができる転勤族

尾道市 日谷 寛

初めての出会いは神のおほしめし
しあわせになろうと決めたハイタツチ
寄り添って歩幅を合わす二歩三步
恋力目力愛をふくらます

竹原市 土井 輝恵

クレーン車が出勤待つて闘志見せ
ガンバレは禁句君なら大丈夫
アメリカの娘トランプ最良なり
断捨離はしなくていいと息子言う

竹原市 六田 半徳

梅雨明けを待っていたよとセミが鳴く
急変のゲリラ豪雨で知る恐怖
青蛙大空向いて背伸びする
目を閉じて今朝の鼓動を確かめる

府中市 岸田 武

ビニールの傘が並んであやめ園
雨続く下着を仰ぎ昼寝する
暑中見舞一番早くくれる人
眠りそうで法話は前に座らない

山口市 中前 幸子

鬼灯の歌追憶の風に乗る
雑学のブル犬掻きで泳ぐ
瞑想の中でわたしの森動く
喋り過ぎの口チエックを取り替える

松山市 郷田 みや

笹舟がゆるり流れる川がいい
待たすより待つほうが好き花時計
ゆっくりと傾斜十五度ほどの坂
遠まわりしないでノーと言えました

高知市 三谷 松太郎

容体も各種揃った老舗です
貧乏神いつでもおいでにここにこと
風物詩田舎辺りのそこかしこ
おばあさんここはホコテン違います

福岡県 本田 さくら

眠れない蛙の歌が邪魔をする
朝食は豪華じゃないが自慢です
ちひろの絵子ども笑顔笑い声
日本中地震大雨受難期か

唐津市 岩崎 實

もんしる蝶からみて天へのほりゆく
蜘蛛の巣は捕えた獲物丸め込み
冠省と略してハガキ書きはじむ
正義慈悲何れも好きな言葉です

那覇市 前川 真

リベンジをしたがる靴を二足持つ
腕組みをロダンに借りて策を練る
手の届く所で探す好奇心
帰宅してボタンのずれにふと気づく

沖縄県 禱 モモト

星明かり夜道の私ガイドされ
三色の世界共通信号機
幾世逢う織姫星と彦星は
コンビニは留学生がニコニコと

沖縄県 宮 すみれ

どんよりと月が惑わすおとな色
ひょうひょうと笑顔の奥に頑固愛
空梅雨のすすき花穂がこちよこちよと
いらいらを服におしこみ脱水機

弘前市 高森 一 吞

落書の中に本音の道を知る
蝸牛山の奥へと住み変える
故郷に私を許す青い空
のほほんと人生過ごす揚羽蝶

千葉県 廣瀬 良磨

値が上がるうが下ろうが秋刀魚焼く
喉の底本音の声がとぐる巻く
職場では見えないように吠える僕
何もかも裸足になつてやり直す

東京都 高岡 弥生

好きなよう生きていける日来るのかな
気がつくとそばで寝そべる我がワンちゃん
言葉無き子の応援を感じてる
公園でパパと遊ぶ子温かい

横浜市 川島 良子

シナリオを塗り替えてゆく古希の道
忘れたいことは忘れぬ記憶力
兄弟を見送る末っ子の使命
梅雨明けの列島濁流に吞まれ

横浜市 長島 亜希子

遊び疲れてできる健康ありがたい
無理は駄目でもちよつぴりは無理をする
リハビリは楽しいケメン療法士
夜中の応援しよう明日は用がない

日本人一つになれたサッカーで
うっかりがふえて探しもの多し
明日の事だれも解らぬこの命
今の今つながる命大切に

静岡市 渡辺 芳子
名古屋市 山本 三樹夫

戦った男の汗に達成感
行政が壊して仕舞う民主主義
民主主義多数決とは限らない
人間は自然の怒りかい無力

江南市 脇田 雅美

母の味外食続き忘れがち
病床で米寿の兄を祝福す
風邪引くたび症状違う高齢者
刺身盛りトレイこんもり多く見せ

豊橋市 小松 くみ子

シルバーの友は金持ちヒマもある
とりあえずビールそのあとコップ酒
夏まつりそぞろ歩きの人に酔う
ゆで卵ツルリとむけるいい気分

豊橋市 西郷 紀美代

クヨクヨもウカウカも不可孫といふ
散骨を望む夫としない妻
国保から奨められ選るジュネリック
スーパードで視線を浴びるひとり言

飲みすぎて二足歩行がままならぬ
どうしたのこれが私の答えです
プライドが邪魔してボタン外せない
満たされぬ悪女吹き矢をもてあそぶ

豊橋市 高柳 閑雲

実らない恋を来世の夢にかけ
訃報受け涙で割った悲し酒
甘い物好きな女房辛い舌
霧の中右が地獄か極楽か

舞鶴市 伊藤 恒

川柳塔なら 創立 20 周年記念川柳大会

日時 11月1日(木) 9時30分 開場
場所 ホテル リガール春日野
〒630-8113 奈良市法蓮町757-2
TEL 0742-22-6021
JR奈良駅 近鉄奈良駅より 奈良交通
バス西大寺行き「佐保小学校」下車すぐ
*会場行きリガール春日野送迎バスあり

事前投句 「許す」安土 理恵 選
ハガキで1句。投句締切 10月1日(月)

投句先 〒631-0006 奈良市西登美ヶ丘7-8-16
宇賀史郎方 川柳塔なら創立20周年記念川柳大会事務局

兼題 (各題2句・欠席投句拝辞)
「ますます」古今堂薫子 選 共選
「ますます」川端 一步 選
「完 成」松本 柩子 選 共選
「完 成」小島 蘭幸 選

懇親宴 句会終了後 (終了予定 15時30分)
投句締切 10時50分
会費 5,000円 (懇親宴会費込み)
問合せ先 宇賀史郎 TEL 0742-45-9124
主催 川柳塔なら

誹風柳多留一二篇研究 63

小栗清吾・細井龍夫
伊吹和男・山田昭夫
石川道子
清 博美

534 乳もらひ八道具もとめてあるといふ

小栗 乳貰いに来た男が「道具も留めてある」と言っているというのであるが、どういふ状況を考えればいいか。

乳のミ子の孝ハにげたをよひもどし

安六板3

を参考にして、何かの事情でお産直後に女房が里へ逃げ帰ってしまったので、乳飲み子を抱えて途方に暮れた亭主が、何とか戻ってきて貰いたいと、女房に返還すべき道具類もまだ返さずに留めてある、というストーリーでどうだろうか。ご教授を乞う。

清 礎なるほど、家財道具を返還せずに居る。

535 雪隠で味方まけるをいし田きゝ

小栗 関ヶ原の合戦で、石田三成が味方敗北の報を雪隠で聞いたというのであるが、二つの技巧から成っている。

(一) 三成が腹を壊していたという挿話を下敷きにして「雪隠で」としたこと。

(参考)

① 石田去十五日敗戦の後、戦場を遁れ伊吹山を越て、二三日食事もせず稲の穂など喰ひ候て腹中相煩、：(関ヶ原始末記)

② よくいたはりて最後の御用意候へかといひければ、さらば此頃腹中のあしきに、菲糲水をたまへと云しかば、：(常山紀談)

(いずれも「日本逸話大事典」)。

(2) 「雪隠」「石田」が将棋の縁語である

こと。

雪隠詰 将棋で相手の王将を、また遊戯の十六六指で親石を、盤の隅に追い込んで詰めること(「日」)。

石田組 石田検校の始めた将棋定跡の一つ(「日」)。

かつちうてせつじんへ行関ヶ原 安七板4
石田くずされてせつちんづめになり

安四亀2

清 賛。

536 仲條のろじに手代のものあんじ

小栗 物案じは、物事を思案すること。思い悩むこと。心配すること(「日」)。

仲條のある路地に、手代が心配そうな様子で立っている。孕ませた女(下女か)を墮胎させるためについて来たのだから。

仲條の門トにたつてるのが相手 一八8

仲条へ供にハ過きた男なり 五29

伊吹 賛。費用の心配?

清 賛。やはり費用ではなく、相手の躰を氣遣つてでしょう。

537 ひどいかり泣て居た子がだるま也

小栗 不明句。

但し「万句合」は、

ひとりふり泣て居た子がたまる也

安四満一

となつてゐる。夕立などの突然の「ひどい降り」に「泣いていた子が驚いて黙る」と読めば、一応辻褄は合う。面白くも何ともない句だが、「泣く子も黙る」を援用したのがミソということか。

安易に誤刻とするのは如何かと思うが、「ふり」を「かり」に、「たまる」を「だるま」と修正して「柳多留」に採ったとも思えないので、ここでは万句合の句の解釈をお示ししておく。

清 礎稿の通りかと思ふ。

538 ちりを入しやれとてい主がさいはしけ

小栗 才弾けるは、小ざかしく振る舞う。小才が利く（江）。

「塵」が何を意味するかよくわからないので、「教養文庫」で岩田先生が、

そろく〜と行きなとちりを入して遣り

三三

の句の解説で、「塵」は鉄漿に入れる鉄片の

屑とし、主題句を例句として引用して「鉄漿を貰いに来た娘に、亭主がよからおせつかい」と傍注あるのを頂戴することにする。

初鉄漿用の鉄漿水を貰いに来た娘に対し、女房が鉄漿水の作り方や付け方などを伝授している傍らで、亭主が小賢しく口を出しているというのであらう。女の事は女に任せておいて男は黙つていればいいのみにみつもな、という感じが「才弾け」なのだと思う。清なるほど、塵はそういう事ですか。

539 御めかけの友だち今にはした也

小栗 今には、過去から続いて今に至るまで。いまだに（日）。端は、雑役をする身分の低い下女。広義には下女をも含めてい、狭義には下女よりも下級の雇い女をいう（江）。

御妾の友達はいまだに端だということであるが、下女から御妾になった人物のことを斯く表現したまで。

御妾の成はじまりハにげまわり 明三仁一
細井 賛。運よくお手付きとなりお妾に迎え入れられた娘と、お端のままの友達と。

清 賛。世の中、運のいいのと悪いのと。

540 夕立のむかひはだかで傘をさし

小栗 そのままの句と思う。例えば主人の迎えに行く下男が、着物が濡れるのを嫌がつて、裸同然の格好で傘をさしていくような光景を考えればいいのだらう。

清 賛。暑い季節でもある。

541 生酔をしよつて女中をまつ二ツ

小栗 生酔を背負うように連れて歩くと、女性が嫌がつて避けて通してやるのを「真つ二つ」と表現した句だと思ふ。

一般の街中の句としても成り立ちうるが、「女中」を「奥女中」と読めば「花見」の光景と限定出来るそうでもある。そうすれば、実景の描写ではなく、「生酔」と「奥女中」という記号化された言葉で「花見」を表し、「真つ二つ」で奥女中が大勢いることを示唆するといふ、技巧的な句ということになる。個人的にはこちらの方が好きだが、読み過ぎか。

細井 花見の場でしょうね。

伊吹 奥女中が大勢に賛である。海が避ける如くに。

清 賛。

愛染帖

新家 完司 選

(投句278名)

狭い家伝い歩きに丁度いい

京都市 都倉 求芽

(評)食卓もトイレも寝床も少し移動するだけ。ヨロヨロしたらすぐ横にある壁や家具が支えてくれる。何と便利な家ではないか。

鳥取県 石谷美恵子

大物だ急所どこだか見破れぬ

(評)完璧な人間などいない。誰にでも欠点はあるが、それを自覚して抑制している人物こそ大物ではないか。至難ではあるが…。

三田市 北野 哲男

お経聞く姿勢で妻の小言聞く

(評)お経と同じように、右の耳から左の耳へ聞き流しているだけだが、態度だけは神妙に見せる。それが小言を聞くコツ。

大阪市 柴本ばつは

悪口も考え次第ええ葉

(評)甘い世辞や褒め言葉は毒。厳しい諫言こそ薬。陰で囁かれる悪口は気分の悪いものだが、諫言と受け止めて薬にしよう。

猫猫が好きぬ獣医を指名する

朝霞市 前田 洋子

(評)猫の寿命は15歳ほど。名医でも寿命を延ばすのは至難。それを思うと「愛猫が好きぬ医者」に診てもらおう」のがベストだろう。

池田市 太田 省三

わたしにもバブルがあつてこの時計

(評)唯一の「お宝」である高級時計。道端で拾ったものではない。わたしにも輝いていた時代があつたのだ。一瞬ではあるが…。

西予市 黒田 茂代

人様に親切という惚け防止

(評)親切にするためには「相手が何を求めているか」を的確に推定しなければならぬ。ほんやりしては出来ない技である。

岡山市 丹下 凱夫

世間から見ればオイラは紛い者

(評)平気で嘘をつく代議士や官僚たちにピッタリ言葉。謙虚さも度が過ぎると嫌味になるので「変わり者」程度で良いだろう。

瀬戸内市 宮宅比佐恵

女です見つめられると灯がともる

(評)見つめられると「灯がともる」のは男も同じ。幾つになっても「純情」は宝。スレツカラシになつてしまつとオシマイ。

沖繩県 森山 文切

刑務所が歩いて行ける距離にある

(評)面会に行くにしても、面会に来ていた

だく立場になつたとしても便利この上なし。なかなか得難い羨ましい立地である。

東大阪市 北村 賢子

ストレスを爆発させたのか地球

米子市 池田 美穂

異常気象地球も遂に更年期

高槻市 初代 正彦

震度6よくぞ耐えたな屋根瓦

三田市 福田 好文

非常袋点検させた震度六

藤井寺市 鈴木いさお

早よ死なな南海トラフ来てしまつ

三田市 多田 雅尚

豪雨には勝てぬヒト科が悲鳴あげ

大洲市 花岡 順子

上流に役に立たないダム二つ

河内長野市 山岡富美子

助け合うみなそれぞれに発光体

寝屋川市 川本 信子

ちよつと変六月蟬と鬼やんま

東大阪市 佐々木満作

梅雨しきりにカビが生えそうだ

鳥取県 門村 幸子

犯人は湿度気怠いやるせない

富士見市 中島 通則

万歩計ゼロで停滞梅雨最中

岡山県 山縣のぶ子

笹ゆれて退化の脳がよみがえる

水の旗やはり漢字の暑氣払い
大阪府 米澤 俣子

昭和まだ匂う夜店のリング館
門真市 坂本 星雨

前かけをするのも暑いそんな日々
奈良市 尾畑なを江

冷ピタをおでこにデート炎天下
尼崎市 清水久美子

八月のポスト日焼けに耐えている
鳥取県 斉尾くにこ

脳味噌が重いのだろう肩が凝る
今治市 渡邊伊津志

我慢した褒美に貰う笑い皺
豊中市 齋藤奈津子

古都京都道を尋ねりゃ異邦人
錦市場英語で試食すすめられ
札幌市 三浦 強一

人情に脆い財布が痩せ細る
空港のゲート通れぬ肥後守
大阪市 古今堂蕉子

表裏一体なんて人居るのかな
般若経を唱え讚美歌は歌う
堺市 村上 玄也

宣伝の団扇もちゃんと風は来る
微妙な微妙もどつちか迷ってる
岡山市 大石 洋子

俵型おにぎり並べ殿気分
蝉が鳴くほどほどをやめ赤を着る

サッカーのひと蹴り世界盛り上げる
鳥取市 永原 昌鼓

情けない試合ジャパンのバカ野郎
松江市 石橋 芳山

ワールドカップ済み退屈と入れ替わる
明石市 桃谷 和郎

八十路過ぎ脳トレですとスマホ買う
枚方市 谷 英也

その年でスマホ使えるのかと聞かれ
和泉市 横山 捷也

大きな時計としてスマホ愛用
宝塚市 岸田 万彩

アンコールやっとな聞きたい曲に逢う
那覇市 前川 真

老舗店消えた空地に猫が棲む
200キロ出せとメーター付いている
鳥取市 岸本 宏章

肩が凝りそうだから「瑞風」には乗らぬ
助けにはなったことないヘルプキー
大阪市 高杉 力

沈黙の責任すべて僕ですか
反省はします実行しないけど
三田市 上田ひとみ

ひしひしと体の重み膝が泣く
美系ではないがかわいい孫娘
神戸市 細川 花門

爺ちゃんと遊ぶ婆ちゃんとはお風呂

二枚舌まだ動きまます八十路坂
唐津市 仁部 四郎

鞭打てば動く老骨ありがたい
和歌山市 土屋起世子

八十歳恥を忍んで生きている
土佐清水市 辻内 次根

指折って数えてみても傘寿なり
西宮市 福島 弘子

人の世の仕組みがわかりだした古稀
堺市 加島 由一

本当です古稀になっても君一途
奈良県 中堀 優

おばあさんの好物悪女物語
大阪府 谷口 義

九十の兄に心配されている
宝塚市 田中 章子

愚痴はグチ百歳だつてキツトある
男鹿市 伊藤のぶよし

こっそりと妻のメールを覗き見る
鳥取市 山下 凱柳

弱虫になった夫の五十肩
妻が腕組んでくるのは杖がわり
松原市 森松まつお

口紅が妻を四、五歳若くする
宇部市 平田 実男

良い夫婦七夕にだけ会えばいい
玉野市 片岡 富子

枚方市 佐藤 武紀
五七五スローライフの乗車券

神戸市 山根 弘華
6Bに夢を託した五七五

八尾市 宮崎シマ子
三味も川柳もびったりツボに取まらぬ

奈良県 長谷川崇明
次々と続く句会や立ち奏

豊中市 木藤こみつ
平均年齢川柳界は高すぎる

米子市 成田 雨奇
自信作などは口にしないこと

大阪市 吉内タカ子
全没も好きな趣味です命綱

貝塚市 石田ひろ子
煽てられてその気になって続く趣味

寝屋川市 森 茜
新広辞苑どつかと胡坐かく机

河内長野市 村上 直樹
六十年夫婦してます情性です

鳥取市 福西 茶子
威張るのはアナタ私は聞いてない

羽曳野市 吉村久仁雄
大言壮語してから今日も風呂掃除

河内長野市 木見谷孝代
同じ物食べてもお腹こわす夫

豊中市 藤井 則彦
妻の愚痴はそのまま受けて竿に干す

徳島県 小畑 定弘
妻の眼をかすめ真昼の冷蔵庫

三田市 村田 博
妻不在やつと見つけた目刺し焼く

松江市 中筋 弘光
洗濯好きの妻に身ぐるみ剥がされる

横浜市 川島 良子
結婚も博打のひとつなんだらう

八尾市 前田 紀雄
定年後蟄居生活板に付く

横浜市 菊地 政勝
もう孫に当てにされてるお盆玉

佐賀県 真島久美子
後悔をしたりしなかつたり恋は

三田市 堀 正和
半世紀妻も畳も替えてない

大阪市 平井美智子
惚れた腫れたがちよっと苦手なうどん好き

黒石市 北山まみどり
道幅に逆らっている笑い方

倉吉市 牧野 芳光
ドングリにも正面はある艶もある

桜井市 安土 理恵
過去抹消きれいな線を二本引く

岡山市 永見 心咲
「出雲なんさん」君もくびれが無いんだね

鳥取県 竹信 照彦
ジャンプ傘パツと開いたまま故障

青森市 守田 啓子
桜の木の下の事などきかないで

松江市 梅瀬みちを
美術館ウォーキングに丁度良い

大阪市 森 廣子
蒸し暑いからオーデコロンをちよつと

宝塚市 太田としお
諦めるこれが出来たら金メダル

槻原市 居谷真理子
薄利だが多売といかぬのが本屋

広島市 岸本 清
どなたです帽子にマスクサンングラス

藤井寺市 若松 雅枝
読書する暇は出来たが目が霞む

大阪市 平賀 国和
世界遺産長崎の鐘鳴り響く

鳥取県 細田 裕花
リハーサル無し初めての内視鏡

河内長野市 梶原 弘光
日から鼻へ抜けずどこかで詰まってる

大阪市 高杉 千歩
あがいても車椅子 歩数計三百歩

鳥取市 前田 楓花
焦げています焦げないはずのフライパン

寝屋川市 岡本 勲
ふるりの記事に包んだ芋届く

富田林市 片岡智恵子
百回目の高校野球平和ゆえ

寝屋川市 伊達 郁夫
 長梅雨にビールの泡が元気ない
 池田市 上山 堅坊
 菌車に注油している縄のれん
 大阪市 岩崎 玲子
 老姉妹ジョッキ片手に昼食会
 豊橋市 小松くみ子
 日本酒の旨さ鼻からインブット
 熊本市 杉野 羅天
 やけ酒だせて美人と飲みましょう
 岩田市 村中 悦男
 一献が絆になって夜は更ける
 尼崎市 山田 耕治
 両方が傾いてきた良いお酒
 大阪市 栃尾 奏子
 いい酒で必ず終わるいい店だ
 河内長野市 原熊知津子
 酔ったふり出来る相手が飲み仲間
 松山市 栗田 忠士
 飲み友も降圧剤を飲んでいる
 江南市 脇田 雅美
 徳利を兄に傾け伸直り
 香南市 桑名 孝雄
 茶道に華道ついでに酒道いれとこう
 大阪市 坂 裕之
 いつからか家で飲むのも缶ビール
 弘前市 高瀬 霜石
 本日はしあわせビール飲んだから

堺市 内藤 憲彦
 何にでもビール一本賭けたがる
 堺市 遠山 唯教
 コーヒーも酒も相手でかわる味
 和歌山市 北原 昭枝
 ほどほどの酒に酔ってる遠花火
 笠岡市 藤井 智史
 心地よい一升瓶の抱きまくら
 大阪市 藤田 武人
 甘酒と白酒飲んだ二日酔い
 三田市 尾崎 一子
 子に送る母の梅酒は琥珀色
 倉吉市 大羽 雄大
 カラオケの指揮とる箸に興がのる
 鳥取市 上山 一平
 出雲そば宴の締めを気持よく
 河内長野市 中島 一彌
 天国の酒場で待てと弔辞読む
 香芝市 大内 朝子
 目の黒いうちは消すまい好奇心
 八王子市 川名 洋子
 愛される老人目指し一日目
 弘前市 稲見 則彦
 家庭菜園結局高くついている
 鳥取県 山下 節子
 貧乏神あなただのせいで頑張れる
 唐津市 山口 高明
 乳兄弟なんてお方も居た昭和

唐津市 坂本 蜂朗
 タイムアップ気にせず今日も歩きたす
 和歌山市 古久保和子
 ペディキュアを塗るのに息を止めている
 大洲市 中居 善信
 スーパーとしてそのうち花開く
 防府市 坂本 加代
 知った人避けながらゆく散歩道
 三原市 鴨田 昭紀
 お地藏さんを原風景に描き添える
 岩国市 上村 夢香
 ご住職母の笑顔をまた褒める
 富田林市 山野 寿之
 人間の五欲六欲無限大
 高槻市 片山かずお
 鵜飲みしては駄目です得をする話
 松山市 郷田 みや
 口開けて目を閉じて菌を削る音
 河内長野市 坂上 淳司
 家捜しの鍵鍵穴にぶらりんこ
 和歌山市 松原 寿子
 主人公のつもり童話の中にいる
 和歌山市 磯部 義雄
 蟻の列目には見えぬが汗を掻く
 河内長野市 穂口 正子
 使うならすぐに無くなる程の金
 篠山市 長谷川善輔
 亡妻植えし紫陽花登る蝸牛

英語 de Senryu⑧1

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

いつになく女のほうが 呑むという

unusual

that my girl leads

the drinking

遺髪が戻り 遺骨が戻り 本人が戻る

from the battlefield

remains of hair and ashes come back

then original person returns

unusual いつになく *lead* 先導する *drinking* 飲酒 *battlefield* 戦場
remains of hair and ashes 遺髪と遺骨 *original person* 本人 *return* 戻る

～リバーウィローのため息～世界の川柳・俳句② 国際ハイクで活躍する日本女性

マキ・スターフィールド (Maki Starfield, Japan)

彼女は2008年以来、季語にとらわれない新スタイルのハイク三行詩を発表しています。ナラン・マトス (Naran Matos) とのコラボレーションである日英バイリンガル詩集『点の二重奏』(2015)を初めとして、『線の二重奏』(2016)、『扉の二重奏』(2018)など、意欲的に海外の詩人とコラボするという新しい世界に踏み込んでいます。今秋にはガーナを代表するハイク詩人のアジェイ・アギー・バー (Adjei Agyei-Baah)、そして吉村侑久代も加わり三人で『窓の三重奏』(Trio of Windows) を出版します。『窓の三重奏』には、(響き合うアジアアフリカ詩人：詩的対話) が副題になっていて、私たち三人の響きが主旋律になっています。また彼女の描く独自のイラスト画も注目されています。『窓の三重奏』より、彼女のハイクをプレビューしてみましょう。日英語ともに彼女の創作です。

sowing sunflower seeds/ Gogh's hands/ have right mind

ひまわりの種をまくゴッホの手は正気

cherry blossoms/ everywhere/ naked women without memory

桜咲く記憶をなくす裸女がおり

twilight/ the fragrance of roses/ on your skin

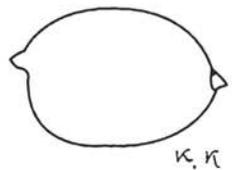
薄明り薔薇の香がするきみの肌

共選欄

檸檬抄

(薰風書、カッタとも)

(投句 363名)



「頭」川端 一步 選

頭が高い人にはレモン振りかける
必然の現象頭から落ちる
雑魚の中頭一つが抜け出せぬ
切れすぎる頭毒にも薬にも
ときたまに自分の夢で頭打つ
頭より恋はハートで燃えてゆく
煩惱を除けば空になる頭
切りかえののろい頭へ塩こしよう
若くない頭の中で恋をする
若き日の駅頭でみた或る別れ
土砂災害頭の芯に絡みつく
頭打つたびに大きくなる器
少し頭下げれば心地よい風に
内緒だよスードになれば八頭身
頭上注意つばめ子育てしています

和歌山市 武本 碧
佐賀県 真島久美子
尼崎市 藤井 宏造
三田市 北野 哲男
高槻市 富田 保子
四條畷市 吉岡 修
宝塚市 岸田 万彩
奈良県 渡辺 富子
鳥取市 前田 楓花
堺市 遠山 唯教
松原市 森松まつお
堺市 村上 玄也
大阪府 米澤 淑子
黒石市 北山まみどり
貝塚市 吉道あかね

「頭」山岡 富美子 選

頭痛する俺にも頭あったのか
父さんの風が頭を撫でてくれ
もの忘れ自分で頭コツンする
頭にはなれない雑魚の悪足掻き
シヤンシヤンを前の頭が邪魔をする
証人は頭上の星とあなただけ
うっかりと頭を出して叩かれる
わたくしがわたしで居られますように
六頭身調和がとれる和服なら
頭角をじわり現すカタツムリ
父親の威厳尾頭付選ぶ
本当は何歳なのか染めた髪
ちよぼちよぼの頭で偶に喧嘩する
ただ下げる頭残尿感がある
切り替えの効かぬ頭で聞く世情

篠山市 長谷川善輔
樫原市 居谷真理子
香芝市 山下 純子
和歌山市 西川 千鶴
名古屋市 山本三樹夫
大阪市 栃尾 奏子
豊橋市 小松くみ子
東大阪市 北村 賢子
香南市 桑名 孝雄
三原市 鴨田 昭紀
藤井寺市 鴨谷瑠美子
可見市 板山まみ子
藤井寺市 太田扶美代
三田市 久保田千代
京都市 都倉 求芽

秀才の脳は別誂えだろ

あれだけでも疑惑もたれて辞めぬアベ

頭垂れ真つ赤な栢榴原爆忌

頭金払った晴れ着れぬまま

黒幕の頭は何時も顔見せず

頭から叱ってほしい反抗期

笑顔ひとつ頭のすみに住んでる

敗北の美学きちんと頭下げ

潔く頭丸めて詫び入れよ

AIの頭には無い好き嫌い

聡太君の頭の中を見てみたい

美しいものに感動する頭

つき合ってくれた頭に感謝状

柔らかい頭で嘘を噛み砕く

頭にはなれぬ器と知っている

丸干しは頭も食えと祖母教え

石頭ほろつとさせる子守唄

思うこと多すぎないかネギ坊主

叩かれる頭西瓜の出番来る

鰻の開き頭は割らぬようにする

頭から足の先まで好奇心

子育ては頭でなで聞いてやり

頭からイワシを食べて骨丈夫

藤井寺市 太田扶美代

大阪市 江島谷勝弘

鳥取市 上山 一平

三田市 多田 雅尚

大阪市 奥村 五月

神戸市 山崎 武彦

神戸市 奥澤洋次郎

大阪市 升成 好

尼崎市 清水久美子

河内長野市 梶原 弘光

藤井寺市 鈴木いさお

香芝市 大内 朝子

長岡京市 山田 葉子

和歌山市 上田 紀子

上尾市 中村 伸子

札幌市 小沢 淳

岡山東 田中 恵

桜井市 安土 理恵

大阪市 津守 柳伸

松江市 中筋 弘充

豊中市 松尾美智代

三田市 上田ひとみ

堺市 加島 由一

終章も頭一つが抜け出せず

ちよつとあやしい頭にも夏帽子

借金をしている方の頭が高い

飲み会の頭数には入ってる

頭数揃えば通る民主主義

頭ではわかるが足がついてこぬ

買い出しの分母にいつも頭数

頭一つ大きいだけの威圧感

頭数たしかめて出る大家族

中身どうあれ格好のいい頭

老いるとや頭痛の種と皺の数

イントロが終る頭が出て来ない

頭から否定するので怪しまれ

頭ではいつも反省しています

ヘッドを忘れ気儘に動いている尻尾

頭から足の先迄好奇心

黙っていれば頭の程度バレません

聡太君の頭の中を見てみたい

手始めにこうべを垂れていく余生

からっぽの頭にしみる人の情

入園児頭ふりふりごあいさつ

サヨナラの代わりに頭撫でられる

柔らかな頭になって仲間入り

塩竈市 木田比呂朗

西宮市 緒方美津子

三田市 谷口 修平

松原市 森松まつお

堺市 村上 玄也

倉吉市 牧野 芳光

明石市 桃谷 和郎

三田市 足立つな子

横浜市 菊池 政勝

八尾市 村上ミツ子

河内長野市 村上 直樹

青森県 松山 芳生

尾道市 小畑 宜之

堺市 柿花 和夫

枚方市 藤村 亜成

豊中市 松尾美智代

桜井市 安土 理恵

藤井寺市 鈴木いさお

八幡市 今井万紗子

八尾市 宮崎シマ子

札幌市 斉藤 宏子

大阪市 小野 雅美

倉吉市 大羽 雄大

この猛暑頭の皿が干涸びる
 黄昏の頭に恋が棲みついた
 一本のペンが頭の掃除する
 頭から聞き耳持たぬ反抗期
 パシユートの先頭滑る頼もしさ
 一位とは頭ひとつの大きな差
 アイデアが頭の中でかくれんぼ
 惚れた弱みです頭が上がらない
 子沢山頭の数に切る西瓜
 先頭に出て一身に風受ける
 御先祖の頭にやはり勝てません
 頭の中に本能という虫が棲む
 石あたま孫一喝で碎け出す
 柔らかい頭で帰る縄のれん
 頭脳戦所詮AI人の知恵
 毛細血管プチプチ切れているらしい
 頭の中整理しないとゴミ屋敷
 錆びた脳少し濃い目の茶を注ぐ
 夕焼けに頭の中は生ビール

秀句

堺市 矢倉 五月
 鳥取市 倉益 一瑤
 倉吉市 岡崎美知江
 鳥取市 加藤 茶人
 豊中市 水野 黒兎
 奈良市 大久保眞澄
 沖繩県 森山 文切
 弘前市 稲見 則彦
 寝屋川市 森 茜
 門真市 坂本 星雨
 唐津市 仁部 四郎
 松山市 宮尾みのり
 岡山県 小野美那子
 堺市 内藤 憲彦
 西宮市 福田 正彦
 弘前市 高瀬 霜石
 大阪市 原田すみ子
 八幡市 今井万紗子
 松江市 石橋 芳山
 大阪市 大川 桃花
 米子市 政岡日枝子
 青森県 松山 芳生

尻尾だけ切って頭はそり返る
 頭ではわかつている心がなあ
 何もかも揃い頭の中アウト
 右脳から左脳へ抜ける記憶力
 頭に効くサブリを探す旅に出る
 頭から怒鳴る男が居なくなる
 必然の現象頭から落ちる
 先ず聞こう頭の痛いその話
 頭数隣のネコを借りて来る
 柔らかい頭で帰る縄のれん
 少し頭下げれば心地よい風に
 右脳壊れ帽子の台に落魄れる
 お互いに頭脳の退化触れずいる
 頭ではわかつている夏の終わり
 頭ごなしに叱った人も懐かしい
 美しいものに感動する頭
 頭では納得・心鳴り止まず
 髪は減るもの風船はしほむもの
 敗北の美学きちんと頭下げ

秀句

宇部市 平田 実男
 米子市 成田 雨奇
 大阪市 柴本ばつは
 横浜市 川島 良子
 三田市 尾崎 一子
 大洲市 中居 善信
 佐賀県 真島久美子
 池田市 栗田 久子
 松江市 藤井 寿代
 堺市 内藤 憲彦
 大阪府 米澤 俣子
 出雲市 伊藤 玲峰
 米子市 政岡日枝子
 東京都 川本真理子
 堺市 奥 時雄
 香芝市 大内 朝子
 大阪市 古今堂蕉子
 弘前市 高瀬 霜石
 大阪市 升成 好
 羽曳野市 藤原 大子
 紀の川市 楠原 富香
 尼崎市 藤井 宏造

「組む」

(投句 224名)

谷 口 義 選



A型の男と組んだのが不覚

べアを組み五十年にもなりました
手を組んだらしい流れが変りだし

も一つの顔は軌道の外で組む

予定は未定組んだ先から煮崩れる

わたくしに組み込まれてる怠け癖

介護だと分からぬように腕を組む

ローテーション組んで姉妹で看てる母

カジノ法有象無象が肩を組む

沈黙にみな腕を組む会議室

二人三脚何度踏く怪我をする

短い足組んでますヨガ教室

来た径と行く道を組む終活よ

ツアー売り込み地獄巡りも組んである

座禅組むところに種を播くように

成り行きで組まれ一生共にする

遊ぶのは断然悪友に限る

胡坐でもお経はちゃんと聴いてます

百歳に届く足場を組んでいる

川柳と組んだ高年悔いはない

藤井寺市 太田扶美代

大阪市 江島谷勝弘

松山市 宮尾みのり

富田林市 片岡智恵子

弘前市 福士 慕情

河内長野市 原熊知津子

門真市 坂本 星雨

豊中市 松尾美智代

宝塚市 岸田 万彩

沖繩県 森山 文切

大洲市 中居 善信

堺市 矢倉 五月

鳥取市 大前 安子

奈良市 米田 恭昌

青森県 松山 芳生

香芝市 大内 朝子

大山市 金子美千代

高槻市 初代 正彦

唐津市 坂本 蜂朗

京都市 榎本 宏子

組まないと消されてしまふ雑魚の群れ

二人三脚前も後ろも好きな人

ロン組んだ後で突然肩叩き

三人が組めば一人がボスになる

ベテランと組んで手抜きのコツも知る

次こそと組む人探してるバツ2

腕を組み頷くだけの父である

四つに組み子の成長を確かめる

二人組食事も医者もみな一緒

組み立てるから嘘っぽくなるのです

祈るしかない指を組んでいる

一つ一つ取り組んで来た結果です

佳 句

足を組むか貧乏ゆすりするかだね

腕組みの中からヒントおどり出る

組み紐の一筋赤いのは恨み

肩組みはあははで腕組みはうふふ

腕組みして考えました冷奴

人

主義主張なので誰とでも組める

老々介スクラム組んで腕組んで

地

お爺さんと組むのが嫌なお婆さん

軸

にんげんを組合せると風が吹く

三田市 久保田千代

大阪市 柴本ばつは

堺市 村上 玄也

鳥取市 岸本 宏章

松原市 森松まつお

大阪市 原田すみ子

弘前市 稲見 則彦

大阪市 高杉 力

大阪市 榎本日の出

佐賀県 真島久美子

大阪市 平井美智子

四條畷市 吉岡 修

青森市 守田 啓子

奈良県 渡辺 富子

橿原市 居谷真理子

黒石市 北山まみどり

西宮市 緒方美津子

奈良市 大久保真澄

弘前市 高瀬 霜石

藤井寺市 鈴木いさお

「少 し」

(投句 224名)

藤 井 智 史 選



お茶菓子が一つ残って手が出ない
未練少し残し明日から他人です
免許返納いささか困るバスの便
あと少し6時に刺身2割引き
溺れるには少し深さが足りぬ愛
少しずるくなつて生き易くなつた
ネイルアート少し老春弾ませる
ちよつとぐらいは触つて欲しい検診日
緑陰下にて若返つたかな少し
寸分の狂い許さぬ宮大工
医の進歩人間少しはしやぎ過ぎ
少しだけ汚れた物が使いやすい
少しならありますマンション買うぐらい
もう少し美人だつたら上を向く
欲張らず目線を少し上にする
風涼し涅槃へ道のあと少し
隙の無い男と少し距離を置く
年金も美肌も少しずつ萎む
節約へ少し多めの水を飲む
白少し混ぜてやさしい色にする

弘前市 福士 慕情
奈良県 渡辺 富子
倉吉市 宮田 風露
奈良県 長谷川崇明
河内長野市 原熊知津子
大阪市 田中ゆみ子
貝塚市 石田ゆみ子
松江市 中筋 弘充
羽曳野市 徳山みつこ
大阪府 米澤 俣子
南あわじ市 萩原 狸月
鳥取市 岸本 孝子
岡山市 丹下 凱夫
鳥取県 石谷美恵子
明石市 桃谷 和郎
土佐清水市 辻内 次根
三原市 鴨田 昭紀
大山市 関本かつ子
海南市 小谷 小雪
鳥取市 岸本 宏章

富士山が少し見えたら治る癌
あと少しもうあと少し日を拝む
びっくりするから少しずつ来てね老い
少しずつ脳味噌溶けてゆく気配
コーヒートのちよつとびり甘い妻の留守
もうちよつと君の隣りに居る時間
煽られて少しは高くなつた鼻
イケメンを少し織り交ぜ書く日記
エア少し抜くと許せることはかり
みぞおちのあたりに純情が少し
虫メガネで探す銀行の金利
現実を少し遠ざけプリンパフェ

佳 句

おすそ分けくださいプータンのこころ
少しだけ秋の気配も足の裏
道ゆずる少し大人になり譲る
糸状菌じわじわ核心に迫る
少しだけ夜が明けたかチロルチョコ

人

少し泣きさんと笑つて桜散る

地

少しずつ君に傾く蔓の先

天

したたかに少し遅れて咲きました

軸

もう少しがんばりましょう終わる恋

佐賀県 真島久美子
門真市 坂本 星雨
青森市 守田 啓子
堺市 村上 玄也
塩竈市 木田比呂朗
三田市 上田ひとみ
富田林市 中村 恵
大阪市 小野 雅美
青森県 松山 芳生
藤井寺市 太田扶美代
堺市 内藤 憲彦
大阪市 原田すみ子
弘前市 高瀬 霜石
松山市 宮尾みのり
大洲市 花岡 順子
岡山市 永見 心咲
沖繩県 森山 文切
鳥取市 福西 茶子
大阪市 平井美智子
橿原市 居谷真理子

初級教室

題 — ルーツ

居谷 真理子

課題がむずかしく創作もあります——と添え書きして下さった方がいます。もちろん創作大歓迎です。本当の事しか詠んではいけないと思っている人がたまにおられますが、そんなことはありません。虚と実の間を自由に行き交う、これが詩歌の喜びであり醍醐味だと思います。ただし自分なりの規定は必要かもしれません。私の場合、元気でいる人を病氣や亡き人にしてしまう「縁起の悪いウソ」はつけません。

(原は原句 参は参考句)

原 薔薇ならば問いかげはせぬルーツなど (小) 雅 美
参 ルーツなど問いはしません薔薇は薔薇
原 時代劇知らぬ先祖の暮らしぶり 奈津子
参 時代劇先祖の暮らしぶり偲ぶ
原 嗜好きルーツはきつとカケスです 朋子

嗜好きでカケスを連想したのは愉快ですネ。

参 嗜好きのルーツはきつとカケスだろ

原 商品のルーツを示すバーコード こみつ

参 商品の素性を秘めたバーコード

原 大農家食べる物には困らずに (東) 美智子

題の「ルーツ」をどこかに感じさせたい。

参 先祖代々飢えを知らずに大農家

原 落語からことばのルーツ知る学が 紀美代

参 落語から言葉の由来学んでる

原 人類のルーツ辿ればみな家族 通 則

参 人類のルーツ辿ればみな一つ

原 弥生土器埴輪にわたし見つけた (門) 幸 子

参 悠久の埴輪にわたし見つけた

原 成金が見栄をはつての系図買い 一 彌

中七の説明は不要です。

参 ちと金ができて系図を買いに行く

原 今を咲くバラもルーツは野のイバラ 剛

参 ツンと咲くバラもルーツは野のイバラ

原 八百万神の一人がルーツです 恒

参 八百万神の一人が我がルーツ

原 ワン公のルーツ良いのが自慢です 不二夫

参 愛犬の血統だけを自慢する

原 我がルーツ辿って行けばおさるさん 光 雄

同想句多数。ひとひねり欲しいです。

参 我がルーツ辿ればイケメンのお猿

原 菩提寺で我が家のルーツ知りました 美枝子

参 菩提寺にひっそり眠る我がルーツ

原 貧乏のルーツだ何故か金がない 由紀子

参 貧乏を伝え伝えて今になる

原 足軽のルーツで速い徒競走 (前) 真

参 ご先祖は足軽かけっこは得意

原 先達の過去帖調査旅に出る 貴美江

参 先達の過去を調べる旅に出る

原 子孫繁栄外来の花誇らしげ (大) 安 子

面白いところに目をつけられました。

参 外来の花がこの地で咲き誇る

原 先人のルーツを探る開拓史 道 子

参 先人の労苦を偲ぶ開拓史

原 父母は亡き名前のルーツ聞きたくも 開 子

参 名の由来聞きたいけれど父母は亡く

原 子のルーツ私も影響してるかな (高) 弥 生

参 子のルーツ私の影もひとかけら

原 盆迎え祖先認識改まる 良 子

参 ご先祖のほんとは知った盆祭

原 竹島のルーツ何処まで遡る 隆 子

参 竹島のルーツを探るかしまし

原ご先祖の写真が睨む鴨居より
写真は省略しても分かります。

(大) 洋子

参わがルーツ数代前がもう不明

雄大

鯉にもいろいろありますが、
参滝登り鯉がわたしのルーツです

原尾氐骨ルーツの名残思い知る

(貝) 正子

原ひよっとして俺は卑弥呼の末裔か
原ルーツではわたしが上といばつてる

寧

原我が家のルーツたずねて旅に出る (田) 廣子
参我が家のルーツたずねて過去へ旅
原惑星に生命のルーツ探してる

参わたくしのルーツを語る尾氐骨

風露

参あなたとは思えず掘った噂の根
原地震です根源ルーツ断ちできず

ミヨノ

参生命のルーツ探して宇宙へと
原母の霊父のそばから離れない

参あなたとは思えず掘った噂の根

こずえ

原夏祭り由緒を子等に伝えつつ

洋一

参寄せられた二句とも題から離れすぎまし
た。この句は完成されています。

参地黒です私南方系らしい

廣光

原負けた悔しさあつて努力のメダリスト

亜希子

【佳句】
ゆうたもん勝ち先祖は小野小町です

口語で統一。

参もういいよ重いルーツは捨てました

ひでお

原人類のルーツはやぶさに託す

美穂

みやげ屋の元祖と本家道挟む
ルーツなら由緒正しい野良ですが

原わがルーツ侍育ち剣ひとつ

ひでお

原知りたかったルーツもあえてはくらかす

くみ子

開拓の苦勞話に血が騒ぐ
先祖から土に根を張り生きてきた

参だといいな前世は偉いお侍

善輔

原もと士族わかつたけれどそれが何
誰？分かりにくい句です。句意が変わるか
もしれませんが、

参元士族それが何だといのです

優

参知らぬなら知らない方が良いルーツ

孚彦

一滴が大河となつて行く試練
誕生の母なる海がきらきらと
【今月の推せん句】

原血液型親の血液型以外

武紀

参家系図を作りますよという業者

みちを

背に見る家紋ひ孫の七五三
雑草にも出自の秘話がきつとある
磯島福貴子

参父に似てそのまた父に似て老いる

和之

原わたくしはたぶん鯉のはず

夢香

マイルーツ想像の野を騎馬で行く
近藤 勝正

川柳塔鑑賞

同人吟 山野寿之

— 8月号から

今日よりは若い日は無い紅を引く
不老不死の薬送ると新茶着く

米澤 椒子

今日いまが一番若い、その通りです。
お友達からは新茶不老不死の薬も届きま
した。さあ、いいお天気、余所行きの服
を着て、赤い靴を履いて出掛けましょ。

耳遠くなつて覚ええた薄笑い

古今堂 蕉子

聞こえないからと言って眉間に皺寄せ
て、「何言うてまんねん」という顔をする
より薄笑いで、聞こえている振りをして
おく方が良いかも。ひよつとしてモナリ
ザの微笑みは耳が遠かつたのかも。

家に入ると形くずれしてしまふ

谷口 義

背筋を伸ばし、サツサと速足で外出か
ら帰宅した。家に入った途端、マリオネツ
トの糸が切れたように玄関にへたり込ん
でしまいます。やっぱ家はええ。

直行で帰れば五分マイホーム

島田 誠一

この句は下戸の方には意味不明ではな
いでしょうか。最寄りの駅から真つ直ぐ帰
れば五分なのに駅裏の立飲み屋にちよつ

脱線を描いながら生きてきた

栗田 忠士

平坦な道を歩んで来たのではない、家
族には言えないが、脱線や衝突を繰り返
し、その都度綻びた人間関係を繕ったり
膝つたりして生きてきたんです。

寅さんではないが男はつらいのです。

ほつといて欲しい構っていて欲しい

平井 美智子

人間は得手勝手なもの。構われたら
ちよつとは独りにしといてよと思う。そ
うかと思うと構わないでよくと、ちよつ
ともう私に関心はないのかと宣う。でも
年齢を重ねると孤独もいという。

肩の荷を下ろし肩から老いて行く

升成 好

若くて元気なころは頑張つてプライド
や肩書をどっさり担いできた。肩の荷を
下ろしたら、背は丸くなり肩パッドを外
したように老いた肩になっていた。

しゃぼん玉割れるがごとき記憶とぶ

石田 隆彦

さつきまで覚えていたことが思い出せ
ないことが最近よくあります。いよいよ
始まったかなと思つたら、ひよんなとき
に思い出すときがありますので、まだ大
丈夫かな。シャボン玉は割れたまま。

補聴器をはずしやさしい風入れる

今井 万紗子

聞こえづらくなり補聴器をして会話に
参加しようとするが、聞かなくていいこ
とまで補聴器は聴いてしまう。補聴器を
外しやさしい風で耳掃除しましょうか。

熟練の大工口から釘をうむ

奥村 五月

子供の頃大工さんが口に釘を含んで板
を打ちつける時に、器用に口から釘を一
本ずつ吐き出しているのを思い出しまし
た。今はホチキスの電動工具で打ちつけ
ています。匠の技はもう見られませんが。

と寄つて冷奴でビールを一本飲んで帰る。
これがストレス解消の妙薬ですね。

気がついてね今日バーマ屋に行きました

栃尾 奏子

用もないのに私の前を行ったり来たりする。気がついてよ、綺麗になったやろ。いつも綺麗からわからへんと言つてこ。

若い日の穴場の地図が役立たぬ

吉岡 修

齢相応に穴場は変わるものですね。若い頃はキタやミナミのどこそこのあの店が穴場でしたが、定年後は図書館の帰りに寄るコーヒの美味しい喫茶店が穴場。

くせ球を素知らぬふりで投げる人

初代 正彦

くせ球を投げて人を傷つけて素知らぬ顔をしている鉄面皮は、ときどき見かけますね。くせ球を投げた人は全くその意識がありません。曲者ですから。

かあさんのひらがなだけのぬくいふみ

鈴木 木いさお

「マザコンと言われてもいい母が好き」は、確か作者の句ではなかったかと思えます。母親はどんな親であつても子どもにとつて宝物。なのに世の中では子が親

を親が子を殺める事件が多過ぎます。

微積分解けた昔は痩せていた

水野 黒兎

齢を重ね塵や灰汁が溜り体形も随分変形しました。微積分が解けていた脳も肥満体になり、脳の皺まできれいに伸びてしまいました。顔の皺は深くなったのに。

空気にもなつて妻とは同志愛

吉村 久仁雄

銀婚が過ぎ金婚を迎える頃になると妻は同居人であり、同志や友達のような関係になりました。でも居なくなるとお互いにとつても困るのであります。

私にもあなたの涙拭かせて

上田 ひとみ

なんと優しい方なのかと思ひました。あなたの涙は哀しみの涙、一緒に哀しむ慰め、共に涙を流してあげればあなたの哀しみも和らぐのではないのでしょうか。

人情の輪ゴムが伸びる老いの坂

夏目 一粹

若い頃は伸びの悪い輪ゴムに入ろうとライバルと競い合つてきた。今は町内の老人会や福祉の集いに参加し老人が助けあつて催しものをしていきます。人情の輪

が広がり老いの坂を楽しんでいます。

記録はシュレッダー記憶焼場まで

宇賀史 郎

資料や公文書はシュレッダーで抹消できますが、記憶は胸に畳んで墓場まで持つていきますか。でもアルツハイマーという記憶のシュレッダーになるかも。

堅物のジョークに満座黙り込む

米田 恭昌

普段冗談を言わぬ石部金吉が、何を思つたかジョークとも本音とも思えぬことを言つた。座に居た全員金縛りになつたのは言うまでもありません。

心齋橋歩くパワーにぶつつかる

永見 心咲

爆買いで賑つた心齋橋も一時よりも静かになりましたが、まだ安売りのドラッグストアでは中国、韓国、東南アジアの方で賑つていきます。奈良や京都では猛暑の中着物を着て歩く、凄いいパワーです。

妻の愛酒が次第にまざるなる

坂本 蜂朗

一本目は妻も笑顔で付き合つてくれませんが二、三本目になると体に悪いからいい加減にしたらと、酒がまざるなる。

水煙抄鑑賞

— 8月号から

米澤 俣子

一歩引きつるさい声を通らせる

小野 美那子

世間には煩わしい事が多くありますが一歩退くことも、世渡りのコツかも知れません。若い時は感じなかったことも歳を重ねた今だからこそ、そう思えるようになったのです。進歩です。

部屋に鍵子供が遠く遠くなる

井 関 はるえ

成長を待ちに待った子らも、就職や、留学で遠くへ行ってしまった。昨今は世界を股に活躍する時代、子らの成功を願ひ乾杯してやりましょう。

鳴き砂へ海の返事は波ばかり

花岡 順子

星月夜キュッキュッと秘めた想いの砂に波は打ち寄せるばかりロマンのある句。それにしても大洲市の水害如何ですか。

恋やがて仕立て直して愛となる

原 熊 知津子

お若い方だから作れる句。仕立て直し

てやがて愛、発想が素敵です。この様な句を作られる若々しさ羨ましい。

ジャンプ力鍛えて鳥になる途中

小野 雅美

途中が効いている。パウーを溜めて羽ばたく日が待ち遠しいです。

スキップを上手く踏めない六十路坂

青木 隆子

先日テレビで、最高齢八十六歳のチアガールグループのステップに感動しました。六十歳なんてまだまだ中年です。頑張っていただきましよう。

入院を休養ですと励まされ

村中 悦男

懸命に働きつづけて来た今、神様から休むご褒美を頂いたのでしょうか。私自身も、何度か入院がありました。身につまされます。ごゆっくりご静養の程を。

帰る家あると元気に働ける

定松 宏枝

西日本の水害で、家、家族まで亡くしてしまわれた方の報道を見てショックでした。集う家族から働く元気を貰えます。

今日明日はお一人様で超気楽

本田 さくら

たまに息抜きしたい主婦、但したまにです。その昔、夫元気で留守がいいを思ひ出し、頬がゆるみます。ごめんなさい

ご主人様。よく働く妻です。お目こぼしを。 労いの言葉が増える老いふたり

吉道 あかね

老いてからが本当の夫婦です。互いにアリガトウで繋がっています。

愛してるたまに言っっては驚かす

田本 古鈴

楽しいですね。一度も言われたことがない私、羨ましい限りです。やっぱり、たまにだから価値があります。

ほしかつた庭付き家も今負担

辻 開子

ホントそうです。庭掃除は大変です。でも鳥が来て赤い実の木や芝生、やっぱり戸建て庭つきも捨てがたいです。それに大地震の時はいいかも知れませんよ。

歳なんか忘れて跳ねる恋ころろ

上山 堅坊

口げんか止めと今日日は薔薇園よ

柴本 ばつは

出会うみんなが友に見える日よ

小畑 宣之

笑い声元気の素をいただきたい

近兼 敦子

ケーキより現金を待つ誕生日

西郷 紀美代

楽しいですね。人生百歳の時代がそうです。余生と言うのはまだまだ早い。



電子化事業ごぼれ話

過日、「川柳塔ウェブサイト」へ本社に宛てた問い合わせのメールが寄せられました。サイト管理人の森山文切さんから事務所へ転送され、事務所から私に回ってきました。

問い合わせは、川柳塔80号に載っている山下美津留さんの作品についてのことでした。早速、電子化された80号を開いてみますと、それは平成6年1月号でした。そして、美津留さんの作品は4頁に載っていました。ちなみに選者は西尾葉先生で、巻頭は田中正坊さん、二番目は西出楓楽さん、三番目は江原とみおさん、そして、山下美津留さんと福元みのるさんの5名がトップページを飾っています。

八尾市 山下美津留

村祭り力石には近寄らぬ

妖精の群れに混じってスイミング

やんわりと説教調で焼を入れ

還暦へ実りの証 孫を抱く

飼い犬が家庭争議と言う平和

終局の姿いまだに描けない

メールは元四日市大学教授の高島横助氏からで、内容は「全国の力石を研究していて、力石を詠った川柳や俳句も収集している」こと。そして、「村祭り……」の句に対して「拙著への転載許可をいただきたい。できれば作者に取材をさせていただかないでしょうか」ということでした。

古い同人名簿を探しましたら、平成6年発行に美津留さんのお名前がありましたので電話をかけたところ、奥様が出てこられました。事情を話しましたら、美津留さんは平成9年にお亡くなりになられた由。近所の八坂神社の奉賛会に入っていたので、その関係からの句かも……。主人が生きていたかどうかに喜んだか……と声を詰まらせていました。

折り返し高島氏に、「作者名と川柳塔80号から転載、と明記していただければ掲載OKです」と連絡。ついでに、「どのようにして作品をお知りになりましたか？」と訊ねましたら、「川柳 力石」で検索をかけて辿り着いたとのことでした。

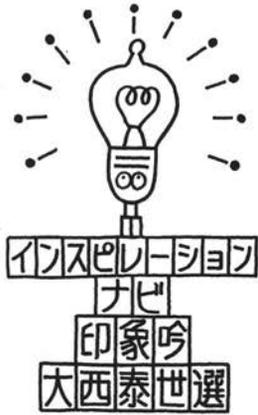
その後、美津留さんの奥様へウェブサイトからプリントアウトした4頁をお送りしたところ、折り返しご丁寧な礼状と共に美津留さんの遺句集「旅の誘い」が届きました。

序文は塩満敏さん、思い出を宮崎シマ子さん、吉村一風さん、芳鉄心さん、中原比呂志さん、大内朝子さんが記しておられます。「あとがき」は奥様の山下静子さんが書かれていて、遺句集発刊にお世話になった方々として、江島谷勝弘さん、森松まつおさん、川端一歩さんのお名前があります。

塩満敏さんといえば、亡くなられる直前に電子化事業のために貴重な「川柳雑誌」をご寄贈くださいました。

今回のことは、電子化事業を立ち上げてから初めての「外部からの反響」であるだけに、推進担当の文切さん共々とても感激しました。同時に、「作者は他界しても作品は生きていく」ことを強く思いました。そして、全世界に発信して何処からでも繋がるネットの力を改めて感じました。

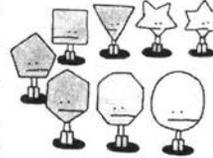
(7月号4頁に電子化事業基金についての広告有り)



(投句208名)

暑い、あつい、アツイ!

何度言っても言い過ぎとは思えないほどです。



それでも句会があれば皆さん出掛けられますから、すごいなあ、と感服してしまいます。反対から言えば、だからこそお元氣なのでしよう。句作に頭を捻って、皆と笑い合う、素晴らしいかな川柳、ですね。それでは、ナビです。

弘前市 高瀬 霜石

はじめたらいつか終わらせねばならぬ

(評) 大変そうでもはじめる方がカントクン。その何倍も大変なのが終わらせる時です。エネルギーいっぱいあります。

豊中市 上出 修

ニッポンにやがて移民が溢れ出す

(評) 余所の問題だと思っていると、や

がてジワジワと我が身に降りかかってくる、よくあります。

大阪市 大治 重信

地震やで大阪でつせ大きいです

(評) 本当にビックリです。あんな地震が起きるなんて。何となく大阪は大丈夫みたいな過信がありましたから。

大洲市 中居 善信

まだ続く小さな森の盆踊り

(評) 盆踊り、ここでは動物たちが踊っているメルヘンの世界に思われます、でも、とにかく懐かしい。

大阪市 高杉 力

ラーメンの列に並ぶという平和

(評) 一人の情報があつという間に拡散し、一杯のラーメンを食べるために行列するのです。平和なればこそでしょう。

河内長野市 森田 旅人

月火水木金と猪口かえて

(評) 月火水木金かと思いましたが、違っていて良かった。お猪口を変えればお酒の味も微妙に違いますか。

黒石市 北山まみどり

満月になりたかったと金平糖

(評) 金平糖のかわいいつツも、金平糖からすれば不満だったのですね。発想がユニークでステキ。

奈良市 山本 昌代

いい日と今日は宇宙へ帰ります

(評) 今に様々な惑星と行き来出来るよ

うになるのでしょうか。こんなふうには何気なく言えばカッコイイですねえ。

高槻市 島田千鶴子

楽し気にスイーツ男子列をなす

(評) こちらはラーメンではなくスイーツに行列する男子たち。男性も日傘をさす時代ですもの、さもありなん。

神戸市 奥澤洋次郎

いろいろとあつた平成さようなら

(評) 本当にいろんな事がありました。そして、本当に平成もあと少し、昭和はますます速くなるのです。

弘前市 稲見 則彦

星影のワルツに乗って別れましょ

この暑さお手上げですという困扇

河内長野市 山岡富美子

やがてやがてみんな淋しいみんな優しい

虹へ向け飛び立つ準備やと出来

大阪市 平井美智子

年取れば矢りも取れて丸くなり

星占いどんな仕合せでるかなあ

堺市 坂上 淳司

結局はメビウスの輪と気付いた日

お知らせです樹木葬って決めたから

和歌山市 古久保和子

青森市 守田 啓子

大阪市 磯島福貴子

唐津市 坂本 蜂朗
行列を見れば配給かと思ふ

大阪市 柴本ばつは
算筒長持あの娘に決めた

米子市 八木 千代
フィナーレに立つ混声の5秒前

寝屋川市 平松かずみ
一ツだけ山葵たつぷりなのがある

大阪市 藤田 武人
行列があると並んでみたくなる

和歌山市 武本 碧
イエローカレットか外野騒がしい

大阪市 栃尾 奏子
織姫もかぐやも住んでいる銀河

豊中市 松尾美智代
おにぎりもその日の気分まる四角

松江市 石橋 芳山
惑星の軌道が少し混んでいる

橿原市 居谷真理子
片方のピアスにあの日逃げられた

大阪市 石橋 直子
紙吹雪作って急ぐ甲子園

弘前市 浅田 隆樹
この先の進化知りたい霊長類

鳥取県 門村 幸子
回り灯籠父母と尋ねん仄明り

沖繩県 森山 文切
才能はピカイチだけど最後尾

大阪府 笠嶋 惠美
各国の事情が違う自己主張

男鹿市 伊藤のぶよし
父ちゃんの肩で掴んだ流れ星

西宮市 西口いわゑ
頑張ろうオアシスまではもうすこし

貝塚市 石田ひろ子
駅弁が旅の楽しみ盛り上げる

神戸市 上田 和宏
給水を礼儀正しく待っている

大阪市 小野 雅美
息抜きにちよつと乱れていいですか

堺市 内藤 憲彦
これからは楽しんで行く八合目

唐津市 仁部 四郎
不揃いのグラス日本酒ウイスキー

佐賀県 真島久美子
全員が仲間外れという仲間

東大阪市 佐々木満作
異業種が寄ればアイデア無限大

香芝市 大内 朝子
きら星の頃もあつたの走馬灯

三田市 堀 正和
お姫様だっこみんなにしてあげる

岡山市 永見 心咲
トロピカルドリンクバーに人の波

明石市 梶谷 和郎
人類の次は何か進化論

八王子市 川名 洋子
女子会の花はな花のあでやかさ

三田市 北野 哲男
E U の呉越同舟揺れやまず

富田林市 片岡智恵子
真実が見えぬ空虚な目に出合う

和歌山市 北原 昭枝
盆おどり忘れていない故郷よ

豊中市 藤井 則彦
ビールの泡も消えてしまったご挨拶

鳥取市 永原 昌鼓
順番にヘリコプターの救助待つ

札幌市 三浦 強一
気が付けばドミノ倒しの列にいる

神戸市 富永 恭子
わくわくを甦らせるビートルズ

横浜市 菊地 政勝
どの顔も得したような特売日

藤井寺市 若松 雅枝
かき氷イチゴにレモンどれも好き

三原市 笹重 耕三
ああ言えばこう言う譲らない仲間

東京都 川本真理子
一列に並んで流れ星になる

羽曳野市 吉村久仁雄
性格も顔もまーるくなって古稀

11月号発表 (9月15日締切)



(平本 勝彦 画)
柳 2句

川柳塔みちのく創立三十周年記念句会

弘前汗だく紀行

吉村 久仁雄

表記句会が平成三十年七月一日弘前市で開催され、川柳塔社から8名が参加しました。二泊三日の旅です。

句会前日は「弘前城」と「ねぶた村」を見学。弘前城は、道幅が広々としていて、のんびり散策できました。桜の風景で有名な濠の石垣が修理中で天守も移動していましたが。しかし東北・弘前市だというのに、気温三十度を越える暑さ、もう汗だくでした。

夜は「津軽三味線ライブあいや」で、小島蘭幸主幹が合流し、川柳塔みちのくの方々も参加してにぎやかに宴会。津軽三味線は特に三人目の方が激しくかつ繊細なテクニクを持った方のようにでした。三味線から二メートルのそばで聴けるとは得難い経験でした。

二日目は本番の記念句会。披講前のお話は小島主幹です。十五歳から川柳をはじめ

たいきさつなど、いつも通り、ユーモアを交えたゆったり口調で話され、特別選の選者を務められました

席題は二題、宿題と合わせて五題とも共通です。入選句は、人間や人生を真正面から詠んだ句が多かったような印象を受けました。東北人・青森人気質なのかなと思っただ次第です（私の思い込みです、ご容赦ください）。



二日目の夜は、「シャンソン酒場『漣』」です。秋田漣さんのお歳を感じさせない朗々としたライブを、二メートルのそばで聴けるとは貴重な経験でした。しかし酒場というのに、この日エアコンが故障していて、扇風機一台だけの風、もう汗まみれでした。

三日目は「ねぶたの家ワラッセ」を見学しました。弘前市はねぶた、青森市はねぶた、眠いの方言の訛りの違いだそうです。ねぶたは扇型、ねぶたは人形型等の違いもありますが、本質的に一緒のものだと強調されていたように思います。

最後の見学は縄文時代の集落跡「三内丸山遺跡」です。出土した土偶やヒスイなどが展示され、特に復元された高さ十五メートルの大型掘立柱には圧倒されました。しかし、東北・青森市だというのに、三十度超えの暑さ、もう汗みずくでした。

川柳塔みちのくの皆様には大変お世話になりました。特に福士慕情主幹には、青森空港の到着から出発まで、お世話・ご同行いただき誠に有り難うございました。改めて御礼申し上げます。

次の機会は、涼やかな弘前を訪れたいと願っています。

本社 八月句会

◇八月九日(木) 午後一時
アウイーナ大 阪

歴史的な酷暑が続く九日、八月句会は百二十六名(内投句者六名)の参加で開催された。初出席は神戸市の米田利恵子さんと斎藤隆浩さん。句会に先立ち、過日亡くなられた同人須郷井蛙さん(弘前市)に黙祷を捧げた。

今月のお話は水野黒兎さん。題は「薰風川柳と俳句」。「詠み初めの今年は石田波郷集」の師の句からも窺えるように、詩と俳句の関わりはかなり深いと推察できる。黒兎さんの紹介の句を、思いを新たに読み比べてみたい。

波郷 鬮雲ひろがりひろがり創痛む
波郷 鬮雲びつしり僕の齒は抜ける
原爆忌 鳩ら火傷の脚運ぶ
福寿草家族のごとくかたまれり
福寿草五大家族はこうように

月間賞は藤井智史さん(笠岡市)
(司会)隆彦・真理子(脇取)扶美代・すみ子
(受付)昌代・池純子(懸垂幕墨書)耕治
(清記)憲彦・勝弘

席題「仏」 江島谷勝弘 選

句集頂く新仏さまありがとう
席題も知らぬが仏初参加
翁長さんジュゴンの海が泣いている
飲み足りずこの世さまよう新仏
仏壇に水とメロンと宝くじ
仏壇に一分いない缶ビール
猛暑日は仏さまにもかき氷
じいちゃんに会いたかったと五歳の児
奈良の大仏バンチパーマでイケメンで
仏壇に母の好物たこ焼を
厳しさと優しさ母は仏さま
女装から上下している喉仏
女壇へ葉供える癖がある
腹を見せ生きた蟬ほとり落つ
震度七南無阿弥陀仏出てもた
仏壇も断捨離します悪しからず
青い眼がキョロキョロ仏都高野山
寂聴さんの陽気へしゃっほ脱ぐ仏
仏様ご免なさいとセミヌード
寝てばかり仏の修行なのか兄
ご香典弾むとお経目茶長い
なれるなら暇もお金もある仏
金儲け下手で仏のような人
他人には仏の顔の夫です
金持って死ねば仏になれへんぞ

松尾美智代 斎藤隆浩 山崎武彦 清水久美子 森松まつお 村田博 新家完司 能勢利子 木藤こみつ 坂裕之 山口弘委智 山野寿之 鴨谷瑠美子 宇都満知子 上野多恵子 金川宣子 坂上淳司 西出楓菜 平松かすみ 森田旅人 太田としお 藤井則彦 川端六次 柿花和夫 居谷真理子

懇親会に集う仲間のみな仏
仏心あるけど今は鬼でいる
頑固さが消えた時には仏さま
仏さんに仲間はずれはないだろう
どの道を行ってもいずれみな仏
仲良くしようみんな仏になる仲間
仏壇を閉めて再婚話する
仏法僧聞いてしばしの涼を得る
仏ごころ蚊にたつぷりと貸した腕
酒二合いただきますと生き仏
三合が仏と鬼の岐分点
三次会仏ばかりになりました
佳
四度目は仏の生の顔を見た
台風は仏心はないらしい
酔ったから妻が仏の顔に見え
水よりも酒かビールがよい仏
S席がとれたと仏からメール
人
チンのご飯だと仏さん気分かない
地
仏壇に門をして遺産分け
天
仏にも鬼にも妻の七変化
軸
鈴木いさお 原田すみ子 米澤 俣子 小谷 小雪 西出 楓菜 片山かずお 伊達 郁夫 澤井 敏治 村上 直樹 新家 完司 鈴木いさお 小島 蘭幸 吉岡 修 太田としお 川端 一歩 油谷 克己 川端 六次 島田 握夢 山野 寿之 村上 直樹

兼題「写真」

小谷

小雪山

何かも暴いてしまうシャッター音
何時だつて写真の僕は隙だらけ
嫁に来る意志がはやけている写真
突然の訃報にアルバムを開く
あやしてる君を撮りたいカメラアイ
仲達の頃かこっそり背伸びする
胃カメラに写る真つ赤な嫉妬心
写真飾り立て喪失感埋める
黒縁へ一期一会のご焼香
村度をスナップ写真してくれぬ
泥水を洗い陰乾す災害地
判定の写真息などしていない

兼題「たむ」

内田志津子 選

百万字よりも語っている写真
写真裏つい撫でている母の文字
妻を撮るすこしピンとを甘くして
青写真の夢消えました夫の死
戦死した父を写真で覚えてる
堅物の遺影やっぱり怖い顔
辛い日も笑顔になつている写真
浴衣姿の写真が縁でいい伴侶
別れましょう写真一枚くださいな
撮り鉄に嵌まり会社をラストラン
スードではない仏像の写真集
埋葬用の写真がないと連れが言う
口で言う歳を写真が笑つてる
はいチーズと言われて揺らく総入れ歯
写メールから汗を流せと喝が飛ぶ
クローラーを効かせ水河の写真集
団欒の写真は今や風ばかり
見合い写真に点数つけてまだ独り
ハネムーンの場所までまた撮るフルムーン
モニタージュ写真が僕に瓜二つ
待ち受けには恋人だった頃の妻
原爆忌老いた遺族が写される
実際の齢は飾らぬ葬儀場
7号を着てたと写真出してくる
髪がある十年前のバスポート

居谷真理子
小野 雅美
伏見 雅明
柴本ばつは
柿花 和夫
米田 恭昌
鴨谷瑠美子
前 たもつ
米田理恵子
島田 誠一
川端 六点
荒川 鈍甲
原田すみ子
藤井 則彦
飛永ふりこ
新家 完司
中村 恵
柿花 和夫
三宅 保州
山野 寿之
村上 直樹
前 たもつ
大杉 敏夫
島田 握夢
坂上 淳司

上田ひとみ
村田 博
藤井 智史
新家 完司
中川ひろ介
島田 握夢
平井美智子
藤井 宏造
山本 進
西出 楓楽
山根 妙子
岩佐ダン吉
木本 朱夏
石田ひろ子
川端 一歩
たむらあきこ
小島 蘭幸
北野 哲男
澤井 敏治
栃尾 奏子

帰る娘に諭吉一枚折り畳む
甲子園涙とたたむユニフォーム
閉めはったお坊っちゃまで三代目
丁寧に浴衣たんで夏終る
畳むのが辛いベッドにする後期
代誌が胸にたたんだ弔辞出す
運不運たんで今日のゴミに出す
惜別の傘を切つて傘たたむ
満中陰喪服たんで明日は翔ぶ
核心に触れると話題すぐたたむ
膝たたみ目線を下げて子を諭す
七回忌亡夫の傘もたたみ時
子の世話になろうと決めてたたむ傘
今日の汗綺麗にたたむ仕舞い風呂
さびしきは胸にたたんだ父の咳
お手伝い下さい命たたむとき
一日のけじめをたたむ日記帳
形見の袖畳むと亡母の声がする
秘め事は胸に畳んで持つて逝く
終の章きれいにたたむおかげさま
大胆に恋は小さくたたまない
古日記足したい言葉たたむ胸
店たたむ老舗に残る明治の香
命たたむ心をこめてありがとう
切札を胸にたたんでなびいてる

福田 好文
米田 恭昌
太田としお
鈴木いさお
鈴木 栄子
北野 哲男
吉村久仁雄
山崎 武彦
油谷 克己
石田 隆彦
鈴木いさお
矢倉 五月
平井美智子
山岡富美子
森田 旅人
居谷真理子
木本 朱夏
伊達 郁夫
山野 寿之
荻野 浩子
藤井 智史
藤田 雪菜
水野 黒兎
前 たもつ
山本加お里

住

クラス写真の隅っこに居る影法師
作り手の写真野菜の格を上げ
残酷な写真だ死んだ子を背負い
きのうの水の影も遺している写真
哀しくなるのでアルバムは開かない

人

遺影にも怒った顔があつてよし
衛星が写す地球が燃えている
一枚の写真が裏返す世論
これあなただと問答無用

代々の墓を疊んで骨は海

一日をたたむ夕陽に感謝して

来ないから店を畳むとママが泣く

洗濯をたたむ間もない子沢山

原爆忌まだためない核の傘

店じまい最終安値何度でも

いらつきをたたむ冷酒がまだ足りぬ

喜怒哀楽心のひだにたたみ込む

いい加減野心的ためと不整脈

古傷は蒲田の下に折りたたむ

たたまれた記憶のしみがうすき出す

たたんだ夢とき風に当てている

佳

美しいおじぎ敵意を折りたたむ

たたむには惜しい自慢の過去が有る

たたまれたメモに自殺の娘の悲鳴

再会にたたんだ恋がほじけだす

歳月をたたんだ皺が美しい

人

終焉もちやんとたたんで逝った母

地

過去たたみ楢山行ききのバスに乗る

天

シャツター街未練たたんでいる夕陽

軸

過去のこと胸にたたんで窓を拭く

藤井 則彦

田中ゆみ子

村田 博

指宿千枝子

大杉 敏夫

金川 宣子

飛永ふりこ

西出 楓楽

奥澤洋次郎

小谷 小雪

古今堂蕉子

岩佐ダン吉

青砥たか子

原田すみ子

細川 花門

原田すみ子

山岡富美子

池田 純子

伊達 郁夫

島田 誠一

兼題「びよん」

山田

耕治 選

リベンジを誓う球児の鬼とび

売り物のベッドびよんびよんしたくなる

この川を一緒に跳ぼうプロポーズ

一衣帯水びよんと越せない拉致の国

水溜り探しびよんびよん黄のブーツ

びよんと極楽お布施たっぷり積んだから

噂話びよんと入った耳の穴

胃の中でびよんと跳ねてる踊り食い

水たまりびよんと跳んだら腰がキクッ

ここだけの話がびよんと垣根越え

びよんびよんと飛んでた孫も母となる

赤提灯見るとハートがびよんとなる

びよんと跳ぶ孫に続けと水たまり

びよんとはね起きた布団のまま二度寝

Yシャツにカレラうどんの跳ねた汗

カエル跳び五回ぐらひはまだ出来る

まだ元氣寝ぐせでびよんと撥ねた髪

二段ずつびよんと若者朝の駅

びよんびよんと三段とびで孫が来る

ピンピンコロリびよんとあの世へとびたいな

嬉しい日は影もびよんびよん付いてくる

びよんびよんがクタクタになり孫帰る

面倒なびよんと飛び越すスケジュール

一線をびよんと越えたら変り出し

米田 恭昌

清水 英旺

田中ゆみ子

山本 進

北野 哲男

清水久美子

村上 直樹

藤原 大子

木藤こみつ

鈴木いさお

渡辺 富子

吉岡 修

新家 完司

山本 昌代

藤井 則彦

中島 一彌

新家 完司

中島 一彌

山根 妙子

山本希久子

山本希久子

太田扶美代

山口扶美代

小山 紀乃

榎本 舞夢

羽もないのに飛びたがるホモサビエンス

不意にびよんおんぶバツタのハイジャンプ

びよんと飛ぶなんだなんだと老いの坂

びよんと出た万札僕の葉です

月面で兎ビヨンビヨンした昔

いなびよんカルシュームだと追いかける

少しなら私も翔べる気がします

吉報にびよんとスキップして転ぶ

びよんびよんと孫とスキップまだ出来る

長椅子はトランポリンに三歳児

触れられてびよんと飛び出す風仙花

びよんと上向いたあなたの鼻が好き

佳

妻の顔がびよんと浮かんだ午前様

バツタがびよんちいさな秋をつれてくる

ご機嫌な妻のびよんびよん飛ぶ話題

スキップでびよんびよん跳ねる子と家路

趣味を得てびよんびよん跳ねている余生

百点にびよんびよんはねるランドセル

兎跳びみんな夕陽の中にいる

天

淋しさが撥ねる夜更けの金魚鉢

軸

好きだよに胸のウサギがびよん跳

三宅 保州

米澤 俣子

森田 旅人

坂 裕之

川端 六点

榎本 宏子

中岡千代美

水野 黒兎

磯島福貴子

田中 章子

小谷 小雪

上野多恵子

藤井 則彦

大内 朝子

居谷真理子

鴨谷瑠貴子

上山 堅坊

能勢 利子

小島 蘭幸

平井美智子

兼題「袋」 川端 一步 選

ばあちゃんをつやつやにするぬか袋
 詰め放題あももうアカン破れそう
 前掛けを袋に貰うお裾分け
 喜怒哀楽入れる袋を持ち歩く
 胃袋が丈夫で困るダイエツト
 風神の袋の風も欲しい夏
 果樹園の愛情かけた袋がけ
 歳かしたら劣化してきた知恵袋
 袋としてある胸の石一つ
 欲望を詰める袋に底がない
 この頃は土囊袋が必需品
 堪忍袋時々中味入れ替える
 熨斗袋ちよいと妬心もまじってる
 袋ごと香りも食べる初みかん
 頭陀袋からひよいと句を出す山頭火
 酒入る胃袋別にあるみたい
 カラスにも選ぶ権利のゴミ袋
 嘘のない暮らし手袋泥だらけ
 シヤイだから虫袋は顔上げず
 この暑さ堪忍袋電池切れ
 袋とじ覗いて見たい週刊誌
 お見舞に笑い袋を持って行く
 子に還るおふくろ遂にあんた誰
 補助金の袋叩きになる不正
 笑い袋土石に埋まる被災の地

伏見 雅明
 柴本ばつは
 三宅 保州
 前 たもつ
 石田ひろ子
 森 廣子
 宇都満知子
 木本 朱夏
 関 よしみ
 渡辺 富子
 江島谷勝弘
 平賀 国和
 飛水ふりこ
 指宿千枝子
 西出 楓楽
 松岡 篤
 澤井 敏治
 山岡富美子
 中島 一彌
 今井万紗子
 藤田 雪菜
 森松まつお
 村上 直樹
 前田 紀雄
 島田 誠一

カンガルーの袋の中は子の未来
 被災地に寝袋下げて行く息子
 母に持たす御守り袋鈴つけて
 母さんが家族まとめる頭陀袋
 胃袋に問えば夏バテ冷や奴
 甲子園の砂囊球児の宝物
 におい袋かすかに風が動いたよ
 胃袋を満たして名案が湧いた
 十七音の袋にわたくしを詰める
 胃袋をばりばりパワハラが破く
 雑学を補給しておく智恵袋
 逝く日までは世話になりますゴミ袋

山本加お里
 伊達 郁夫
 今井万紗子
 松尾美智代
 米田理恵子
 村田 博
 山田 葉子
 大内 朝子
 たむらあきこ
 栃尾 奏子
 北野 哲男
 新家 完司

故郷と胃袋つなぐ母の味
 ウミガメの死因は君のポリ袋
 袋小路に迷い込んだな黒田さん
 防災袋魔除けに吊ってますわが家
 夏の夕ほたる袋に母の影
 水囊で冷めますやらか恋の熱
 暮らし向きこっそり透けるゴミ袋
 これからを詰めた袋の無限大
 箸袋でガイドの上手褒めてあげ

石田 隆彦
 田中ゆみ子
 坂上 淳司
 萩野 浩子
 水野 黒兎
 山本 進
 萩野 浩子
 鈴木 かこ

兼題「威力」 小島 蘭幸 選

文科省の威力裏口から入る
 グラマーにもミニにもびくともしない認知症
 濁流が生きた証しを持ち去った
 大自然の猛威打つ手の無い悲劇
 百歳の母が静かに出すオーラ
 生きていける貴方が傍に居るかぎり
 会長の椅子の威力はハンパない
 納豆にオクラねばねば夏に勝つ
 人類の威力と思うポラントイア
 この世では美貌はかりが跋扈する
 汗の量そんな違いを見せられる
 地に墜ちたボスの威力とサンクラス
 産声の威力天地を揺るがせる
 核の威力やはり日本が語るべき
 じっくりと煮込めば嘘も裏返る
 監視カメラ家の四方に付けてます
 路郎忌欠礼雨の猛威に阻まれて
 8月の原爆ドームすつと立つ
 年金の威力句会に人が満ち
 地震豪雨の威力に負けぬ人パワワー
 トランプの威力歯止めがかららない
 アメリカの傘に隠れている日本
 モナリザの微笑の威力底知れず
 指切りの威力楽しい夢描く
 力道山の空手チョップを見た世代

米田 恭昌
 島田 握夢
 中川ひろ介
 川端 六点
 平井美智子
 田中ゆみ子
 森松まつお
 水野 黒兎
 前 たもつ
 小野 雅美
 岩佐ダン吉
 藤井 則彦
 鴨谷瑞美子
 上田 和宏
 島田 誠一
 村田 博
 細川 花門
 立蔵 信子
 岸田 万彩
 石田 隆彦
 佐々木満作
 坂上 淳司
 矢倉 五月
 山本 昌代
 丹後屋 肇

上司へは付度部下へはバワハラ
 休火山の威力知らないままがよい
 札束も及ばないイケメンの威力
 笑顔から一転妻の速射砲
 農機具に父が残したメッセージ
 線香花火も金魚もお祭りの威力
 妻の一喝庭の蟬まで畏まる
 ドーベルマン二匹居るから高枕
 金沢は金粉乗せるかき氷
 救援へ数の力がすばらしい
 治山治水想定内にしてほしい
 過疎の子の産声はいまファンファーレ

佳
 いのち生む女の威力だと思ふ
 ナマ中三杯猛暑の威力には勝てぬ
 御免やつしやの威力三人席を立つ
 桐喝してきたのは井の中の蛙
 バトカーに出会うと臍がキュツとなる

人
 大内 朝子
 柿花 和夫
 山田 耕治
 たむらあきこ
 新家 完司

地
 爆弾になるかも知れぬ檸檬の黄
 木本 朱夏

天
 母さんが泣いたみんなうなだれた
 居谷真理子

軸
 フルスロットルにて恋へ立ち向う
 藤井 智史

テレビ出演義父が蘭幸さんと呼ぶ

句会 燦 燦

七月句会を読む 弘 津 秋の子

天地叱咤の中の七月句会。句会とは(体力面でも)命懸けで行く場所であるのかもしれない。「またお会いしましょう」と別れる柳人仲間の挨拶は深い言葉であるなあ。

ラッパ飲み絶好調はまだ続く

小島 蘭幸

蘭幸さんも私も団塊の世代である。若い日はラッパ飲みする友人の横で静かに呼吸しているタイプであった私たちも今年には古希である。弾けてもいいではないか。「絶好調」と詠おう。これからこれからである。

原発をたくさん持った被爆国

藤井 宏造

核兵器持つて非核を叫ぶ国

大内 朝子

話は飛ぶが「俳句甲子園」から若い俳人が生まれてくる時代となった。広島在住の二十四歳の榎本由貴さんは、見慣れた原爆ドームの景などを一句に詠み始めているという。その姿勢を青木亮人さんは「俳句時評」欄で「いかに記憶を継承すべきか」という想いもある」と看破されている。「被爆国」「非核」を詠うお二人の川柳も記憶の継承者の句である。

方言をさらりと添える道の駅

北野 哲男

映像が浮かぶ。郷愁が湧く。私は旅人となりこの一句に癒されてる。

こまかい漣めだかの子供生まれてた

中川ひろ介

これから私は漣をみるたびに、この句を思い出すだろう。「ひろすけ」さんの名前を思い出すだろう。

ひ孫なら行けるだろうか月旅行

川端 一步

ヒマラヤを飛んだ想像を越えた

古今堂蕉子

二十年後そこに百歳の青春

奥澤洋次郎

五七五で月にも行けるし天にもゆける。私たちの川柳手帳の中に青春がある。

冬心油壺

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。
編集部

和歌山三幸川柳会

楠原 富香報

濡れ衣が晴れても時は戻らない
アナウンスも少し訛った旅の駅
書き切れぬ思いを託すちぎれ雲
日常がふと顔を出す旅三日
欲張れば風船割れる日は近い
晴れ曇り時々雨のひとり旅
思い出を刻んで今日もひとり旅
梅干しも一つポーチにここはパリ
絵葉書をはみ出している孫の旅
ネイルアート心華やぐ母の旅
旅先でわたしたを天日干しにする
旅の恥かいた二人の語り草
夕焼けて弾みがついた旅仕度
青春切符グループはみな熟女たち
過去未来今を生き抜く旅最中
遙かなる湯浅の海のしらす漁

保州 和子
純子 義雄
次根 准一
章子 智三
菜摘 知香
絹子 昇
明子 当代
俣子

人類の進化の旅に果てはない
秒読みに入りファイトの湧く余生
気乗りせぬ旅で充電した私
今日の日を迎えてくれた揚げ雲雀
ほとぼりが冷めたら城を出てみよう
一本のザイルあの山越える旅
帰る家があるから人は旅に出る
俄雨助かつてますコンビニで
旅終えてやっと先祖の墓地に着く
句読点打つてときめく旅支度
母の城笑うこけしが住んでいる
新人のガイドの訛りむ和旅
思い出の古里の旅なぞる地図
境内に同行二人笠の波
地図のない未知を選んで旅半ば

川柳塔みちのく(青森) 稻見 則彦報

日出男
ひろ子
起世子
美枝子
美羽子
あき子
千鶴
一雄
幹子
富香
宏夫
宏枝
まさ
敏照
昭枝

日本人だね星座占いもめている
桜桃忌百年前の風を呼ぶ
金に目が眩んで父母の窮地にし
米と目相手の意図のさぐり合い
独り居も星座と語る過疎の宙
訳ありという名の商品売れに売れ
キラキラ名つて売れてる新刊書
誰も皆煙になつて星になる
がけつづちで買った容器に底がない
新風を拒む規約の古い壁
雪の夜は話を話題に干菜汁
病室でやたら目に付く訃報欄
人間を演じ続ける足の裏
温もりは円空仏が分け与え
交番の前は通らぬ二人乗り
筈を追って縄文人になる
悪友だから笑って許す胃の痞え
6Bとワイングラスのシャイな位置
呑みすぎぬ事が父への自慢なの

はびきの市民川柳会(大阪) 中川ひろ介報

柳子
ひとし
初枝
小とみ
のぶよし
英子
京子
真由美
吞舟
龍馬
ふさゑ
花峯
あ
きよし
井蛙
霜石
洋子
和香子
規子

加減を知らず強さばかりを求めてた
いい事をすればいい事きつとある
酔う程に炉端賑わす政治論
補強した選手が打たぬタイガース
こきりこにささらおわらを聞く炉端
炉端焼今日も集まる赤い鼻
いろり端遠野の民話聞こえそう

雄太
みつこ
壽峰
ちづる
欣之
いさお
大子

無添加の愛を注いで気づかれず
川柳の二次会似合う炉端焼

スポーツは本音を吐いて勝負する
うっかりと本音洩らして口おさえ

舞蹴
かりん

松山芳生選

てにをはを変えれば秀句零れ出る
介護ロボに移り始めた加齢臭

アホバカと叫んでみたい財務省
本当の事を私は知りたいの

勝弘

拉致と核アウトラインも掴めない
文字よりも重たい空白のページ

振り袖を信じて予約だまされた
塩ちよつと加えてまあある味にする

女のいない国に行きたいのが本音
仲間内本音トークで盛り上がる

芳香

風鐸がやさしく起こす古都の風
ジェラシーを包み隠している笑顔

炉端焼今日の愚痴など串に差し
四畳半炉端があれば優雅です

本音聞く時機をはずしたまま天に
隠しても笑っていない保証人

由一

ズボン穿く片足立ちになるスリル
C調の自慢話に水かける

年輪を加え来月還暦だ
再稼動原発信じる安全化

子と孫が老舗を継ぐと言ってくれ
宿題は孫とコロポの夏休み

公平

外は雨つるりとびわの皮をむく
ひよいと来てひよいと帰った赤トンボ

炉端焼冷えたビールが性に合い
再稼動原発信じる安全化

母を見るコロポは姉に主導権
世界中コロポ出来れば平和来る

直子

爽やかな二十歳恥ずかしい大人たち
節

若者を加え自治会走り出す
マドンナの加入が増やす趣味の会

子の受験家族コロポの旗を振る
充電はあれもこれもと命の腑

志津子

重信

二次会に上司加わりさつと退け
加齢だと医者ひとことで片付ける

究極のコラポご飯に生卵
生きたいと乱れ乱れた母の文字

裕之

シマ子

シルバーグレイ若者よりも意欲的
シルバースhirtにまた頼るまい空感張

大地震一瞬にして世が乱れ
いい夜風ちよつと乱れてみませんか

重信

ドキドキを携って見ればセピア色
穢

銀幕のスターも老けて安堵する
銀シャリを食べてホロリとしたあの日

後頭の髪の乱れを笑う月
悔しさはその夜の日記字の乱れ

隆昭

真実を真綿に包み幕を引く
男なら泣くな泣くな泣いた母

銀世界すべてを隠す世の無情
銀がいいまだ金になる夢がある

波平の髪の乱れが気にかかる
まつお

日の出

真つ白でないが優しい再生紙
官僚のブレーキみんな錆びている

シルバースhirtにまた頼るまい空感張
銀幕のスターも老けて安堵する

生きたいと乱れ乱れた母の文字
大地震一瞬にして世が乱れ

雅美

福西茶子選

シルバーグレイ若者よりも意欲的
シルバースhirtにまた頼るまい空感張

いい夜風ちよつと乱れてみませんか
後頭の髪の乱れを笑う月

美世子

真つ白でないが優しい再生紙
官僚のブレーキみんな錆びている

銀幕のスターも老けて安堵する
銀シャリを食べてホロリとしたあの日

悔しさはその夜の日記字の乱れ
波平の髪の乱れが気にかかる

宏造

真実を真綿に包み幕を引く
男なら泣くな泣くな泣いた母

銀世界すべてを隠す世の無情
銀がいいまだ金になる夢がある

生きたいと乱れ乱れた母の文字
大地震一瞬にして世が乱れ

美世子

福西茶子選

シルバースhirtにまた頼るまい空感張
銀幕のスターも老けて安堵する

いい夜風ちよつと乱れてみませんか
後頭の髪の乱れを笑う月

宏造

真つ白でないが優しい再生紙
官僚のブレーキみんな錆びている

銀幕のスターも老けて安堵する
銀シャリを食べてホロリとしたあの日

悔しさはその夜の日記字の乱れ
波平の髪の乱れが気にかかる

宏造

真実を真綿に包み幕を引く
男なら泣くな泣くな泣いた母

銀世界すべてを隠す世の無情
銀がいいまだ金になる夢がある

生きたいと乱れ乱れた母の文字
大地震一瞬にして世が乱れ

美世子

福西茶子選

シルバースhirtにまた頼るまい空感張
銀幕のスターも老けて安堵する

いい夜風ちよつと乱れてみませんか
後頭の髪の乱れを笑う月

宏造

真つ白でないが優しい再生紙
官僚のブレーキみんな錆びている

銀幕のスターも老けて安堵する
銀シャリを食べてホロリとしたあの日

悔しさはその夜の日記字の乱れ
波平の髪の乱れが気にかかる

宏造

真実を真綿に包み幕を引く
男なら泣くな泣くな泣いた母

銀世界すべてを隠す世の無情
銀がいいまだ金になる夢がある

生きたいと乱れ乱れた母の文字
大地震一瞬にして世が乱れ

美世子

福西茶子選

シルバースhirtにまた頼るまい空感張
銀幕のスターも老けて安堵する

いい夜風ちよつと乱れてみませんか
後頭の髪の乱れを笑う月

宏造

真つ白でないが優しい再生紙
官僚のブレーキみんな錆びている

銀幕のスターも老けて安堵する
銀シャリを食べてホロリとしたあの日

悔しさはその夜の日記字の乱れ
波平の髪の乱れが気にかかる

宏造

真実を真綿に包み幕を引く
男なら泣くな泣くな泣いた母

銀世界すべてを隠す世の無情
銀がいいまだ金になる夢がある

生きたいと乱れ乱れた母の文字
大地震一瞬にして世が乱れ

美世子

福西茶子選

シルバースhirtにまた頼るまい空感張
銀幕のスターも老けて安堵する

いい夜風ちよつと乱れてみませんか
後頭の髪の乱れを笑う月

宏造

真つ白でないが優しい再生紙
官僚のブレーキみんな錆びている

佳句地十選

(8月号から)

福西茶子選

真つ白でないが優しい再生紙
官僚のブレーキみんな錆びている

真実を真綿に包み幕を引く
男なら泣くな泣くな泣いた母

衣替えもうこれ以上脱げぬ夏
いただいた命を守る医者通い

母の背に小さな声でありがとう
もうあかん君に逢わねば気が狂う

病名も忘れて飲んでる薬

栄香

美津子

良子

和夫

三樹夫

克己

重忠

哲夫

野薫

負けられぬ此所は黙つて聞くことに
 耳当てる大樹の鼓動聞いてみる
 野菜にも聞いて下さい出来不出来
 相づちをきつちり打つて聞き上手
 抱きしめて反抗ところで聞いてあげ
 聞く勇氣聞かぬ勇氣のせめぎあい
 付度をしながら聞いておりました
 迷つたらいつも最後は母に聞く
 月命日しみじみと飲む亡夫と飲む
 独り居に好きなビールが弾まない
 三食を二食にしても酒は飲む
 花の下飲めぬ男の芸をまつ
 10 a ぐんぐん田圃清水飲む
 時代劇ちびりちびりと飲む冷酒
 飲み込んだ言葉ねむれぬ喉仏
 塩分の強い井戸水飲み育つ
 監督になりきつちやうのカープファン
 故郷を誉められ温かくなるハート
 もの芽はみな空へ向き幸せを
 期待していちにのさんで見る鏡
 めがまわるまわるのはやいせんぶうき 小二 陽
 ショベルカーよしよとすなをはこんでる三歳ち か

川柳塔なら

大久保眞澄報

慶子 比呂子 笑子 輝恵 千代美 寛 幸 夢香 幸子 汎美 規代 鬼焼 弘子 白狐 敬子 宜之 歩美 厚子 栄恵 史子

口鉄砲返す言葉のマシガン
 お返事を待ち続ける程若くない
 あなたからの手紙何度も読み返す
 山甘く見て意趣返しする雪崩
 悪魔の笛返す女が出た勝負
 返り血を浴びた男の向こう傷
 丁寧にくり返し読む母の文
 人生の夕陽を返す術もなし
 折り返し出来ぬ三途の川渡る
 汗か涙か表彰台の光る顔
 この汗に家族の暮らしかかつて
 厚化粧涼しい顔で汗をかか
 プライドが邪魔して汗はまだ引かぬ
 ボランテイヤ珠玉の汗が美しい
 冷汗の連続あつて今がある
 父母の汗知って進学あきらめる
 バイ菌とバイバイ洗うもみじの手
 バイキンもマンが付いたら人気者
 バイキンも私の憂さも天日干し
 それぞれに病を秘めてじつと待つ
 加齢です医師の顔にも安堵感
 再検査急にカルテが重くなる
 論吉より診察券が威張つてる
 喉を病みばれてしまった二枚舌
 ごめんねと美人ナースの痛い針
 診察室くらしの愚痴も洩れてくる
 診察よりどれだけ長い待つ時間

よう子 理恵 優 國治 美智子 盛隆 万紗子 將文 崇明 萌子 倫 すみれ 恵美子 恭昌 和夫 比呂志 展代 圭 甚之市 ふりこ 美代子 薫 のぶよし 貫一 敬介 光堂 文聡 賛郎

老医師におしゃべりがてら診てもらい
 病名は待合室でほぼ決まる
 恋文をはさんで詩集返します
 壁ドンをしてはならない薄い壁
 過労死をつくる会社の酷薄さ
 薄化粧が引き立てている素肌の美
 源氏名ウスバカゲロウ蟻地獄
 さよならも言えず涙がにじんでた
 ルリ色にもじむ早朝震度6
 元氣だと紅をにじますお婆ちゃん
 薄墨のにじみ見事な書道展
 弁当の包みににじむ醬油あと
 投函の時からわが句べそをかく
 失恋はワーワーと泣きません
 どうけじめついたか父母の笑い声
 白黒のけじめきつちりする頑固
 背筋一本シヤンと伸ばしているけじめ
 茶会席スボン駄目だと但し書き
 採め事のけじめをつけたのは涙
 けじめです辞表いつでもポケットに
 飲みぬめ分食べて元とる下戸さすが
 コロンビア蹴つたさすがは西野さん
 さすががプロ塩ふりに味しまる
 響かなくなつたらさつとやめはつた
 マンションのひと部屋ごとにあるドラマ
 断捨離を本気になつて少しずつ

敬子 眞澄 富子 篤報 実 国和 楓楽 裕子 柳修 柳右子 タカ子 あや子 あさ子 東風 勝弘 恭昌 ひさ乃 シマ子 忠昭 郁夫 直子 いさお 和雄 弘子 栄子 なぎさ ルイ子

辰雄

余震まだ続いて乗れぬエレベーター
言葉の海もがきあがいて五七五
お月さま嘘つく国になりました
沙羅双樹しきりに思う母の事
讚美歌と般若心経コロボさす
虫達の立入許可は網戸まで
立ち止まりわがゆく末を考える
15歳どの分野でも芽が育つ
空泳ぎ海に湧く魚か雲になりたいな

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

まん画を見都会の今を勉強し
逆ねじを食わせ屁理屈たけている
ワンコインのフリマ衣装で医者通い
中古でも故障はないと古い二人
耳朶状なるまで宥めます団子
中古品ねらって高くつく修理
AIに漫画の筋を依頼する
宥めるより煽ってやっただ痴話喧嘩
沖繩は漫画に出来ぬ過去の傷
ご先祖の魂宿る古い家
今日もまた漫画のように生きてやる
右の膝宥め左の膝叱る
見てごらん漫画が未来語ってる
鬼太郎もねずみ男もジゲおこし
アンパンマン描いて食パン食べてる児
古稀だって鉄ととほとは野良を踏む
不器用にとほとは生きた足の裏

柳伸 柳伸 弘委智 たもつ 志華子 克己 篤 峰子 一步 亜成 好幸 大鯨 孔美子 盛桜 弘子 実満 裕 重忠 照彦 和道 文道 完司 草文 すみれ みさ子 かおる 満

腹の虫宥めすかして今日生きる
名人は先手の歩から勝負よみ
もう一度宥めてみたが花は散り
とほとと歩いて居場所さがしてる
四コマを描いて楽しく生きてる

わかあゆ川柳会(鳥根) 松本はるみ報

下ばかり向いても石につまづいて
つくづくとおとろいて見るこの歳で
ワイドショウつくづく金の事ばかり
たたみ敷つくづく思う過ぎし日を
朗朗と出雲追分気持よく
やがて春試し試され靴を履く
二三日声を聞かぬと気にかかり

川柳塔唐津(佐賀) 仁部 四郎報

若者の組む長い足迂回する
閉校の校歌三代声合わせ
高速度流れる様に上下線
官庁は赤色分子ご敬遠

川柳同友会みらい(鳥取)吉田 陽子報

山陰の温い言葉に風が風ぐ
金正恩裏と表を確と見た
有料と無料取り取り出すマイバッグ
山菜が無料ですと呼び止める
百歳へ所気にせぬストレッチ
幸せはいっぱいあつて気が付かず

小鹿 蟹郎 恒 京 茶子 ハル子 好栄 昌 恵美子 安子 はるみ かつ子 蜂朗 四郎 實 高明 陽子 れい子 章子 和代 菜美 寿々子

もつたないが一粒の米見逃さぬ
どの点だろう星屑の中の友
人事異動酒無くしては語れない
連絡網七変化する摩訶不思議
踏み台にしたまま父母に詫びてない
辛抱が土台にあつて共白髪
妻らしく一歩下がったこともある
何点の妻だったのか墓に問う
見たまんま聞いたまんまを丸く呑む
心から詫びて静けさ取り戻す
反骨の視野に越えたい山を抱く

川柳塔わかやま吟社 小谷 小雪報

降って湧くようないい事ないかなあ
きみの遺影がわたしの中に呼ぶ驟雨
そこからはこらえきれずに空が泣く
星降る日幻でいい逢いに行く
階段を上がりしばらく考える
一月か八月はてな孫を待つ
はてなにはいつもドキドキさせられる
はてなマーク付けて返事は保留する
迷うとは優しい心かも知れず
唐待に怒り悲しむ母子手帳
やさしさが欲しくて入れる隠し味
老かなな僅かなミスが増えてくる
ほんの少しですが続いている募金
かくし味ほんの少しの毒でいい
ささやかな年金ぐらしても詩人

葵 三郎 紫音 華蓮 一眸 和之 陽子 美恵子 安子 游子 公弘 日出男 あきこ 小雪 寿子 紀久子 准一 まさみ ちづこ なる子 知香 秀夫 保輪 大輪 徑子

これっぽっちですがコツコツ貯めました
鈍感も独り合点のお愛嬌

切れ味が鈍い私の舌足らず
糠に釘やはり私の事だった

女には鈍い男が愛おしい
鈍いけど粘り強さが持ち味だ

しあわせは鈍という字じゃ計れない
よしこ

ブラザ川柳(大阪)

梶原 弘光報

明日もね指切りしてよ忘れずに
母さんと約束したのこの小指

米朝の指切り僕も眉に唾
握手より指切り望む核放棄

針千本飲ましてみたい加計の理事
抱き付いて内懐を探るスリ

母の愛探り求める虐待児
ラブレター気障な科白のてんこ盛り

恋文の封をする手がちよい地震え
封切れば母の想いが溢れ出す

拉致家族ただ待つだけのいとおしと
悦 夫

川柳茶ばしら(愛知) 関本かつ子報

歳かいなメガネに入れ歯置いてくる
会見て芯の強さを知らしめる

真ん中において和やかにする笑顔
遣り繰りし赤字脱却もう間近

戦争のようサツカーの凌ぎ合い
かつ子

富柳会(大阪)

関 よしみ報

ライバルに差をつけられて変えた趣味
どん底のある日を変えた師の言葉

残像がまだまだ消えぬ模様替え
振袖や晴れのある日が本鬼門

AIの進化人類脅かす
貧困の森を抜け出た青い鳥

無造作に捨てたある日の紙コップ
ある日から妻が優しくなった謎

しつかりと飲んでしゃべって割り勘で
心地よい風に吹かれるままある日

流した汗がタイアモンドになりました
AIを越えて進化の若手棋士

ある日ふっと口笛吹いているひとり
ピリオドにある日を置いている内緒

天と地はまだライバルのテリトリ
夕陽背に添い遂げるまで影法師

北斎の波はゴッホと帰港する
究極はボタン一つになる進化

天と地を父母にトマトはよく熟れる
欣 森

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兔報

夕日に帆船絵になる景色だと見入る
島一つ運んだような豪華船

混浴は湯気でボヤけてホツとする
過去のことこちゃ混ぜにして怒る妻

二日酔の朝こそ旨い混ぜ御飯
則 彦

気にするな大丈夫だと嘘混ぜる
糠床をかき混ぜながら独り言

甲乙丙混ぜてわたしの通信簿
記念日は何時も変らぬ混ぜ御飯

純粹の日本人などどこにいる
もちもちを味わい楽しむ旅みやげ

何もかももちもちが好き日本人
もちもちの赤子のホッペそつと押し

もちもちの赤子のお尻プリンだね
お昼寝の子にべつたりと玉の汗

うどんより夏はそうめんお中元
川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

格安旅行毛皮店にも連れてかれ
やさしくてうっかり者でがんこです

坊さんが儲かるなどと口にする
雨地震親父無事かと電話なる

うっかりをしつかりにする葉欲し
味のある台詞が客席引き締める

薄いけど二枚目の舌ははもつ
外国客話せなくてもゼスチャヤーで

招き猫客を選ばず呼んでる
梅雨が明け何処へ行ったか雨蛙

流しそうめん幸せ色のはしゃぐ児等
塩分も酒も控え目妻の愛

玉手箱楽しましてるハヤブサ2
喋っても関心薄い夫婦間

深夜便しずかに流れ夢の国
紀 華

美佐子

郁子

黒兎

桂子

孚彦

守啓

純子

信男

一弥

春代

柳童

菊江

雄次

健二

初音

富夫

初音

雪菜

真桜子

りこ

柳明

新録

つな子

ひろ介

(入)修平

たみえ

紀華

好きだから水に流した過去の恋
美人は薄命と嘆く母卒寿

すんなりと本音が言えた薄明り
宝くじ一枚を買おうしぶい客

任せると叩きたいけど薄い胸
聞き流す事を覚えた五十年

満足度チェックしている顧客の目
タマは猫缶僕はツナ缶酒を飲む

流水が橋桁を囁む渡月橋
男の敵が発明をした袋とじ

横着を加速させてる無洗米
うすつべらでした私のフライドは

廃校に残る尊徳影薄く
嫌味など老人力で聞き流す

しあわせが突然雨に流される
うっかりと猫に洩らした内緒ごと

母の躰折り目節目に顔を出す
笹舟を流し遠い日懐かしむ

名月にうっかり者の雨が降り

川柳さざやま(兵庫) 北澤
みどり風腹いっぱい鯉のぼり
父親は頑張れ母親は無理しなや
暑いからビールがのどに突きあたる
思いたち昔愛した人を訪う
暑い上物が無いのよ最貧国
唐揚げの食感大好きこの歳で
クーラーと猫の足音だけの夜

祐康 花門 千賀子 正和 かずお

(俗) 修平

良種 耕治 英坊 万彩 宏造 ひとみ

紀恵 堅坊 靖鬼 美籠 純夫

こみつ 哲夫

善輔

旅かばん行きも重たいバック酒
ベビー誕生孫一人増え上機嫌
世界中平和の言葉忘れずに
孫四人心の中の宝物

京都塔の会 山田 葉子報

ごめんやで約束は昨日やったナー
ごめんやでその遺伝子はババ似かな
ごめんからなおなお太くなる絆

我慢我慢一年様子見てみよう
階段でしみじみ知ったパワーの差
初めての食感嫌がる離乳食

挫折感全く無いとフリーター
イメージは良いが走らぬ競走馬
イメチェンしても夫は気づかない

ごめんなさいあなたのハートは返せない
ようわからんけどごめんと言っておく
充実感ないまま平成が終わる

見た感だけで貰った嫁が○
居合わせて見て見ぬふりの罪悪感
嬉しくも淋しくもなる孤独感

政治屋で是非もその日の出来心
無慮な男が会議とりしきる
好きなものあきれるほどたべてみる

戦歌戦靴戦火はごめんオキナワ忌
お命を戴きますと踊り食い
最後にはごめんと言わせるのは女
赤信号長く感じる炎天下

剛 喜弘 照代 美智子 光子 哲子 欣之 ルイ子 光久 弥生 福子 五月 満子 多津子 弘之 求芽 かずお 葉子 文代 北舟 泰夫 弘子 とーな 正彦 英旺 保子

感じ良い挨拶される通学路
やっとの思いアナタに贈る感謝状
ごちそうさま静かに箸を置く感謝
イメージがほのぼのと湧く苦勞人
かすみ草ごめん主役に出来なくて
感動は言葉でなくて汗の色

川柳塔まつえ吟社(鳥根) 相見

呆け防止せつせと暇を編んでいる
車やめ暇もてあまし舟を漕ぐ
暇少し貰えば草がぐんと伸び
暇じゃないけど年号考える

マドンナの手が握られるクラス会
グルメより勝つ山頂の握り飯
握手する昨日の恋がまだ温い

握り飯日本の文化だと思ふ
赤ちゃんのにぎにぎをするかわいいな
どきどきの次に始まる不幸

診断をどきどきしめきは恋俺したい
時々メールがわりに置き手紙
米と北水面下でのどきどきは

グロテスクな塊オレの根の部分
物溢れ瘦せてしまった日本の根
根回しは出来たゆつくりお茶にする
本音まで吐ける垣根のない仲間
根のことを大切にすると選ぶ
政治家の根まわし今は意味がない

柳歩報

忠子 万紗子 美津子 則彦 義昭 洋志

徳利 豊仙 俊直 瑞人 弘充 知恵子 米佑 雪代 朋子 青帆 輝山 ひふみ 静枝 芳山 寿代 美智子 桂子 柳歩 俊子

根深くてもどの仲には戻れない
 地の中の根は出しゃばらず花咲かす
 直ぐ怒り直ぐ笑う根のない私
 食み出しの空気広げるイエスマン
 あちこちで空気の抜ける音ばかり

八尾市民川柳会(大阪) 中園

清報

笑つてる裏で本音の探り合い
 七夕の色紙踊らせ笹の風
 あの時ほは笑うことしかできぬ悔い
 スターマイン夏の夜空を焦がす
 幸せの地図描く絵筆の一本気
 よたよたが過ぎて転ぶことしきり
 おかしくもないのに笑えなどと言う
 台風に耐えて黄金の千枚田
 山鉦の雅千年古都の夏
 台風の日になる非核化の今後
 水ささり迷いは夏の風の中
 父祖からの歴史脈々生む大地
 明日のわたし見ているような老母の足
 男対男が往き来する徳利
 万歳のかたちで人間を終える

孝子 耕治
 みちを
 とも子
 草庵
 安男
 千里
 常男
 華
 耀一
 森子
 ダン吉
 高鷲
 寿之
 紀雄
 かこ
 壽峰
 あかり
 欣之
 惠

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤

宏之報

信じても信じなくてもお賽銭
 冗談が言える家族は円満だ
 老いる程母そっくりと娘らは言う
 暮れて往く優しい言葉支えられ

紀の治
 恵子
 治代
 多美子

朝のほとけに逢うますますの眉をして
 生産地きつちり名乗り手を上げる
 息子の孫の可愛い瞳ひと目でも
 スボン穿く片足立ちになるスリル
 真つ昼間に蛙の声が互い呼び
 腐葉土にさせぬ石庭葉の無念
 規制枠軽々超える裏ルート
 田植え季に見える台地に早苗の香
 サーフインに乗って飛びたい広い海
 この年で若者共と草刈りす
 川柳で淋しさ埋める春となり
 転ぶなど云い聞かせつつ転んでる
 母の日の儀式を終えて花安堵
 花の散った椿の葉っぱ声かける
 新緑のみどり色濃くかがやいて

ふうもん吟社(鳥取) 両川

無限報

震災後猫が空き家の主になる
 バーベキューの煙わたしを好きらしい
 見送りの母にお礼を言いそびれ
 太陽も雨も過ぎれば愚痴の種
 仮想通貨ブルーの間に包まれる
 散り際が大事さくらも人間も
 アドバイス耳に痛いが身に沁みる
 いい夫婦日課のようにケンカする
 自由でも言ってはならぬ事もある
 まだ夢があるから服と靴を買う
 貧乏神あなたのせいで頑張れる

千代
 宏之
 あやこ
 雨奇
 美智子
 今位子
 汪
 美佐子
 久直
 かね子
 瑞枝
 章
 美穂
 美草
 菜々
 敦子
 天翔
 勝雄
 昌鼓
 毅
 一粹
 美恵子
 善平
 清信
 幸子
 節子

茄子の花母の小言は真むらさき
 農地に未練持ったまんまに逝った父
 遺産分け田畑山林宙に浮く
 汗出せば農地もやがて肥りだす
 代々の農地我が家の宝物
 荒れ放題農地泣いてる過疎の村
 水田は緑に変わり衣替え
 天高く棚田に若い力見る
 農地より諭吉が好きと子に言われ
 春の陽を打ち込む嶽も手も温い
 田を守る限界ですと墓に詫び
 山も農地も母も故郷に置いたまま
 核のゴミ押し付け合って嫌われる
 人込みに核のゴミなど捨てるなよ
 人間の終着点か核のゴミ
 天秤に掛けても合わぬ核のゴミ
 青い地球にふさわしくない核のゴミ
 レーダーに映りきれない嘘を盛り
 レーダーは帰ってこいと酒席迄
 レーダーにかかる獲物は小者だけ
 レーダーがあるのに道に迷います
 レーダーに追われマグロは大間まで
 レーダーから過疎地の村がまた消える
 嘘をつく舌にレーダーつけておく

半分は私の財産I D K

川柳大阪

森松まつお報

心咲
 茂登子
 振作
 房江
 真智子
 凱柳
 美津子
 一平
 紀美江
 白兔
 義徳
 一瑤
 由美子
 大
 金祥
 孝二
 みゆき
 茶人
 行男
 回春子
 楓花
 蟹郎
 宏章
 無限
 比呂志

計画の五割出来たら良しとする

お湯割は五対五が丁度よい

夫婦道苦勞も幸も半々で

喜びは倍悲しみは半分つこ

無駄のない生活なんてつまらない

試着室夢のじやまする体脂肪

又あかん無駄な努力のダイエツト

冷奴ばかりでファイト湧いてこぬ

災害へゼロから生きる言うファイト

ウチはまだ百年どすえ京老舗

昔のこと覚え今のはすぐ忘れ

古傷をそつと包んで温める

橋藏を語ると銭が飛んでくる

返事せぬ遺影に相談して拗ねる

局地的豪雨が又も町をのむ

一歩

勝弘

福貴子

和

芳香

志津子

かよこ

ゆみ子

賢子

俊雄

美世子

万紗子

まつお

五月

司

戦争に使わぬ寺の鐘平和

子育てに優しい嘘も言った親

象の嘘許し蚊の嘘腹を立て

笑顔する昭恵夫人をつい呪む

神さまに嘘をついたが無事でした

ジャンケンで負けたと酒を買わされる

家計簿と睨みあつても赤は赤

嘘かくす嘘はだんだんかくなる

ジャンケンに勝つて最後の一つ喰う

誰がした嘘つく日本病祖国

ボケてない証拠だ俺は嘘つけぬ

妻の勘ウソ発見器よりよく当る

老い二人あいこばかりで笑い合う

たぬ

葛子

幸安

敏子

一粹

雅女

振作

彰夫

公子

千代

凱柳

真理子

節子

川柳塔さかい(大阪)

内藤 憲彦報

茶呑みの友が出来たと仏壇に言えず

告白してから薔薇は色褪せる

酔った夜の告白鼻であしらわれ

好きですと言えず元号変わりゆく

ありのまま晒してからの神の道

口堅い彼酒三合で落ちよつた

午後二時のビールのおまご存知か

女ひとりプシュッと開けて風呂上り

それがどうした冷えたビールで聞き流す

鈍行の窓を楽しむ缶ビール

似合の夫婦三段腹とビール腹

バスツアーやっぱりビール控えとこ

みつこ

富美子

愿

雅美

志津子

(續) 清

和夫

ばつは

憲彦

ひろ子

五月

玄也

ビール呑める日を指折つて退院日

瓶ビールダース買いする家も減り

大ジョッキ片手で持てぬ歳になり

秒針に綺麗な別れ教えられ

向日葵のかたちの別れ夏の恋

送別会嫌いな部長お元気で

濁流にのまれる別れなんて否

さようなら颯爽家裁出る女

別れたら妻の肉じゃが食べれない

三回忌過ぎ夫は過去の人となり

別々に暮らし時々会っている

まわり皆やさしくなつた日の覚悟

豪雨禍にビール飲んでる場合ぢやう

乾杯で八十路の顔は皆二十歳

地ビールの故郷の麦の香りする

音立ててビール喉元落ちて行く

嫁に來いビールの泡の消えぬ間に

椅子を引く前にオーダーするビール

颯爽と階段のはる意地張つて

逆さ吊りの蝶うまさう一夜干し

さすがやね金はまかせと色男

淋しがり肩をならべて生きていく

さまざまなカルテが抱いている命

西宮北口川柳会(兵庫) 藤井 宏造報

言い訳の中から消えていくホント

この暑さ厚い化粧が垂れ落ちる

ゆみ子

妙子

光雄

佳子

敏治

(向) 清

舞夢

椒子

さくら

八千代

世紀子

誠一

みつ江

洋一

憲

雅明

玲峰

時雄

澄空

美津子

としお

唯教

扶美代

宣子

ひとみ

宣子

岩美川柳会(鳥取)

山下

節子報

ジャンケンに負けて荷物の見張り番

嘘の句を書いたら鉛筆が折れる

嘘をつく口を真つ赤に塗っている

嘘でしよう体重計に文句言う

グーチョキパーあみだ籤より気を遣う

心地良いジャンケンボンのリズム感

威張る人には大法螺吹いて挑戦だ

幼子がジャンケン覚え裏を読む

嘘少し混ぜて話に花咲かせ

ジャンケンに負けてやるのもむつかしい

重忠

完司

一瑤

天翔

一平

ポール

茶子

弘六

美恵子

蟹郎

川柳塔さかい(大阪)

内藤 憲彦報

茶呑みの友が出来たと仏壇に言えず

告白してから薔薇は色褪せる

酔った夜の告白鼻であしらわれ

好きですと言えず元号変わりゆく

ありのまま晒してからの神の道

口堅い彼酒三合で落ちよつた

午後二時のビールのおまご存知か

女ひとりプシュッと開けて風呂上り

それがどうした冷えたビールで聞き流す

鈍行の窓を楽しむ缶ビール

似合の夫婦三段腹とビール腹

バスツアーやっぱりビール控えとこ

みつこ

富美子

愿

雅美

志津子

(續) 清

和夫

ばつは

憲彦

ひろ子

五月

玄也

ビール呑める日を指折つて退院日

瓶ビールダース買いする家も減り

大ジョッキ片手で持てぬ歳になり

秒針に綺麗な別れ教えられ

向日葵のかたちの別れ夏の恋

送別会嫌いな部長お元気で

濁流にのまれる別れなんて否

さようなら颯爽家裁出る女

別れたら妻の肉じゃが食べれない

三回忌過ぎ夫は過去の人となり

別々に暮らし時々会っている

まわり皆やさしくなつた日の覚悟

豪雨禍にビール飲んでる場合ぢやう

乾杯で八十路の顔は皆二十歳

地ビールの故郷の麦の香りする

音立ててビール喉元落ちて行く

嫁に來いビールの泡の消えぬ間に

椅子を引く前にオーダーするビール

颯爽と階段のはる意地張つて

逆さ吊りの蝶うまさう一夜干し

さすがやね金はまかせと色男

淋しがり肩をならべて生きていく

さまざまなカルテが抱いている命

西宮北口川柳会(兵庫) 藤井 宏造報

言い訳の中から消えていくホント

この暑さ厚い化粧が垂れ落ちる

ゆみ子

妙子

光雄

佳子

敏治

(向) 清

舞夢

椒子

さくら

八千代

世紀子

誠一

みつ江

洋一

憲

雅明

玲峰

時雄

澄空

美津子

としお

唯教

扶美代

宣子

ひとみ

宣子

あいこでしよ疑い解けて終の坂
疑いで受けた検査にホツとして
濁流は断りもなく家さらう

背を向ける人には届かない電波
もう一度君と聞きたい波の音

一周しないと気が済まぬウエーブ
小石投げ波紋が憂さを消してくれ

北斎の魂のごと波頭
思い出の時間を止めた大津波

八十を前に大波来よったか
老人の自覚をさせる物忘れ

少年のべたべた汗にある未来
あなたには無茶苦茶言つて甘えたる

育児パパ気軽に替えるよだれ掛け
疑つていた治りましたわ主治医殿

べたべたの汗吹き飛ばす大ジヨッキ
母ちゃんとベタベタの頃懐かしい

ポイントをしぼつて話す出来る人
放課後はしほられやすい顔並び

何歳に見えたと聞きたがるおひと
断捨離も意外と楽しいことでした

お日さまが雲けちらして照り付ける
待つ人が居てくれるから旅つづく

図書館でじっくり脳に活入れる
国難は原発稼働させる国

W杯西野ジャパンの意地を見た
疑うて損をしました一億円

哲子

邦男

みよし

千代

新録

宏造

弘子

朝子

利子

洋次郎

堅坊

千賀子

忠夫

話せばわかる疑問が解けた安堵感
雨やむな相傘で居たいから
認知症疑い深くなっている
気が解ければ歩み寄る両手

川柳藤井寺(大阪)

太田扶美代報

おい妻よ三歩下がってついて来い
首つっこんでくれる町の放送局

常識が首を傾げるトランプ氏
後の祭り首を賭けると啖阿切り

当然の事だが妻はナンバーワン
婆さんはいまだ強く仕切ってる

トランプの強気の一人気ある不思議
碁敵に強気の一手ほぞをかむ

泣くほどでないお母さんの強気
改憲に命をかける安倍首相

首折られる悲しき宿命チューリップ
強気には強気一歩も引きません

頑張った母にあげたい首席の座
角界の強気の力士御獄海

目立たないナンバーツーに甘んじる
傾きを鼻っ柱で持つ老舗

ワンマンにナンバーツーが育たない
源流の青さに誓って首洗う

極悪の刑獄門の晒し首
W杯強気だけでは来ぬ女神

武臣

和宏

千津子

迪

光男

みつこ

堅坊

フジ子

まつお

シルク

一歩

瑠美子

紀雄

城北川柳会(大阪)

戦ない平和を弾みたい地球
よろこびの手毬が弾む呱呱の声

年重ねやさしい光灯せたら
せめてもと父母の墓石光らせる

キラキラの子の瞳には嘘つけぬ
弾む球賭けた青春友偲ぶ

小さな幸心弾ませ生きている
異常気象病める地球の呻き声

柔らかに払えば光りだす未練
声ひそめ朝の空気を一人占め

男ならさばさばゆこう元氣よく
いちばん星が母なら追って行くものを

あらためて原発いらぬ震度6
唇を説いて防護の声を聴く

誰だつて光る才能一つもつ
星空にひと際光る父の星

小石でも光る指輪がまだ欲しい
クラス会弾む話で夜が白む

額突けば苔むす墓に父母の声
立ち止まりまた間に合うぞ四股を踏む

光る汗頼りにしますポランテア
無一文青空友として生きる

塵芥払い傘寿を光らせる
残り火を燃やす黄昏光りだす

正報

朝子

野鶴

杖香

志華子

榮子

寛昭

たもつ

直樹

和夫

弘委智

高志

一歩

近藤

朝子

野鶴

杖香

志華子

榮子

寛昭

たもつ

直樹

和夫

弘委智

高志

一歩

近藤

朝子

野鶴

杖香

志華子

榮子

寛昭

たもつ

直樹

和夫

弘委智

高志

一歩

不様に生きて心の窓は光らせる 賢子

翠洋会(大阪) 大久保眞澄報

涼しい顔して噂の人のお通りだ
生ビール喉ごし涼し生き返る
理恵
役者やなあ涼しい顔で嘘をつく
和夫
浴衣姿みぞれ食べつつ夕涼み
舞夢
信用が目玉で続く老舗の灯
弘子
カロリー計算された三食味気なし
希久子
カロリーを抑えて今日も医者要らず
満作
カロリーをとりすぎ散歩遠まわり
大子
カロリーは他人事ですよく食べる
千枝子
短い余生カロリーよりも好きな物
敬子
高カロリー歩いて減らすダイエット
善之
カロリー計算ばかりしているダイエット
恭昌
五十年夫婦の愛もカロリーゼロ
蕉子
合図しても聞こえぬ見えぬ老夫婦
げんえい
真剣勝負で描いています朝の眉
桃花
身の内の光り丸めて立ち直る
富子
膝痛むこれも生きてる証なり
ふりこ
白昼夢玉虫色の花浄土
志華子
温暖化暦と違う狂う雨
日の出
髪ふり乱し子育てしてた頃が華
楓楽
ほめ言葉ざらり探られていたようだ
眞澄

長柳会(大阪) 辻村 ヒロ報

ばあちゃんの梅干し好きときめかす ヒロ

何事も柳が我が流儀 洋二

今日もまたあちこち痛み医者通い
たけし
垢抜けた姉貴が喋るひょうずん語
純風
鬼嫁も給料袋は拝み取り
たかし
細くとも固くつないだ赤い糸
隆明
探れどもつかみきれない黒い腹
光弘
記念句会長柳凜と三十路入り
直樹
記念の日あの大手術の教訓を
弘美
記念日が何であろうと酒は呑む
正美
ラブレター棺に入れて持って逝く
由夏
封切ったとたんに火傷する秘密
孝代
酒注いで仕事の敵の腹探る
淳司
古里をてんこ盛りした母の文
ふみ
I R ゆめゆめ油断召されるな
和子
金ないが少しばかりの愛がある
正博
菓子折りの底に封筒そうアレだ
ともこ
予定日のおなかでいのち跳ねている
隆彦
被災者に寄り添いつなぐボランティア
登美子
頑張った仕事の汗を知っている
幸子
髪洗い明日へ自分変えてみる
三和子
わだかまり洗い流して雨上がる
英美
頂はまだ高いぞと靴の紐
旅人

川柳さんだ(兵庫) 田中 童子報

賑やかなお通夜天寿の母送り 哲男
かあちゃんもとうちゃんも居る晩ごはん ひとみ
被災地の人苦しめる暑い夜 隆太

もう今は一人居ですの夜明け待つ 美智子

朝刊の音さあ私の夜になる
千代美
寝つけない理由聞いている缶ビール
美籠
こんな夜は蛍一つに息を止め
哲夫
十時には眠っていますからごめん
千津子
薄っぺらい財布からする義援金
宣子
暑くって夏やせしてる夏財布
つな子
不埒にも財布が決めた休肝日
万彩
月末の財布もやしと仲がよい
修平
差し向い口尖らせて朝のめし
野薫
若かった頃は尖って突っ張って
花門
まだ少しブームにして生き延びる
優子
簡素化のブームに乗って逝く仏
一子
バッチからヒートテックで売れだした
祐康
ブームには乗らぬ頑固の自尊心
義徳
だっこちゃんブーム昭和のパラダイス
順子
見逃したふりで泳がす刑事の眼
靖鬼
見逃すわ見返りきつと下さいね
ゆかり
子のサイン見逃さないでスマホママ
堅坊
もうあかん監視カメラに捕まった
武彦
見逃しへ主審の声のけたたまし
徹
なるほどと彼は声のけたたまし
利子
爪痕の被害残して晴れる梅雨
迪
海の日をやっかむ川が大暴れ
好文
判決の下る頃には記憶消え
雅尚
同い年だったんですか死亡欄
耕治
シヨッピングモールは避暑地無料です
健二

ノンアルで酔ったふりする生き上手
ワンカップ幕前で父と半分こ
微々たるも値下げニュースの電気代
赤ちゃんもスマホ持たせにや泣き止まぬ
なんでやねん満員御礼名古屋場所

倉吉川柳会(鳥取) 竹信 照彦報

年一度とは愛おしや天の川
天帝の恐れか七夕の豪雨
七夕に友は元氣か星に問う
七夕に朝霧集め願う笹
野風僧な顔をしている鬼瓦
どことなく野暮な夫でもだあい好き
野育ちにスマホ馴染めずはぐれ雲
生き字引みたいな叔母の野辺送り
晩学の机野の花待っている
厳格な嫉は不良連れている
厳かなオーラ束ねている献花
厳かに退位見守る嫁二代
ちよつぴりの口の歪みに気がついた
少しずつ枯れているのか前頭葉
降るなら降りちよつぴりだけは潤わぬ
葬式にちよつぴり金が足りません
ちよつぴりと毒蛾にふれて一大事
ちよつぴりと真似てみましたフラタンス
よくもまあこんなちよつぴり試食品
年金前ちよつぴり淋しがる財布

紀 恵 厚 子 加代子 正和 節 子 萩 江 日 出 枝 石花菜 紀美恵 恭 子 智恵子 美知江 次 男 野 蒜 雄 大 康 子 龍 枝 醉美蓉 重 忠 祐 子 由紀子 けいこ

ちよつぴりのつもりが今日も酔っ払い
暑い日は下戸もちよつぴり生ビール
サークル檸檬(大阪) 松尾美智代報
難聴も丸い言葉は聞こえます
猛暑を乗り切る勢いつけていく
円満が保てるならば負けておく
丸め込む技術巧妙タバコ吸う
欲しいばい生きて笑って逝くつもり
神様のつくられた種まん丸い
歳より少し若く見られる丸い顔
老境に丸くなる人とがる人
悩みも不幸も丸めて肩籠へ
堅物がひとりいるので輪が出来ぬ

茂 夫 風 露 加お里 扶美代 いわゑ 哲 夫 久仁雄 たもつ 美智代 蕉 子 希久子 楓 楽 柳 ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

トマト一本凜と独立しています
補聴器を入れはつきりと返事する
不運でも開き直れば風変わる
適齢期見合いで決めた良い時代
そつと鍵かけてやりたい妻の口
つころうて聞き流ししてるカタカナ語
誓詞読む不運の序章とも知らず
平等が無理を生ずる孫九人
荒れ狂う拉致の木霊の日本海
生と死の狭間行き交う運不運
覗いてしまえば戻れなくなる魔境

かすみ ルイ子 信 子 尚 世 修 仁 高 鷲 武 彦 壽 峰 亜 成

倦怠期寒い言葉がもつれ合う
終章は独立独歩マイペース
夕やけこやけふつと大人を忘れてる
成り行きに任せて生きる自然体
18歳の君へはおんと古時計
家を出てはじめて母に様と書く
十八の息子の部屋は独立国家
天気図の明日も猛暑に萎える花
いつまでも大人になれぬ野暮もいる
このマナー大人の背中写し出す
国政私物化動機は一つオトモダチ
独立へ花屋が出来る程届く
付度をはかりすぎてるのが大人

壽 子 祥 昭 朝 子 賢 子 郁 夫 弘 一 高 志 弘 委 智 鈍 甲 博 泉 恵 子 敏 夫 としお 邦 子 礼 子 洋次郎 芳 江 道 子 弘 史 博 史 弘 華 和 郎 廣 光

爪痕をあちこち残し梅雨末期
柩席に足を投げ出すエトランゼ
欲しいねん私も佳作天地人
ぼやきつつ涙を見せる話聞く
死刑執行宴席は盛りあがる
髪と爪長く伸びるけど背は縮む
想い出も半分減らしてゆくセピア
研いだ爪ついに使わず丸くなる
掃宅遅い旦那待つ間に爪を研ぐ
ネイルして食事の支度母まかせ
温みある夕陽今夜も抱いて寝る
我が人生折り返し点どこだらう

六甲川柳会(兵庫) 奥澤洋次郎報

敏 夫 としお 邦 子 礼 子 洋次郎 芳 江 道 子 弘 史 博 史 弘 華 和 郎 廣 光

平凡が最高と知る昨日今日
これも愛引つ掻き傷の跡がある
座り悪い椅子も私も老朽化
妻が逝き夫居座る仏の間
傘寿にて分水嶺としておこ
五割引き列が長く諦める
言い訳は半分本音入れておく
カプルの座るベンチが火傷する
爪に火をともし暮した戦後の日
古稀過ぎても半分青いまの俺
ねたきりになつてもばやく母がいる

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

シンクロの金魚の夢は無限大
縁日の金魚すくいの走馬灯
夜店ではヒーローになる子と金魚
猛暑でも金魚一匹涼となる
大海を知らず金魚がでかい顔
トランプの金魚の糞だ安倍首相
アンニユイの午後を金魚と分かち合う
リハビリの一步一步も夢がある
踏まれても寄り添い咲かす草の意地
九条を守るじんだ踏まぬよう
踏み込ませず首相かばった佐川さん
故郷の駅だ喜ぶ土踏まず
拉致の策足踏みしてる時ですか
途中下車覚悟価値観違い過ぎ

じろう 武彦 千賀子 憲三 和宏 保雄 利子 狸月 美穂 盛夫 ひろし
ふさゑ 忠太 カズ子 規予子 さくら 紀雄 ひろ子 隆昭 大輔 英夫 洋二 ゆみ子 信二 五月

清水の舞台飛ぶ気で癌検査
終章に断捨離遺書もとのえて
訳聞いてやつと納得するまさか
死ぬ覚悟強い戦争真つ平だ
そのうちに岸和田弁が標準語
手術室赤いランプがまだ消えぬ
死んでなおアピールやめぬ冤罪を
旅人へアピール北斗七星が
存在のアピールややこ腹を蹴る
糖尿をさも我慢してインシュリン
総理の膝アピールだけでもダウン
投票でちゃんとアピールしています

川柳塔打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

汗だくで行くえを探す家族たち
よく耐える体温よりも暑いのに
にんげんがローソクに成りそうな夏だ
暑くても生きねばならぬもう少し
のんびりと呆けたふりして取り合わぬ
テレビつけマッサージ機で眠ってる
老熱の日々徒然のカフェテラス
金は無いそれがどうした青い空
荒れ狂う自然の力術もなし
週一で荒れて元気を確める
ワイシャツの紅に茶碗が空を飛び
先祖様荒れた田畑でごめんさい
荒れ模様妻次々と変化球

笑司 志津子 玄也 喜代志 義泰 珠子 多喜子 信子 みつ江 和美 丹吉 律雄 久芽代 貴恵 石花菜 美美子 大鯨 義人 宣子 野蒜 清 三津子 泰山 紀美恵 悦子

振り向いてはしくて荒れているのです
情報的大海で荒れてる人の群
妻の手を荒れさせぬよう汗を出す
靴擦れのような気分の一三日
頭髮を季節で言えれば秋深く
髪下し尼になつても緋の衣
野火を消し髪も眉毛も縮れこむ
金正恩の髪型大分なれました
金髪はさすがに居ない大相撲
遠慮なくゴシゴシ洗う散髪屋
山姥と言われぬように髪とかす
人生の秋を知つてる束ね髪
髪少量あかんぼうにも負けている
お日さまの破顔へ笑い返せない

大山滝句座(鳥取) 新家 完司報

怒鳴つたり軒かいたり海坊主
縦糸のあなたに添って五十年
カブセルで臭いも味もせぬ薬
火の君と水のワタシを合わせ縫い
線香花火ボツンと落ちて夏終わる
友情はほころびやすくて縫いにくい
警鐘が鳴つた肥満と尿酸値
縫い合わすことも容易でないハート
花火より娘の帰りに気になった
うるさい最終回の鐘が鳴る
策略はまだ尺玉をあげてから

久江 美知江 芳光 美ツ千 玲坊 滋 重忠 龍枝 昭彦 紀の治 公恵 節子 完司 くらこ 石花菜 寿代 照彦 くにこ 芳光 楓花 正人 麦青 美ツ千

ブラックジャック縫った傷痕履歴書だ
心の隙間をお酒で縫っている
消費期限臭いで分かる大丈夫
汗臭さ取れる暇ないこの酷暑
電話鳴るオーイと妻を呼んでいる
汗臭さ何故か嫌いにならないの
知らぬこと沢山あつてまた燃える
針と糸のような夫婦に成れないか
顔よりも香りで選び共白髪
鴉鳴くおまえは不吉他所へ行け
ベルが鳴る無言電話にかみついた
真夜中に夫が呼んでるベルが鳴る
午前さま古い建具が軋み出す
地球上いつも何処かがキナ臭い
午後七時頃は必ず喉が鳴る

大 鮎
小 鹿
けいこ
風 露
雄 大
昭 子
幸 子
富 隆
野 蒜
久 子
重 忠
鈴 野
清 明
規 雄
完 司

意志表示はつきりさせぬ通り雨
懐メロも二番になるとララララ
安らかな目覚め天使の目と出合う
決めたってすぐ忘れまますた言うて
猛暑日は肉とビールと冷や奴
めぐり逢いのきつかけでしたコンサート
人不足古希も天使になる介護
決めるより決めたい出する日本人
髪カットしてしほり出すカラ元氣
仕事だと思ひ焦らず待つ医院
草むしる汗が煩惱追い払う
決めましたあなたの側で生きること
この極暑天の邪鬼まで暑氣払い
心音は命の鼓動ファンタジー
苦に泣く人を天使はそつと抱いてやる
足を知るきつかけとなる阿修羅の目

美 籠
洋 志
久 子
見 清
美 智 代
宏 子
則 彦
葉 子
耕 治
隆 彦
正 彦
黒 兎
美 佐 子

膨らんだ国債やがてバンクする
月桃は今花ざかり島は夏
栄転へ夢膨らます街に立つ
貶すより褒めてあげたその動機
若者の浴衣姿は愛を見た
親になったただそれだけで頑張れた
シルクロードヘティンの本に逢つてから
初物の桃仏壇に畏まる
桃の香は買う気ないのに手を出させ
暴動の動機はやはり貧富の差
子を見れば親がわかると言うこわさ
逆転へ貰つた命を膨らます
あの時の地震動機で近所の輪
光るもの見つめ前後を見失う
殺人の動機むしゃくしゃ熱帯夜
許してとかなのおけいこ遺書のごと
輪の中で人を見る目が変わりだす
大戦の動機つくつた人は誰
想像のふくらむ森を出られない
お守りの中身は見えない方がいい
膨らんだ夢雲百態と遊ぶ
トンネルに入ったままの米とキタ
いっしょにいたいそれだけのことでした
納涼床桃源郷にいる心地
国の借金とうとう天を突き破る
桃桃桃一個いっこの袋掛け

喜代志
ばっは
秀夫
秀夫
善之
満知子
直子
ひろ子
万作
祥昭
福貴子
ひろ介
常男
茶助
克己
鮎子
珠子
みつ江
紀乃
堅坊
浩子
栄子
眞澄
朝子
たもつ
ダン吉

仲直りきつかけ探る夜の膳
米朝の虹に日本の色が無い
凍てついた心を溶かす里の道
先端に天使が宿るカテーテル
商談のきつかけ逃がす鈍い人
老いを知る小銭ばかりの我が財布
天災は払つてくれぬ傷残す
ゴール前残りちよつとが居を正す
ボランティア老若男女みな天使
無色無臭で私のそばに居る天使

健 二
歌留多
雅 美
求 芽
健 三
真 理 子
時 子
武 彦
満 子
遠 野

あかつき川柳会(大阪) 山本 昌代報
貰ろてんかただそれだけの動機です
朝鮮和平に歴史のドラマ膨らます
濁流がみるみるうちに二階埋め
国欲の膨らむ果てにある戦
私欲ない動機のパワーボランティア
手塩かけ嫁にやるよな桃農家
ボイ捨てはやめようカメラ見ているよ
産み月が追つてパパになる自覚
A Iに見る将来は無量大

一 歩
鈍 甲
武 二
信 二
郁 子
敏 子
清 鷺
高 鷺
壽 峰

膨らんだ国債やがてバンクする
月桃は今花ざかり島は夏
栄転へ夢膨らます街に立つ
貶すより褒めてあげたその動機
若者の浴衣姿は愛を見た
親になったただそれだけで頑張れた
シルクロードヘティンの本に逢つてから
初物の桃仏壇に畏まる
桃の香は買う気ないのに手を出させ
暴動の動機はやはり貧富の差
子を見れば親がわかると言うこわさ
逆転へ貰つた命を膨らます
あの時の地震動機で近所の輪
光るもの見つめ前後を見失う
殺人の動機むしゃくしゃ熱帯夜
許してとかなのおけいこ遺書のごと
輪の中で人を見る目が変わりだす
大戦の動機つくつた人は誰
想像のふくらむ森を出られない
お守りの中身は見えない方がいい
膨らんだ夢雲百態と遊ぶ
トンネルに入ったままの米とキタ
いっしょにいたいそれだけのことでした
納涼床桃源郷にいる心地
国の借金とうとう天を突き破る
桃桃桃一個いっこの袋掛け

喜代志
ばっは
秀夫
秀夫
善之
満知子
直子
ひろ子
万作
祥昭
福貴子
ひろ介
常男
茶助
克己
鮎子
珠子
みつ江
紀乃
堅坊
浩子
栄子
眞澄
朝子
たもつ
ダン吉



平 宗星 選

夕焼けの中に廃墟のビルがあり
 ビル谷間スパイダーマンも通れまい
 人絶えて墓石のようなビル残る
 天下を取ったつもりでしょうか摩天楼
 見下ろされ大阪城も口惜しがる
 お見知りおきをオシャレな野菜ビル育ち
 不夜城に籠る戦士はもういない
 横文字に強いカラスでビルが好き
 屋上の二人に夜が降ってくる
 ご先祖の墓までビルに鎮座する
 夜鳴きそばビル高層に届かない
 天国にいちばん近い部屋に住む
 ビルの裏シーラカンスが飲んでいる
 あのビルの右端辺りにパパがいる
 遊び場がすっかりビルに呑み込まれ
 にんげんがいたのかビルに灯が点る
 炎天にビルの影すら煮え滾る
 ビル谷間老舗女将の力こぶ
 山鉦がビルに負けんと凜と立ち
 愛憎がビルの谷間で息を継ぐ
 何階建て以上をビルと呼びますか
 工事終了ポルト一本残ってる
 朝夕にカラス出入りの秘密基地
 新世紀ビルがだんだん背伸びする
 見上げればバベルの塔が聳え立つ
 照り返しビルで火傷の痕がある
 解体のビルに別れの朝が来る
 殺風景なビルの谷間に虹がたつ
 ビルから見ると我が家の小さいこと
 朝焼けのビルから魔法解いてゆく
 ビル街に働く場所が見当たらぬ
 その先はイカロスとなるビルディング
 佳 満月がビルの谷間で動けない
 佳 崩落はしない記憶のなかのビル
 佳 鈍感なビルはゴジラが踏みつぶす
 佳 ガリバーが跨げないかもしれぬビル
 佳 ペンギンも甚平鯨も泳ぐビル
 人 少しずつビルに囁かれてゆく空
 地 あの世でも白木の箱はビルの中
 天 残されて一番星になった窓

横山 関治郎
 つれづれ
 柝 無扇
 な お
 吉岡 修
 大島ともこ
 山本 進
 板垣 孝志
 米山明日歌
 ホツと射て
 澤井 敏治
 こ み ち
 森山 盛桜
 ベースかめ
 葵
 新家 完司
 素 人
 内田志津子
 松岡 篤
 葱 坊 主
 雨森 茂喜
 渡辺 勇三
 渡辺 勇三
 寺川 弘一
 小泉 重夫
 辻内 次根
 ちゃくし
 柳田かおる
 山本 昌乃
 青砥 和子
 石森あやみ
 怜
 麦 乃
 雨 径
 十六夜
 西山 竹里
 丹下 凱夫
 雨径
 三好光明
 西沢業火

柝尾 奏子 選

直角にビル街の夜が明けていく
 あちこちにバベルの塔が建ち始め
 ビルらしく黙って立っていきましょうね
 高層のビルが隣りを威嚇する
 天下を取ったつもりでしょうか摩天楼
 頂点の乾きを知ったノッポビル
 ビルになる夢温めている積み木
 ビル街を遠目に実家古きまま
 信長に見せてあげたいあんなビル
 また一つ風景変えてビルが建つ
 酸欠のビルに優しい雨が降る
 ビル風は景気不景気知っている
 ビル風を持って行かれた片思い
 去年まで見えた花火を消したビル
 おじいさんもう止めなはれポティール
 大阪城ビルの間にちり見え
 非正規は見たこともない本社ビル
 カードキービルへお盆の墓参り
 世の中のどんなビルにもある二階
 にんげんがいたのかビルに灯が点る
 我が町でいちばん高い五階建て
 通り雨グラデーションのビルになる
 ビル群の夜景を映すサクソフォン
 ビルの窓ラジオ体操午後三時
 屋上に植物園を載せたビル
 肉体美求めて励むポティール
 くちビルがひとつ描かれたお品書き
 支社勤務近くて遠い本社ビル
 ペンギンも甚平鯨も泳ぐビル
 震度5によろめいているビルの群れ
 残業のビルの窓から遠花火
 誇らしく背丈を競う都市のビル
 佳 ビルだってため息をつく夜十時
 佳 またビルが建ちます世界狭くして
 佳 連休のビルはあくびを噛み殺し
 佳 ビル風の孤独へヒール響かせる
 佳 押しなれた木のドアがある雑居ビル
 人 幽霊も神様もいる雑居ビル
 地 その先はイカロスとなるビルディング
 天 かくれんぼしましょうあべのハルカスで 丹下 凱夫

かきくけ子
 柝 無扇
 乙川 初音
 柳谷 益弘
 な お
 武本 碧
 橋倉久美子
 山川 守
 絹田 あさ
 浮世つ子
 平井美智子
 白鳥 象堂
 こ み ち
 心 咲
 水野 黒兎
 上平 祥
 吉崎 柳歩
 谷口 修平
 西山 竹里
 新家 完司
 新家 完司
 田村ひろ子
 たごまる子
 春川 秋男
 坂本 加代
 田原 勝弘
 斉尾くにこ
 門田 吉雄
 丹下 凱夫
 光畑 勝弘
 野平光太郎
 野平光太郎
 汐海 岬
 海賊 芳山
 光畑 勝弘
 真島美智子
 怜
 勢藤 潤
 怜
 丹下 凱夫

投句方法 【川柳塔】を検索→【川柳塔 WEB 句会】をクリック

senryutou.net/html/index02.html

(サイト管理 森山文切)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳 とんだばやし 富柳会	15日(土) 出句締切13時 第68回富田林市民川柳大会	富田林すばるホール2階小ホール 詳細は本誌9月号41ページ参照 〒584-0043 富田林市南大伴町4-1-10 池 森子
川柳塔 みちのく	15日(土) 17時締切 不向き・ちらっと・ベット	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-36-6614 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 ねやがわ	16日(日) 13時締切 席題・守る・教える・勢い・自由吟	寝屋川市 産業会館 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳 藤井寺	16日(日) 14時締切 レトルト・正体・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・シュラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	17日(月) 13時締切 袋・割れる・ペコペコ・暗い	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 地下鉄谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
豊中 もくせい 川柳会	17日(月) 13時50分締切 平均・外す・忙しい・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 さんだ	18日(火) 13時30分締切 我慢・伸ばす・シニア・下り坂・自由吟	キッピーモール (JR三田駅前) 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
川柳 たちばな	19日(水) 13時45分締切 印象吟・子(互選)・貰う 自由吟	立花公民館(尼崎市塚口町3-39-7)TEL06-6422-6741 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造 TEL06-6494-5187
川柳塔 すみよし	22日(土) 14時15分締切 効果・けち・燻ぶる	住吉区民ホール 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
岸和田 川柳会	22日(土) 14時締切 虫・比べる・思わず・ジグザグ	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
和歌山 三幸川柳会	22日(土) 13時15分締切 いよいよ・バランス・的	和歌山商工会議所 4階 第3会議室 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市民会 川柳会	23日(日) 14時締切 起・寄り添う・サブリ	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北東へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	23日(日) 13時30分締切 自由吟・着地・デコボコ 産気づく	開発ビル 2F (鳥取市片原1-107) 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
京都 塔の会	24日(月) 14時締切 チェック・着・ぞっこん・席題	京都ハートピア 地下鉄「丸太町」駅⑤出口すぐ 〒607-8231 京都市山科区勤修寺堂田70-16 梶本宏子 TEL075-591-0424

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

9 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
城北会 川柳会	1日(土)14時締切 沈む・ぴったり・浅い・自由吟	旭区老人福祉センター 3F 地下鉄谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
倉吉会 川柳会	1日(土)14時締切 ごしごし・お互い・出来る 席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 まつ 吟社	1日(土)13時30分締切 近所・グルメ・気配・歌	松江雑賀公民館 〒690-1223 松江市長保岡町笠浦222-1 相見柳歩
川柳塔 な ら	6日(木)14時締切 涼・すいすい・災難	奈良市立中部公民館 4F 近鉄「奈良」駅④番出口 徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787 松本方 安土理恵
川柳大阪	8日(土)14時締切 茶・謎・歓迎	地下鉄・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
六甲会 川柳会	8日(土)14時締切 漲る・新鮮・しっぽ・自由吟	六甲道勤労市民センター 5F E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川柳塔 打 吹	8日(土)13時30分締切 旅・撫でる・大胆・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川柳会	9日(日)14時締切 代理・やっぱり・吸う・雑詠	渋川町。安中町集会所・JR八尾駅5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川柳塔 わかやま 吟社	9日(日)14時10分締切 兼題：お裾分け・鼻唄・灸 課題吟：寿司	和歌山商工会議所 TEL 073-422-1111 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪町東2-208-5 楽原道夫
西宮北口 川柳会	10日(月)14時締切 シルバー・冴える・ぬらりくらり 自由吟	西宮市立中央公民館 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる 川柳 同好会	11日(火)13時30分締切 鳥・待つ・すらすら	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳塔 さ か い	11日(火)14時締切 反対・晴れる・折り句：スモト	東洋ビルディング 4F 堺東駅北西改札口から2分 〒599-8103 堺市東区菩提町5-171 矢倉五月
川柳 あまがさき	11日(火)14時締切 泣く・天・すごい・自由吟	尼崎市女性センター・テレビエ 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造 TEL.06-6494-5187
あかつき 川柳会	14日(金)14時締切 暮れる・丸・配当・時事吟	大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F) 地下鉄「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒581-0014 八尾市中田2-312 前田紀雄

柳界展望

トロントロンに魔法をかける子守唄
★「第11回松江市川柳大会」は7月22日に開催。同人成績。

特選 竹村紀の治
幸せかいオンザロックのひとり言

★「第7回卑弥呼の里女流川柳大会」は7月29日
吉野ヶ里公園駅コミュニティホールで開催。同人成績。

天位 木本 朱夏
昭和平成繕いながらきた翼

★「第65回八尾市民川柳大会」は8月5日プリズムホールで17名の参加で開催。同人成績。

天位 新家 完司
休肝日にしよう明日は原爆忌

天位 岩佐ダン吉
朝顔をさかせた土にありがとう

天位 居谷真理子
狂暴な匂いで芽吹く山の木々

▽出版△
○矢倉五月句集「病む父の代筆父のペンで書く」。

○久保田千代句集「幸せな頃を思えば父がいる」。

いずれも、新葉館「川柳作家ベストコレクション」B6判P95。

定価1200円＋税。

▽削除△
○8月号P30上段20行目の句「心にもアイロンかけて靴を履く」は、本人の申し出により削除。

▼訃報▲
○7月23日、須郷井蛙さん(同人・弘前市)が逝去。享年84。

▽新誌友紹介△
神戸市 大頭としお

紹介者 山崎 武彦

米子市 木村美智子

紹介者 後藤 宏之

竹村紀の治

和歌山市 松本 雅子

紹介者 木本 朱夏

大阪市 立石 郁子

紹介者 川端 一步

青森県 香田 龍馬

奈良市 木本 朱夏

奈良市 中村 明美

八尾市 内海 幸生

八尾市 内海美由紀

鳥取市 内海 幸生

和歌山 和田 笑子

森山 盛桜

松本 雅子

木本 朱夏

立石 郁子

川端 一步

香田 龍馬

木本 朱夏

中村 明美

内海 幸生

内海美由紀

内海 幸生

和田 笑子

森山 盛桜

松本 雅子

木本 朱夏

立石 郁子

常任理事会8月9日
森中ヒサ子

①二賞選考委員・各地柳壇選者について②誌友

大③95周年記念事業基金

④第七回春の誌上大会⑤

高野山合祀祭スケジュー

ル⑥同人総会について⑦

主幹・理事長改選の結果

⑧定例確認事項。

次回常任理事会9月7日

(火)AM10時

次回常任理事会9月7日

第89回奈良県川柳大会

日 時 9月17日(月・祝)11時30分開場
会 場 奈良県文化会館 小ホール
奈良市登大路町6-2 Tel.0742-23-8921
近鉄奈良駅①番出口より東へ徒歩5分

宿題と選者

「模 様」	森中 惠子	選
「スター」	松岡 杏城	選
「揺れる」	安土 理恵	選
「探るす」	安土 鎮彦	選
「潮 時」	那須 欣之	選
「鳥」	土田 美津江	選
「惜しい」	植野 大西	選

出句締切 13時
参加費 1,500円(昼食は各自でお済ませ下さい)
欠席代 定額小為替1,000円同封の上 下記へ
9月8日までに必着。
〒630-8014 奈良市四条大路1-4-52-401
山田 順啓あて Tel. 0742-34-3157
奈良県川柳連盟

主 催

蛸壺川柳社
創立65周年記念川柳大会

日時 9月29日(土) 10時開場
場所 「子午線ホール」アスパシア北館9階
明石市東仲ノ町6番1号
TEL078-918-5600
JR 明石駅より徒歩5分

会費 1,500円
出句締切 12時(各題2句・席題なし)
兼題 (欠席投句拝辞)

「はてさて」 黒嶋 海童 選
「辿る」 原戸 麻也 選
「激しい」 藤原 紘一 選
「都」 長島 敏子 選
「菓 子」 岡田 篤 選
「稀」 長濱 美籠 選
「雑 詠」 赤井 花城 選

*懇親会を予定しています

問合せ先 黒嶋 海童 078-947-4158
上原 翔 078-922-5494

第70回 大阪川柳大会

日時 10月3日(水) 10時開場
場所 大阪市立住まい情報センター
3階ホール

〒530-0041大阪市北区天神橋6-4-20
TEL 06-6242-1160

※地下鉄 堺筋線・谷町線・阪急線
「天神橋6丁目」下車3号出口より連絡

※JR 大阪環状線「天満」下車 北へ660m

会費 1,500円 (発表誌呈)
宿題 (各題2句 席題なし)

「覚める」 植野美津江 選
「靴の中味」 了味 茶助 選
「映る」 桂 晶月 選
「平凡」 大久保真澄 選
「しっとり」 森中恵美子 選
「名物」 久保田半蔵門 選
「踏む」 江島谷勝弘 選

締切 11時 披講開始(予定) 13時20分
賞 各題 秀句に大阪市長賞贈呈(副賞)

主催 番傘川柳本社・川柳塔社・川柳
文学コロキウム・川柳天守閣
川柳瓦版の会

後援 大阪市

第68回岸和田市民川柳大会

日時 10月21日(日) 12時開場
会場 岸和田市立福士総合センター
事前投句 「時代」松崎 大輔 謝選
(締切日9月30日必着・欠席投句
はご遠慮ください)

兼題 「迎える」 梶山 常男 選
「伸びる」 山東日出男 選
「冗談」 新海 信二 選
「ぎょっと」 日野 愿 選
「カラフル」 矢倉 五月 選

出句数 各題2句 欠席投句はご遠慮ください

出句締切・開会 13時 披講14時30分

会費 2,000円(軽食・参加賞・大会誌呈)

事前投句先 〒596-0076
岸和田市野田町2-18-27

雪本 珠子 宛

問合せ先 増田 隆昭 072-457-3266
岩佐ダン吉 072-428-0325

主催 岸和田市・岸和田市教育委員会
参加団体 岸和田川柳会

平成30年度 県民総合文化祭川柳大会

日時 10月28日(日) 午前10時
場所 ひめぎんホール 真珠の間
(愛媛県県民文化会館)

松山市道後町2丁目5-1

第一部 事前投句(各題2句・未発表作に限る)

宿題 「靴」共選 西田恵美子 選
「靴」共選 藤岡 健次 選
「深い」共選 本田 醇子 選
「深い」共選 中野 千秋 選

事前投句締切 9月28日(金) 当日消印有効

投句料 1,000円(書留・郵便小為替)

投句先 〒791-0212 愛媛県東温市市田窪1976-17
野口三代子方 県民総合文化祭川柳大会係宛

第二部 当日投句(各題2句・未発表作に限る)

宿題 「モデル」 永見 心咲 選
「ころころ」 吉松 澄子 選
「刻む」 高畑 俊正 選
「嘘」 柳井美智子 選

主催 愛媛県・愛媛県川柳文化連盟

問合せ先 川柳まつやま吟社事務局(大前)

電話 089-952-6774

95周年記念事業基金御芳名

平成30年7月31日現在 受付順

青森高瀬	青森福士	東京川本	兵庫松尾	三重小河	大阪中島	山口坂本	大阪古今堂	大阪西出	大阪山口	島根黒目	熊本杉野	鳥取森山	高知辻内	青森稲見	佐賀仁部	大阪内海	鳥取新家	大阪平井	兵庫秋元
霜石様	慕情様	真理子様	柳右子様	柳女様	さち子様	加代様	蕉子様	楓楽様	弘委智様	ひでお様	羅天様	盛桜様	次根様	則彦様	四郎様	幸生様	完司様	美智子様	てる様
鳥取山中	大阪中岡	岡山大石	大阪羽田野	大阪吉岡	大阪樋口	奈良居谷	高知小川	佐賀卑弥呼の里川	大阪山本	島根伊藤	和歌山三宅	大阪田中	大阪坂本	大阪榎本	大阪澤井	和歌山木本	和歌山藤本	大阪三好	広島小島
康子様	妙様	子様	介様	修様	眞様	眞理子様	てるみ様	柳会様	希久子様	玲峰様	保州様	廣子様	裕之様	舞夢様	治様	朱夏様	まき様	平様	幸様
京都三宅	大阪酒井	愛媛中居	愛媛原	岐阜板山	大阪北澤	大阪原田	愛知山本	大阪富山	奈良渡辺	愛媛栗田	大阪鶴田	奈良阿部	鳥取橋本	大阪木見谷	岡山藤井	島根松本	大阪内田	大阪北村	鳥取中村
満子様	紀華様	善信様	つくし様	まみ子様	稠民様	すみ子様	三樹夫様	ルイ子様	富子様	忠士様	遠野様	紀子様	整様	孝代様	史様	文子様	志津子様	賢子様	金祥様
大阪久保田	大阪山岡	大阪笠嶋	大阪内藤	大阪村上	奈良大久保	大阪江島谷	大阪初代	大阪平賀	大阪川本	兵庫亀岡	兵庫酒井	鳥取竹村	福岡本田	大阪片山	大阪宇都	大阪島田	大阪柿花	兵庫藤井	兵庫田中
千代様	富美子様	恵彦様	憲彦様	玄也様	眞澄様	勝弘様	正彦様	国和様	信子様	哲子様	真由様	紀の治様	さくら様	かずお様	満知子様	誠一様	和夫様	美智子様	章子様

第24回 川柳塔まつり

と き 平成30年10月6日(土)

開場：午前11時 出句締切：正午 開会：午後1時

ところ ホテル・アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12(近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《同人総会・議事》午前10時より

平成29年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

平成30年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし 「自嘲と自慢」 川柳塔社 新家完司氏

兼題 「カラフル」 大阪 平井美智子選

「配る」 広島 嶋田昭紀選

「不思議」 東京 川名洋子選

「芯」 大阪 水野黒兎選

「遙か」 奈良 大内朝子選

事前投句 「男と女」(9月1日必着) 川柳塔社 主幹 小島蘭幸選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正午(午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会費 2,000円(当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎呈 記念品

《懇親宴》

と き 平成30年10月6日(土) 午後5時～7時

ところ ホテル・アウィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会費 7,000円 先着申込み 130名様

*事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて9月1日(土)までに本社事務所宛、お送りください。

*懇親宴のご送金(句会費除く)は同封の振込用紙でお願い致します。

主催 川柳塔社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490
振替 00980-4-298479

編集後記

★鯖雲の裏を想像して
ます 薫風

★「激甚災害」と認定された西日本豪雨の犠牲者は8月3日現在で210人を超えた。被災者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。「山の衰えは国の衰えなり」は江戸時代初期の秋田藩家老の言葉。また「山川は国の本なり」は岡山藩に仕えた儒学者の言葉と「木族」という新聞から教えられた。その上に連日の猛暑である。地球に何が起こっているのか。私たちに何が出るのか。考えたい晩夏。

★7月号で「創立95周年記念事業基金のお願い」を致しましたところ同

人、誌友の皆さまからたくさん浄財を賜りました。ありがとうございます。

心より御礼を申し上げます。川柳塔誌が電子化されることにより、私たちの作品は永久に記録として残されます。83頁「川柳飛行船・電子化事業こぼれ話」をお読み頂きますと、電子化の意義がよくご理解頂けるかと思えます。電子化は始まったばかりです。ご期待ください。

★8月号編集後記「編集部員十二個の眼玉は節穴だった」を読まれた知人に「私の眼玉は節穴だった」と書くべき」と注意をされた。もちろん「私の眼玉も節穴」が省略されている。森中恵美子先生は「まず巻頭言から編集後記を読む」と仰った。

特養から病院そして特養

事は特養入所の母の救急搬送から始まった。認知症があるので、付き添いなくば、拘束ときた。私自身が嫌な事は母にもしたくない。肺炎である。何故、自分の鼻に酸素チューブがつっこまれていたのか、いったい此処は何処なのか、一秒ごとに記憶の消える母には恐怖の入院生活が始まった。同室患者の舐に、ナースの靴音にも怯え、夜には、人殺し幻

ひとこと

覚を見るようになった。眉間に皺が刻まれ続ける。

付き添いがふらふらになる頃、やっと退院許可が出た。施設に戻って数日で、嘘のように顔付きも穏やかな元の母。ホールの七夕飾りに「なつこ」と歪な平仮名を見た。母に九十二回目、家ではない三回目の夏が来る。誕生会には家族も招待される。母と私の性格はとも良く似ている。母の終章は私の終章に重なる。

(有海 静枝)

心したい。

(朱夏)

○仕事帰りの姉が優先席しながら姉は腰を下ろした。姉は七十六歳。

○折しもその家族は食事の中で(もちろん電車の中である)姉にもおにぎりを差し出して食べるよう勧めてくれた。さすがにそれは丁重に断ったよう

だ。

○困惑気味に立っていた姉に気づいたその中の男性が席を立ち、姉に座れと言う。家族の中に一人混じる事をためらった姉に、尚も座れと勧める

○正直なところ中国人の観光客は評判が良くない。改めて思う。(眞澄)

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限りません。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から15時までにご利用いたします。

作品募集

川柳塔 (8句) 小島蘭幸選
 水煙抄 (8句) 西出楓楽選
 愛染帖 (2句) 新家完司選
 檸檬抄「アンテナ」 () 川端一歩共選
 山岡富美子選
 インスレクションナヒ (2句) 大西泰世選
 一路集 (2句) 「やりくり」 中居善信選
 「珍しい」 関本かつ子選
 初歩教室 「突然」 (3句) 居谷真理子担当

11月号発表 (9月15日締切)

12月号
 檸檬抄「ジレンマ」
 一路集「迫る」「内緒」
 初歩教室「運ぶ」

本社9月句会

とき 9月7日(金) 13時開場・13時40分締切
 ところ アウィーナ大阪 4階 金剛の間
 天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441
 おはなし「しぐれの中へ」 木本朱夏氏
 席題「予」 上田ひとみ選
 兼題「座」 中川ひろ介選
 「成」 「あまあ」 伊田扶美代選
 「逆」 「る」 北野哲男選
 「長」 小島蘭幸選
 会費 1000円
 投句料 500円(切手可)
 (各題2句以内)

本社10月句会は第24回川柳塔まつりとして、10月6日(土)に開催します。
 (本誌P.111を参照して下さい。)

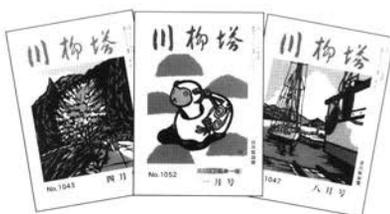
川柳塔WEB句会のご案内

課題「呼ぶ」 □ 平宗星 共選
 梶尾奏子
 締切 9月20日 発表 9月25日頃
 投句料 無料
 インターネットで「川柳塔」を検索しWEB句会をクリックしてご投句ください。

定価 八百円 (送料88円)
 半年分 五千円 (送料共)
 一年分 九千八百円 (同)
 二〇一八年(平成三十年)九月一日発行
 〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一七
 花野ビル201号室
 印刷所 美研アート
 編集人 小島和幸
 編集人 木本朱夏
 発行所 川柳塔社
 電話 〇六六七九一三四九番
 振替 〇〇九八〇四一五八七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒530-0022 大阪市北区浪花町9-4
 TEL (06) 6372-1178
 FAX (06) 6372-1196
 E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

オニザキのプレミアムロースト

つまみま

杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、
香ばしい薫り。舌と記憶に
しっかりと残る、深いコク。
料理をより美味しくする
ゴマを作りたい、真つすぐな
想いから生まれた逸品。
それが「プレミアムロースト」。
素材本来の良さを余すこと
無く引き出した、オニザキの
自信作をお届けします。

株式会社 オニザキコーポレーションセルズ
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL ☎ 0120-30-5050

1講座90分、全40講座をお好きなものから受講できます。

心理学基礎コース

フロイト、ユングや話題のアドラー心理学、
箱庭療法やコラージュなどアート系の学び
知りたかった「こころの不思議」を学べます。

春開講
受講生
募集!

経験豊富な講師陣から、心理学の基礎を
見て、聴いて、声に出して、全身で体験
しながら学んでいただけます。
初心者の方がたくさん来られる講座です。



箱庭療法の講座で実際に作ります。

無料体験講座お申込み受付中

心理学基礎コースや、こころ学びのことがよくわかる
無料体験講座を実施しています。下記URLまたは
QRコードから、お気軽にお問い合わせください。

<https://www.kssc.or.jp/?p=6421>



お申し込み・お問い合わせ

公益財団法人 関西カウンセリングセンター

TEL 06-6809-1225 FAX 06-6809-1226 MAIL koza@kssc.or.jp

HP <https://www.kssc.or.jp> 関西カウンセリングセンター | 検索

〒530-0047 大阪市北区西天満 2-6-8堂島ビルディング5階

▼京阪本線・地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」①番出口より
北へ5分

▼京阪中之島線・「大江橋駅」⑤番出口より北東へ3分